ハ中央ニアリテ腰ハ緋色**ビロード**張リ、金紐裝飾ヲ付シ、腰以上ノ羽目及引戸鏡板ニハ精巧ナル四季花鳥ヲ織出シタル綴錦ヲ張リ、框枠類ハ總テ朱漆仕上トシ金鍍金透彫ノ金具ヲ打チ尙桁等ニハ螺鈿製飾ヲ施セリ

別項ニ述ブル如ク椅子四脚、長椅子一脚、卓子一基ヲ備フ

女官候所、女官控所モ略同樣ノ構造ナリ

第二　特別修繕ヲ施行シタル事項及關係圖

本車輛ハ皇后陛下ノ御乘用ニ供セラルルヲ以テ聖上陛下御乘用車ト同樣入念修繕施行ノ要アルニ依リ現車ノ檢分修繕事項ノ決定等全ク第十二號御料車ト同一ノ機會ニ於テ宮內省其ノ他ト打合ヲ遂ゲタリ、今各室ノ修繕事項ヲ詳記セバ左ノ如シ

(イ)　御座所

從來ノ御椅子中陛下ノ御椅子ハ稍長キモノニシテ車輛上ニ於ケル御乘用ニハ不適當ナルモノト認メラルルヲ以テ之ヲ取替フルコトトシ同時ニ臣下用椅子三脚モ同一寸法ノモノニ取替ヘタキ宮內省ノ要求ニ依リ新調ス、裂地ハ燕脂色ニシテ唐草模樣ノ地紋撚斜子地ニ御料ノモノハ鴛鴦模樣ヲ、他ノモノハ石竹唐草模樣ヲ刺繡セルモノナリ又長椅子モ新調スルコトトナリ同一ノ裂地ニ石竹唐草模樣ヲ刺繡セルモノヲ使用セラレタリ、椅子ハ宮內省、裂地々紋及刺繡ノ圖案ハ川島甚兵衞ノ設計ナリ、長椅子ハ車室外ニ於テ組立ヲ爲ストキハ御座所ニ搬入シ得ザル虞アリシヲ以テ特ニ關係納人ヲシテ此ノ點ニ付遺漏ナカラシムル樣注意シ置キタリ

床敷物ノ取替ヲ爲ス、裂地ハ毛織物トシ川島甚兵衞設計ノ圖案ニ依レリ、尙**クッション**モ新椅子ニ合セテ新調スルコトトナリ陛下御用ノモノ表裂地金錦雲鶴ノ刺繡仕上ニシテ、其他ハ表裂地金錦菊模樣刺繡仕上ゲノモノ二個、同花筏模樣刺繡仕上ノモノ二個、同蝶模樣刺繡仕上ゲノモノ二個ニシテ總テ角形ナリ

(ロ)　御化粧室

腰掛裂地及ビ**クッション**取替ヲ爲ス、腰掛裂地ハ鹽瀨地柳櫻模樣ニシテ川島甚兵衞ノ圖案製作ナリ、**クッション**ハ錦小癸地緣唐草模樣圓柱形ノモノ一個トス

床敷物ノ取替ヲ爲ス、裂地ハ毛織物トシ川島甚兵衞設計ノ圖案ニ依レリ

(ハ)　御　厠

御厠ヲ水洗トスルコトニ宮內省側ノ希望アリタルモ構造上困難ナルヲ以テ其ノ旨同省ニ申出デ該裝置ヲ施行セザルコトトシ皇后陛下御使用ノトキハ宮內省調達ノ置便器トシ若シ皇太后陛下御使用ノトキハ從來ノ儘トスル事ニ兩樣ノ場合ヲ豫定シテ工事ヲ爲スコトトナリ此ノ爲メ替絨氈ヲ準備スル豫定ナリシガ後ニ至リ絨氈ハ兩者ノ場合ニ對シテ同一ノモノニテ差支ナキ設計ニ變更セラレタリ、然シテ置便器ヲ御厠ニ裝置スル爲大井工場ニ於テ特別ナル臺ヲ製作スル必要アリシヲ以テ同工場ハ現品ノ假交付ヲ受ケ置臺ヲ製作セリ

(ニ)　女官候所

床敷物及腰掛裂地ノ取替ヲ爲ス、床敷物ノ地及色ハ御座所ノモノト同一ナル毛織緞通、但シ無地トス腰掛裂地ハ鹽瀨地立湧模樣ニシテ川島甚兵衞ノ圖案ニ依レリ

(ホ)　女官控所

床敷物及腰掛裂地ノ取替ヲ爲ス、總テ女官候所ト同樣ナリ

(ヘ)　呼鈴裝置

呼鈴及**ブザー**ハ女官控所ノ妻側窓橫吹寄上部ノ位置ニ取付ケ所要ノ呼鈴及**ブザー**ハ孰モ直徑五〇粍

高サ二五粍ノモノトセリ御座所ニ新設ノ押釦ハ左記圖面ノ通トシ御椅子右手ノ吹寄下窓帯ノ中央部ニ取付ケ車輛ノ左右兩側對稱ニ各一個トシ押釦枠ハ窓帯塗色ト同色朱漆仕上トシ釦ハ赤珊瑚トシ釦枠ヨリ突出セシメザルコトトセリ此等ノ新設スベキ電鈴**ブザー**及押釦ノ電線**ツナギ**ハ左記參照附圖ノ通施行セリ

參照附圖
作第二十四圖　押釦　VD—七六三七
作第二十五圖　電鈴回線**ツナギ**　六六—三六〇

（ト）塗粧

外部ハ上部菊花御紋章及鳳凰ヲ取除キ金模様ハ雷紋ヲ廢シ第十二號御料車ト同様ノ簡單ナル線模様ト爲ス

（チ）其ノ他

一　各室ノ**カーテン**取替ヲ爲ス裂地ハ第十二號御料車用ノモノト同様淡緑色段精好ヲ使用シ且紗ノ網戸モ第十二號車ト同様金網戸ニ變更セリ

一　内幌櫛上飾板、絞幕房付絞紐全部取替フルコトトセリ

第三　材料準備、工事工程及試運轉成績

（イ）材料準備

第八號御料車特別修繕ニ要シタル裂地類其ノ他別表ノ通ニシテ此等ハ總テ本省ニ於テ準備購入ヲ爲シ現品ハ第十二號御料車用材料ト同様大井工場ヘ直納セシメタリ

第8號御料車用椅子及裂地

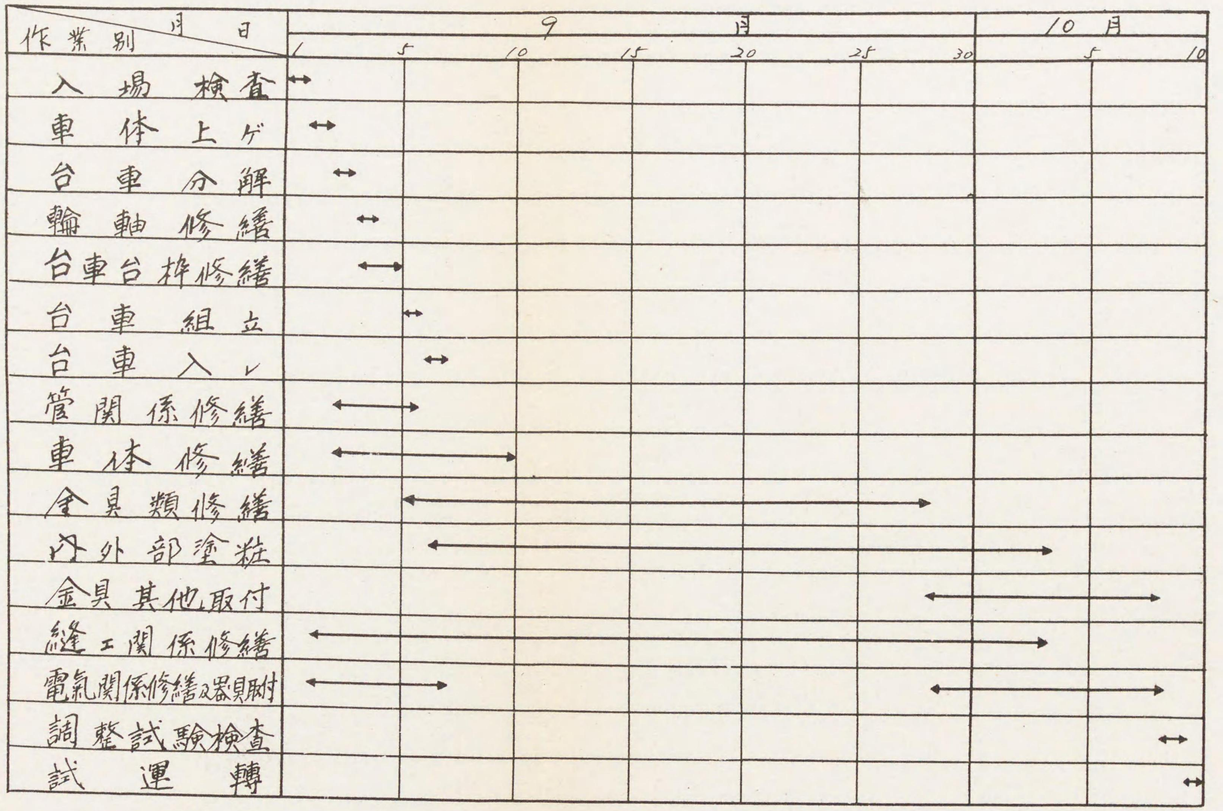
使用箇所	幅	長	數量	記事
御座所御椅子	—	—	4	小澤愼太郎調製（除裂地）
〃　御長椅子	—	—	1	
〃　御椅子及御長椅子裂地（刺繍入）	尺 4	尺 72	1	川島甚兵衛調製
御座所同上用**フレンヂ**緣撚紐	—	—	—	小澤愼太郎商店調製ノモノトシ上記御椅子完成ニ必要ナル寸法及數量トス
御化粧室腰掛及椅子張地	2.35	38	1	
同上腰掛前用裂地	.85	5.4	1	椅子張地出來ノ上其ノ色合ニ適スル様調製ス
フレンヂ	—	6.85	1	
〃	—	6.85	1	
丸紐	—	5.4	1	
寄掛緣	.18	11	1	
〃　平紐	—	22	1	
袖前飾	.19	1.5	2	
金色丸紐	—	6	1	
椅子用平**レース**	—	13	1	
女官候所腰掛張地	2.35	37	1	
〃　**フレンヂ**	—	13	1	腰掛張地出來ノ上其ノ色合ニ適スル様調製ス
丸紐	—	15	1	
平**レース**	—	17	1	
女官控所腰掛張地	2.35	45	1	
〃　**フレンヂ**	—	16	1	腰掛張地出來ノ上其ノ色合ニ適スル様調製ス
〃　飾紐	—	16	1	
〃　丸紐	—	11	1	
〃　平**レース**	—	83	1	

第8號御料車用椅子及裂地

使用箇所	幅	長	數量	記事
御座所**クツシヨン**	—	—	—	
〃　房	—	—	—	宮内省設計別紙圖案及寸法ノ通リトス（鐵道作第 66 號）
御化粧用**クツシヨン**	1.9	2.6	1	
〃　房	—	—	1	
以上裂地類ハ川島甚兵衛調製				
日覆裂地	4′—$\frac{1}{2}$″	3′—0″	6	
〃	2′—6$\frac{1}{2}$″	3′—0″	18	第 12 號御料車用ノモノト同材質ノモノ高島屋調製
〃	2′—$\frac{1}{2}$″	3′—0″	4	
同上用　**フレンヂ**	—	85′—0″	1	
御座所用床敷物	8.6	18.55	1	
御化粧室用　〃	8.01	5.415	1	
女官候所用　〃	8.045	7.685	1	高島屋調製
女官控所用　〃	7.72	6.15	1	
御厠用　〃（御化粧室ト同色ノ無地毛緞通）	5.46	4.43	1	
呼鈴　直徑50粍　高サ25粍	—	—	1	三越調製
ブザー　〃	—	—	2	
内幌用裂地				
絞幕（兩面ノモノ）	2.2	7.5	1	
〃　**フレンヂ**	—	7.5	2ケ	裂地ハ見本通リトス**フレンヂ**絞リ紐（房付）組糸飾リハ裂地トス。同種ノ色糸組ミノモノトス。絞幕。櫛形飾リハ直チニ現車ニ裝置シ得ル樣出來上リ品トシテ高島屋ニ調製セシム。
〃　絞リ紐（房付）	—	—	2	
櫛形飾板用裂地類	3.1	1.7	1	
〃	3	.4	2	
〃	3	1.4	1	
〃　**フレンヂ**	—	7.5	1ケ	
〃　組糸飾リ	—	—	5	

工作號3208

御料車第8號特別修繕工事工程表



1.……御座所、御化粧室、御厠、女官候所、女官控所、床敷物取替
2.……御座所御椅子取替、御化粧室、女官候所、女官控室腰掛裂地取替
3.……御座所、御化粧室クッション取替
4.……窓紗ヲ金網ニ取替
5.……外部塗粧上部菊花御紋章及鳳凰ヲ取除キ第12號御料車ト同様ニスルコト
6.……第12號及第8號御料車ヲ併結御使用ノ場合ニ第12號御座所、皇后陛下用押釦ヨリ第8號、女官控所ヲ呼ブ「ベル」ヲ新設
7.……第8號御座所ニ押釦ヲ新設シ同車、女官控所ヲ呼ブ「ブザー」ヲ新設ス
8.……併結ノ場合ハ第12號南厠側ガ第8號、女官控所側ニ連結セラルルコト

(ロ) 工事工程及試運轉成績

大井工場ニ於ケル本車輛ノ修繕工事工程ハ別表ノ通ニシテ昭和三年九月工事ニ着手シ十月上旬完了左記ノ通試運轉ヲ施行シ其ノ成績孰レモ良好ナリキ

十月十日　品川國府津間
自十月十三日　至同十九日　東京京都畝傍山田間御召列車本編成)
自同廿二日　至同廿八日　同　上(　同　)

(ハ) 其ノ他ノ御料車

第六號御料車　特別ニ修繕ヲ施行セズ

第七號御料車

本車輛ハ御大禮ニハ使用セラレザルモ豫備車トシテ一般定期檢査及外部塗粧ヲ施シタル外特別ノ修繕ヲ爲サズ右塗粧ハ第八號御料車ニ等シク上部菊花御紋章及鳳凰ヲ取除キ金模樣ハ雷紋ヲ廢シ第十二號御料車ト同樣ニ簡單ナル綠模樣ト爲セリ尙第七號御料車ハ便所ヲ置便器用ニ改造シ皇后陛下御用便器ハ在來ノ儘トセリ

昭和三年五月十日大井工場ニ入場同年六月二十三日出場試運轉ヲ了シタリ

第九號御料車

本御料車モ特ニ修繕ヲ施行セザルモ一般定期檢査及外部塗粧ヲ第十二號御料車同樣ニ塗替ヘ豫備車トシテ萬一ニ備ヘタリ

昭和三年五月十日大井工場ヘ入場同年六月三十日出場試運轉ヲ了セリ

第四節　供奉車

第一項　使用セル供奉車ノ形式番號

本車輛ハ第一節ニ於テ述ベタル如ク定期檢査直後ノモノヲ使用スルコトニ決定セルガ本車輛中ニハ十月中旬ニ於ケル陸軍特別大演習ノ際共用セラルルモノモアリシヲ以テ此等ノ關係ヲ考慮ノ上使用車輛ヲ選定スルコトヽシ昭和三年一月二十五日本省ニ工作運輸兩局東鐵工作課及大井工場關係員ノ打合會ヲ開キ左記ノ通形式番號ヲ決定シ且其ノ入出場期日ト共ニ豫メ宮內省ニ通知シ同意ヲ求メ置キタリ、然シテ之等形式番號ハ昭和三年五月達第三八〇號ヲ以テ車輛稱號規程ノ制定ニ伴ヒ孰モ新番號ニ標記書替ノ上出場セシメタリ

大禮ト大演習ニ共通使用セルモノ

新形式番號	稱號規程改正前		
	記號	形式番號	
一二〇	ナイロ	五一五〇	五一八〇
一二〇	ナイロ	五一五〇	五一五〇
一二〇	ナイロ	五一五〇	五一五一
一二〇	ナイロ	五一五〇	五一五〇
一二五	ナイロ	五一五〇	五一五〇
一二六	ナイロ	五一五〇	五一五一

大禮ノミニ使用セルモノ

一〇〇	一〇〇	ホイ	五一〇〇	五一〇〇
一二〇	一二一	ナイロ	五一五〇	五一八一

一二〇	一二七	ナイロ	五一五〇	五一五二
二三〇	二三〇	ナロハニ	五九九五	五九九七
二三〇	二三一	ナロハニ	五九九五	五九九八

第二項　特ニ修繕ヲ施シタル事項

本車輛ノ修繕ハ絨氈、**カーテン**ノ取替電話電鈴幌其ノ他現車ノ狀態ニ鑑ミ又ハ各車編成位置等ニ依リ適當ニ施行スルコトトシ一二五號―一二七號ハ用便板ヲ取外シ得ル樣改造シ一二〇號ハ第十二號御料車ト連結スル樣設備シアルモ他ノ二等車モ第七號御料車ト連結スル場合ナキヲ保シ難キヲ以テ此等ヲ豫想シ電燈線及幌等ノ改造ヲ施行セリ、尙電話機ハ一二七號ト一二六號、一二〇號ト一二一號車ニ使用スル事ニ決定セルヲ以テ大禮使典儀部ト打合セ一回線トシテ設備セリ

第三項　其ノ他

第一　仕切カーテン設備

一〇〇號車一等室ニ仕切**カーテン**取付ノ爲現車ニ付調査セル處二箇所(便所洗面所ト反對寄ノ出入口ヨリ座席三ツ目及九ツ目ノ處)ニ對シ仕切袖及**カーテン**ノ設備アリタルヲ以テ大禮使典儀部ト打合セノ結果中央一ケ所ノミトシ他ハ之ヲ取除ク事トセルモ該既設**カーテン**ハ裂地模樣室內**カーテン**トシテ不調和ナルノミナラズ笹緣ノ褪色汚損等甚シキ爲新品ト取替設備セシモ今回ハ皇族用トシテハ一二六號車ヲ使用スルコトトナリタルヲ以テ**カーテン**ハ取外シ出場セシメタリ、依テ同車內(一等室入口側ヨリ座席四人分ノ箇所ニアル吹寄ノ部)ニ附圖作第二十六圖VD七六三八ノ通リ仕切**カーテン**ヲ新設セリ

第二　消毒器取付

御召列車ニ添乘スベキ關係官ノ保健狀態ニ就テハ健康診斷若クハ保菌檢索等ニヨリ遺憾ナキヲ期シタル處ナルガ更ニ供奉車ノ各便所ニ附圖作第二十七圖VB七一三一ニ依ル消毒器ヲ新設シ之ニ消毒藥ヲ備付ケ箱ノ外部ニ「手指消毒藥」ノ文字ヲ標記シタリ尙皇族用便所化粧室入口ニハ特ニ「皇族用」ノ目標ヲ取付ケタリ

第三　材料準備及試運轉成績

供奉車用トシテ本省ニ於テ準備シタル材料別表ノ通リニシテ此等ハ孰モ高島屋ヲシテ調製セシメタリ

供奉車用織物類

使用箇所	幅	長	數量
床敷物			
茶**オリーブ**色洋蘭模樣毛切	2′—3″	452′—0″	1
窓掛用裂地			
濃金茶**ポプリン**織絹綿交織	2′—1½″	250′—0″	1
同上	2′—0″	420′—0″	1
同上	2′—4″	8′—0″	1
中仕切**カーテン**用			
ホイ 5100號車ノ分　裂地	尺 2.3	尺 6.6	8
〃　笹緣	—	150	1組
〃　絞リ房	—	—	4
ナイロ 5151號車ノ分裂地	2.3	28	2
〃　笹緣	—	100	1組
〃　絞リ房	—	—	2

各供奉車ノ大井工場ニ於ケル入出場期日ハ左記ノ通リニシテ試運轉成績ハ總テ良好ナリキ

番號	入場月日	出場試運轉月日
一〇〇	六月十日	六月三十日
一二〇	八月四日	八月廿四日
一二一	七月五日	七月廿四日
一二五	五月一日	五月廿一日
一二六	五月二十日	六月九日
一二七	六月十日	六月三十日
二三〇	六月廿日	七月十日
二三一	七月廿日	八月十日

第五節　儀裝馬車輸送車(車運車)及馬車台

第一項　總說

儀裝馬車輸送車ノ設計方針ヲ定ムル爲昭和二年十一月二日朝倉車輛課長宮內省ヘ出頭主馬寮庶務課長ト左記事項ニ付打合ヲナセリ

イ　輸送車ハ車體ノ內法ヲ出來得ル限リ大キク爲スコトトスルモ大體附圖作第二十八圖ノ如キ限界ノモノナルコト

(現行貨車ノ縮少車輛限界以內デ設計シ得ル最大內法輪廓圖)

ロ　儀裝馬車中既ニ落成シタルモノニ付測定セル寸法ニ依レバ特別御料儀裝車以外ハ大體右ノ限界内ニ納メ得ルモ、特別御料儀裝車ハ右ノ限界内ニ納メ難キ故格納ノ際ハ臨時ニ直徑ノ小ナル車輪ヲ取付ケ屋上ノ鳳凰ハ取除クコト

ハ　設計上尚詳細ナル調査ヲ要スルニ付儀裝馬車ノ種類毎ニ測定寸法ヲ記入セル圖面ヲ送付願フコト

右打合セニヨリ宮内省ヨリ送付セラレタル圖面ニ付調査ノ結果左ノ通リ設計方針ヲ確定シ十一月二十一日其ノ旨主馬寮庶務課長宛通知セリ

一　特別御料儀裝車

イ　屋上鳳凰ハ格納ノ際取除キノコト

ロ　車輪ハ直徑ニ於テ一尺六寸縮少セル臨時ノモノヲ御使用ノコト

ハ　臨時車輪兩側間ノ距離ハ外側ヨリ外側迄本車輪ト同樣ニ前車五尺五分後車五尺三寸五分トスルコト

二　其ノ他ノ儀裝馬車ハ其ノ儘格納シ得ル設計タルコト

尚今回輸送スベキ儀裝馬車ノ種類及其ノ輛數ハ左ノ通リ決定シタルヲ以テ之ニヨリ設計ニ着手スルコトトセリ

特別御料儀裝車　一輛

騎馭式六頭輓ニシテ屋根上ニハ中央ニ鳳凰其ノ兩側ニ御紋章ヲ取付ク、四周ニ御紋章入菊唐草模樣透彫金具ヲ繞ラス、最大寸法、長サ十四尺六寸七分、幅六尺四寸、高サ八尺四寸七分(鳳凰ヲ取除キタルトキ)ナリ

御料儀裝車　二輛

騎馭式四頭輓ニシテ最大寸法長サ十四尺五寸、幅六尺二寸五分、高サ七尺四寸五分ナリ

座馭式御料儀裝車　一輛

最大寸法ハ御料儀裝車ニ略同一ナリ

儀裝車(供奉用)　一八輛(自一番至一八番)

最大寸法長サ十四尺九寸五分、幅六尺三寸八分、高サ七尺三寸ナリ

御料普通車　五輛(自一番至五番)

主要寸法ハ區々ナレドモ最大寸法ハ孰モ儀裝車ヨリ小ナリ

第二項　儀裝馬車輸送車製作

第一　構造及主要寸法

四輪車ニシテ主要寸法ハ次ノ如シ

最大長(連結面間)七、八三〇粍、最大幅(引戸握棒)二、七五二粍、最大高サ三、八三〇粍、内法長六、九一三粍、内法幅二、三三五粍、内法高サ二、四一〇粍

豪枠ハ十五噸貨車ノ標準形トシテ基本十二瓲長軸附輪軸基本第六種擔バネ(負擔力六瓲ヲ使用ス連結器ハ柴田式下作用ヲ使用シ引張摩擦裝置附トス、空氣制動機及車側制動機ヲ取付ケ空氣制動筒ハKC一八〇粍トス車體ハ鋼製トシ内側木板張リ兩側中央ニ幅一、四〇〇粍高サ二、〇八五粍ノ入口及引戸ヲ設ケ褄ノ一方ハ兩開戸ヲ以テ全部開キ此處ヨリ馬車ヲ積卸シスル構造トス、積卸口ノ幅二、二九五粍高サ二、四九〇粍トス柱ハ山形鋼ヲ使用シ車體ヲ强固ニスル爲**アーチ**形ニ曲ゲ左右ヲ連結シ垂木ヲ兼ヌ屋根ハ厚サ二十粍ノ木板ヲ張リ其ノ上ニ第三種屋根張防水布ヲ浮張トス

兩褄上部ニ各二箇ノ通風用風穴ヲ取付ク側引戸及褄開戸ニハ閉付ケタル場合雨水浸入ノ恐レナキ裝置ヲ施シ夫夫外側ヨリ鎖錠封印ヲナシ得ル構造トス、車内ニハ馬車豪固定裝置及車輪案内ヲ設備ス、特別御料

儀裝車ノ輸送車ハ之ノ外ニ鳳凰箱及車輪固定裝置ヲ有ス。塗粧ニハ**ペンキ**ヲ使用シ車體外側及下廻ハ黑色車體內側ハ褐色天井ハ白色塗トス

本車ノ製作圖面ハ左記ノ通リトス

參照附圖

作第二十九圖　車運車　VA—〇〇三五
作第三十圖　臺枠及空氣制動裝置　VA—二〇三一
作第三十一圖　自動連結器裝置　VB—二一八三
作第三十二圖　車體分解　VA—二〇三二
作第三十三圖　引戸　VB—二一八九
作第三十四圖　棲閉戸　VB—二一九〇
作第三十五圖　車內設備　VA—九〇〇三
作第三十六圖　鳳凰箱臺及馬具掛　VB—九一三一
作第三十七圖　車輪固定裝置　VB—九一三四

第二　材料準備工事工程及試運轉成績

(イ)　材料準備

二月二日儀裝馬車輸送車ノ大體ノ設計ヲ終リタルヲ以テ其ノ製作所要材料ヲ調査シ經理局長ニ對シ左記材料ノ準備要求ヲナセリ

主要鋼材
輪軸
型押物
鑄鋼品
撐バネ
自動連結器裝置用品、空氣制動裝置用品
屋根張防水布

數量ハ廿七輛分トシ所要期ハ五月上旬トセリ

是等ハ孰モ普通車輛用品ナリ

四月七日詳細部分ノ設計進捗ニ伴ヒ更ニ左記材料ノ追加準備ヲナス

部分品用鋼材
鋼**ボルト**鋲類
木材類
彩料類

數量ハ廿七輛分トシ所要期ハ五月下旬トシ孰モ普通車輛用品ナリ

(ロ)　工事工程及試運轉成績

五月上旬大體材料ノ調達ヲ終リ同時ニ製作圖面モ主要部ニ對シテハ調製ヲ終リタルヲ以テ六月一日工事ニ着手シ八月三十日全部ノ製作ヲ完了セリ、其ノ工程及試運轉月日等左ノ如シ

輛數	工事着手	落成	試運轉
八	六月一日	七月廿八日	八月十五日
八	七月十日	八月十二日	八月廿五日
一一	七月廿四日	八月三十日	九月十日

試運轉ハ品川山北間ニ於テ施行シ成績孰モ良好ナリキ

第三項　馬車臺製作

第一　構造一般

儀裝馬車ノ輸送ニ際シ單ニ馬車ノ車輪ニ齒止ヲナシ輸送車ノ床面ニ固定スルトキハ馬車ノ車軸ハ車體ノ全重量ヲ受ケタルマヽ動搖スルタメ車軸ト車軸受金トノ適合部又ハ**ゴム**外輪等ヲ損傷スル恐アルヲ以テ總テ馬車臺ヲ使用シテ固定スルコトヽセリ

馬車臺ハ前軸用、後軸用ニ分レ各擔**バネ**ノ下部ニ於テ馬車ノ車軸ヲ支エ、車軸ヲ全ク浮カス構造トス、馬車臺ノ車軸受ケ部ニハ溝ヲ設ケ車軸ヲ**ジヤツキ**ヲ以テ扛上シ此ノ上ニ載セ小蒲團ヲ掛ケU形**ボルト**ヲ以テ締メ付ケ固定ス、馬車ヲ固定シタル後各馬車臺ハ四本ノ**ボルト**ヲ以テ床面ニ設備シタル馬車臺固定裝置ニ締メ付ケ固定ス

馬車車軸ニ直接接觸スル馬車臺溝及締付U形**ボルト**ニハ黑羅紗ヲ張リ塗粧面ヲ損傷セザルヤウ注意セリ製作圖面ハ左記ノ通トス

參照附圖

作第三十八圖　馬車臺　VB—九一二四

作第三十九圖　同　上　VD—九六二五

第二　工事工程

大井工場ニ於ケル馬車臺ノ製作工事工程ハ左ノ通トス

種別	個數	工事着手	落成
特別御料儀裝車用	二	七月十九日	八月十五日
御料儀裝車及儀裝車用	二〇	七月十九日	八月十五日
同	上	七月三十日	八月廿三日
同	上	八月八日	八月三十日

第四項　儀裝馬車積卸設備

儀裝車ノ積卸シヲ迅速且安全ニ行ハンガタメ特ニ專用ノ縱**ホーム**ヲ新設スルコトヽシタルモ輸送車ニ積卸シノ際ハ**ホーム**ノ端ト輸送車トヲ一定間隔ニ固定スル必要アルヲ以テ**ホーム**端ニハ自動連結器ヲ取付ケ積卸ノ際ハ輸送車ト連結スルコトヽシ七月十八日車輛課長運轉課長配車課長保線課長ニ於テ文書ヲ以テ左ノ通合議決定セリ

イ　**ホーム**端棧板及車運車ノ開戸口ノ構造ハ附圖作第四十圖VB二一九三ニ依ル

ロ　棧橋ノ製作ハ車輛課**ホーム**端ノ設備ハ保線課ニ於テ手配ス

ハ　自動連結器ハ工場持合セノ機關車用ノモノヲ一時使用スルコトトシ其ノ取付ケハ關係局工作課長ニ於テ保線課長ト打合セノ上施行ス

第五項　其ノ他

九月四日汐留驛新設縱**ホーム**ニ於テ特別御料儀裝車一輛、儀裝車五輛、御料普通車一輛ニ就キ積卸試驗ヲ施行セリ、其ノ結果儀裝馬車ノ寸法ハ各車ニ依リ多少相違アルヲ以テ車內設備及馬車臺ハ之レニ伴ハシムル爲馬車每ニ積載輸送車ヲ指定スル必要ヲ認メタルヲ以テ九月五日車輛課後藤技師主馬寮ニ出頭各馬車ニ就キ關係寸法ヲ測定ノ上車運車內設備及用具種別表(附圖作第四十一圖VB九一三五)ヲ作成シ之レニ依ルコトトセリ

尙輸送車ト積載馬車トノ對照ヲ容易ニスル爲褄開戸內外兩面ニ輸送車ノ記號番號馬車ノ種類番號ヲ標記

セリ

儀装車積卸ノ際ノ儀装車固定又ハ解除作業ニ對シテハ特種ノ器具ヲ必要トスルモ此等器具類ハ輸送車ノ車内設備及馬車臺ノ構造ト關係深キヲ以テ車輛課ニ於テ設計シ、所要數ハ運輸局ニ於テ調査シ大井工場ニ於テ製作スルコトトセリ、馬車下廻寸法、器具ノ種別及其ノ構造、用途ハ左記參照附圖ノ通トス

參照附圖

作第四十二圖　御馬車下廻主要寸法　VB—九、一三六
作第四十三圖　ジヤツキ臺　VC—九、三五三
作第四十四圖　ジヤツキ梁　VD—九、六二四
作第四十五圖　ジヤツキ　VC—九、三五五
作第四十六圖　同　上　VC—九、三五六

儀装馬車ヲ輸送車ニ積載スル際、馬車臺ニ依リ固定スルノミニテハ運轉震動ノ爲馬車車體ガ動搖シ支障ヲ起ス懸念アルヲ以テ、十月二日特別御料儀装車、御料儀装車及儀装車ヲ輸送車ニ積載シ、汐留、國府津間ニ於テ實際ノ運轉狀態ニ於テ震動試驗ヲ行ヒタリ、宮内省及當省ヨリ關係官各輸送車ニ添乘シ震動狀態ヲ觀察シタル結果馬車ノ動搖ハ極メテ小ニシテ前記ノ懸念ハ全ク無キコト判明シタルヲ以テ馬車臺以外ニハ固定裝置ヲ施サヾルコトトセリ

第六節　齋田供納米輸送車附同輸送船

第一項　三等荷物車ヲ供納米輸送車ニ改造

本車輛ハ第一節ニ於テ述ベタル如ク農林省側ノ意見ニ基キ客車ヲ充當スル事ニ決定シタルヲ以テ昭和三年度增備トシテ民間工場ニ於テ製作中ナリシ三等荷物車三輛ヲ特ニ入念施行セシメ落成後ハ一般運輸ニ使用セズ直チニ大井工場ヘ廻送セシメ同工場ニ於テ車内設備ヲ改造ノ上御使用ニ供シ用濟後更ニ復舊ヲ爲シ一般營業用ニ使用シタリ

第一　農林省トノ打合要領

兩田供納米輸送施設一般ニ付左記ノ通當省及農林省關係官ト數次ノ協議ヲ遂ゲ且現車ノ檢分又ハ文書等ニ依リ隨時打合セヲ爲シタルガ今車輛施設關係事項ヲ列擧スレバ左ノ如シ

一　打合日時及場所

第一回　二月七日　鐵道省
第二回　四月五日　農林大臣官邸
第三回　五月五日　鐵道省
第四回　六月六日　農林省
第五回　六月十四日　鐵道省

二　出席者

鐵道省側　旅客課長、配車課長、船舶課長、車輛課長外五名
農林省側　農産課長外三名
昭和三年九月二十七日當省及農林省悠紀主基地方關係者大井工場ヘ來場現車ノ檢分ヲ爲ス

三　打合事項

齋田供納米輸送車ハ昭和三年度新製ノ三等荷物車三輛ヲ左ノ通充當ス

野洲京都間　一輛
博多門司間　一輛
下關京都間　一輛

輸送客車ノ設備

一　床荷摺木ハ其ノ儘トシ唐櫃安置部ニハ底板ヲ張リ枠組ヲ作製ス
其ノ配列ハ鐵道省ニ於テ設計シ農林省ト打合ノ上決定ス

二　唐櫃下敷ノ菰白布ハ地方廳ニテ用意ス

三　荷物室内ノ棚並ニ窓、大戸及天井燈硝子ノ保護鐵棒ハ之ヲ取付ケズ

四　幕及メ繩ハ荷物室内ニ取付ケ車體外部ニハ左記表示札掲出ノ外裝飾等ヲ爲サズ(地方廳手配)

五　幕及取付用ノ釘ハ地方廳ニテ用意シ現車ニ取付ヲ爲ス

六　物置室ヲ設置シ其ノ一隅ニ手洗器ヲ取付ク

七　荷物室部ノ東側ニ齋田供納米輸送車タル掛札ヲ掛クル爲行先札ト同ジ札掛ヲ取付ク

八　客室ト荷物室トノ中仕切戸ハ開放ノ儘止メ裝置ヲ爲ス

九　大戸ノ戸袋ハ取付ケザルコトトス

一〇　客車内ノ白布幔幕及メ繩ハ先方ニ於テ準備ノ上取付ク但シ取付用釘等ハ當省ニ於テ設備ス

一一　本車輛ハ省外工場ニ於テ製作シタルモノヲ大井工場ニ入場セシメ大禮關係ノ内部設備ヲ施行シ九月末日迄ニ完了セシム

第二　構造及主要寸法

本車輛ハ日本車輛株式會社東京支店新製ノ**オハニ**三五、五四〇―三五、五四二號ノ三輛ヲ前記打合要領ニ基キ製作セルモノニシテ新製ニ際シ取付ケザル部分品、標記等ノ一部ハ復舊ノ際取付ケ標記スルコトトシ、大井工場ニ入場セシメタル後左ノ通設備ヲ施行ス

(一)　荷物室ニハ左記圖面ニ依リ唐櫃臺ヲ取付ケ其ノ四圍ニハ荷摺棧ノ上ニ床板ヲ張リ詰メタリ

(二)　便所ハ物置室トナスヲ以テ人造石床ノ上ニ床板ヲ嵌込ミ便器穴ヲ隱ス但シ手洗器ハ其ノ儘存置セリ

(三)　間仕切戸ハ鴨居溝ニ木片ヲ**ネヂ**止メニシ全開位置ニ固定セシム

(四)　眞空列車管(蛇管連結器栓等ヲ含ム)ヲ取付ケ且ツ車掌室内ニ**ヴアンヴルヴ**ヲ設備ス

参照附圖

作第四十七圖　供納米輸送車　VC―〇三九五

作第四十八圖　供納米唐櫃臺　VB―九、一三二

其ノ構造及主要寸法左ノ如シ

圖面VC〇三九五ニ示ス如ク魚腹形中梁ヲ有スル四輪**ボギー**鋼製車ニシテ、客室、唐櫃納入室、車掌室ヨリ成リ、最大長一七、〇〇〇粍、最大幅二、九〇〇粍、最大高三、九二五粍、唐櫃納入室ハ唐櫃搬入出ノタメ車腹ニ大引戸ヲ有シ最小内幅(引戸内面間)二、四三〇粍、最小内長六、二七〇粍、唐櫃三個宛ヲ載スル枠臺四臺ヲ設備ス、唐櫃臺ハスベテ白木造ニシテ外幅六九〇粍、外長二、三一〇粍、内幅五七〇粍、内長二、一九〇粍、四周ニ臺底床面上三〇〇粍高サノ欄干枠ヲ附ス

長手枠上ニ片側六個ノ**ニツケルメツキ**環ヲ附シ唐櫃緊縛用ニ供ス

客室ハ三等客車ニ準ジ定員三六名、一隅ニ物置ヲ設備シ、手洗鉢ヲ裝置ス

第三　積込ノ實驗

當初供納米ノ數量判明セザリシヲ以テ大正天皇御即位式ノ場合ニ準ジ總テノ計畫ヲ爲セルモ今回ハ其ノ量多ク從ツテ米櫃モ著シク增加セル爲之ガ配列並積卸ニ困難ヲ感ズルニ至レリ依テ之ガ對策トシテ四種ノ案ヲ作リ模型ニ依リ實驗ノ上決定スルコトヽシ左記圖面ニ依リ唐櫃二個及枠一組ノ模型ヲ大井工場

ニ於テ製作ノ上其ノ積込方法ニ付八月二日大井工場ニ於テ農林省農産課長間部技師同課岡出技師當省朝倉車輛課長參集試驗ノ結果第三案ニ決定セリ

參照附圖

作第四十九圖　唐櫃模型　VC—九三五四

作第五十圖　齋田米唐櫃枠模型　VB—九一二五

第四　材料準備工事工程及試運轉成績

材料準備

本車輛ニ對シテハ特ニ本省ニ於テ材料ノ準備ヲ爲シタルモノナシ

工事工程及試運轉成績

九月六日大井工場ニ於テ工事ニ着手シ同月二十九日落成セリ試運轉ハ十月三日品川國府津間ニ於テ施行シ成績良好ナリキ

第五　使用後ノ復舊

本車輛ハ供納米輸送用濟後再ビ大井工場ニ入場セシメ未取付ノ儘納入セシメタル部分品ノ取付其ノ他三等荷物車トシテノ設備並ニ標記ヲ施シ一般營業用ニ供シタリ

第二項　供納米輸送船

第一　農林省トノ打合要領

汽船内ノ白布幔幕及メ繩ノ張付方ハ先方ニ於テ手配スルコト但シ之等ニ要スル釘等ハ鐵道側ニ於テ豫メ設備ス汽船内ノ設備ニ關シテハ實施上相當具體的ニ打合セタキニ付先方ヨリ來訪ヲ得タキコト

第二　使用汽船ノ選定

農林省トノ打合ニ基キ調査ノ結果下關丸ヲ充當其ノ修繕ヲ繰上ゲ施行シ同船ヲ門司脚船ニ繫留シ置クコトトシタリ

第三　船舶ノ設備

前記下關丸ノ船内施設ニ付テハ農林省關係官ト打合ノ上左ノ通裝置セリ

記

小荷物室ヲ改裝シ其ノ一部ニ壇ヲ設ケテ主基米收納ノ唐櫃ヲ安置スルコトトシ其ノ設備ハ三菱造船株式會社彦島造船所ニ於テ施行セル同船補修工事ノ際同時ニ施工セリ

工事ハ別紙仕樣書並圖面ニ準據シ尙甲板「アスファルト」面ハ黑色塗裝ヲナシ更ニ室内ニハ帆布ヲ敷キ詰ム該工事ハ十月三日着手同月十二日完成シ同十三日下關鐵道棧橋ニ廻航セシム更ニ十四日及十五日ノ兩日ニ渉リ福岡縣出張員ノ手ニヨリ室内周圍支柱外側ニ幔幕ヲ、内側ニ七五三繩ヲ張リ繞ラシ唐櫃用壇ニハ白布ヲ覆ヒ直菰ヲ敷キ總テノ準備ヲ整頓ス

下關丸主基米輸送設備仕樣書

一　艉手小荷物室ノ兩舷中心ヨリ一一呎六吋ノ箇所並前後隔壁内側ニ土臺並鴨居柱等ヲ左記寸法ニ依リ檜白木ヲ以テ新設（參照附圖作第五十一圖及作第五十二圖）

土臺	材料	日本檜	4″×5″長33呎　數2ヶ所
〃	〃	〃	4″×5″長23呎　數1ヶ所
〃	〃	〃	4″×5″長14呎　數1ヶ所
鴨居	〃	〃	4″×4″長33呎　數2ヶ所
〃	〃	〃	4″×4″長23呎　數1ヶ所

〃　〃　〃　〃　4″×4″長14呎　數　1ヶ所
柱　〃　〃　〃　4″×4″長7′—0″　數　12本
但シ土臺ハ二呎半隔ニ立込鐵螺釘ヲ以テ「アスファルト」ニ取付鴨居ノ梁ノ下部ニ鐵螺釘ヲ以テ取付ケタル山型材ニ立込鐵釘ヲ以テ完全ニ取付クルコト
山型材　軟鋼　厚 $\frac{1}{4}''\times2\frac{1}{2}''\times2\frac{1}{2}''$ 長4″　數　18ヶ所

二　唐櫃用枠新設
艉小荷物指定ノ位置ニ附圖ニ倣ヒ唐櫃用枠新設
但シ取付ハ四隅ヨリ甲板裏ニ通ズル螺釘ヲ以テ完全ニ取付クルコト
唐櫃用枠　材料　日本檜　製作數　2組
取付螺釘　軟鋼　徑5″　長9″　數　各4ヶ所
但シ唐櫃用枠組立釘ハ總テ鐵トシ木部ハ塗裝ヲ施サズ白木ノ儘トス
以上ノ製作工事費材料代共)四百三十五圓トス

第三項　其ノ他

本車輛ノ製作ニ當リテハ前述ノ如ク特ニ入念施行スル必要アリ且改造ニ便スル爲日本車輛株式會社ニ對シ其ノ工事要領其ノ他左記ノ通指定施行セシメタリ
清淨ヲ旨トシ特ニ叮嚀ニ工作スルコト
給水裝置ハ前年度ト同樣天井水槽式トス
便器水洗水管ハ天井下瓣ノ附根ニ於テ取外シ適當ナル栓ヲ**ネヂ**止シ置クコト
三等室窓下ノ赤色帶ヲ塗粧セズ兩側一體ニ塗リ潰シ且ツ「荷物」ナル標記ヲ爲サヾルコト
側大戸及戸袋ハ取付ケザルモ鴨居ハ其ノ儘トシ戸當リハ隅金ニテ取付ク
側入口ヨリ車體中央寄第一ノ窓下ニ行先札掛ト同樣ナル札掛ヲ設クルコト
左記部分品ハ取付ヲ爲サヾルモ後日、本車輛復舊ノ際直チニ取付得ラルヽ樣豫メ製作シ置キ現車ト共ニ納入スルコト
(イ)　便器　(ロ)　側大戸及戸袋　(ハ)　荷物室四隅ノ棚其ノ釣　(ニ)　窓及戸ノ保護金棒　(ホ)　天井燈保護金棒　(ヘ)　便所引戸ノ「便所」ナル標記板　(ト)　便所內ノ掲示板　(チ)　便器水洗水管
(リ)　戸當リ隅金(中下位ノモノ)

第七節　機關車其ノ他

第一項　御召及特別列車用機關車

第一　任務別機關車形式番號

本機關車ハ一般修繕施行又ハ新製後經過期間ノ短キモノニ就キ最モ狀態ノ良好ナル車輛ヲ選定スルコトトシ運輸局ニ於テ別表ノ通之ヲ指定セリ

大禮用任務別機關車番號

（括弧内記載ノモノハ稱號規程改正前ノモノナリ）

任務別及所屬局		機關車番號
御召列車牽引用（東京京都間）	東鐵	C 51239 (38938). D 50268 (補) (29967)
	名鐵	C 51263 (38962). C 51271 (38970) D 50240 (補) (29039).
	大鐵	C 51278 (38977)
指導列車牽引用（〃）	東鐵	C 51184 (38983). D 50264 (補) (29963)
	名鐵	C 51223 (38922). C 51201 (38900)
	大鐵	C 51276 (38975)
同上豫備（〃）	東鐵	C 51212 (38911). C 51213 (38912) C 51236 (38935). C 51211 (38910) D 50267 (29966)
	名鐵	C 51264 (38963). C 51265 (38964) C 51266 (38965). C 51246 (38945) C 51272 (38971). C 51226 (38925) D 50241 (29040)
	大鐵	C 51275 (38974). C 51277 (38976)
御召列車牽引用		
京都山田間	大鐵	88638. 88637. 63658 (補)
京都畝傍及桃山間	大鐵	48671. 78678.
原宿淺川間	東鐵	29680. 49673.
指導列車牽引用		
京都山田間	大鐵	C 51276 (38975). 88639. 78658
京都畝傍及桃山間	大鐵	78658
原宿淺川間	東鐵	29681. 79659
同上豫備		
京都山田間	大鐵	48671. 78678. 38621. 63651

大禮用機關車形式別輛數

任務別及所屬局 ＼ 形式		C51 舊形式 (18900)	D50 舊形式 (9900)	9600	8620	計
御召列車牽引用	東鐵	1	1	2	—	4
	名鐵	2	1	—	—	3
	大鐵	1	—	—	5	6
指導列車牽引用	東鐵	1	1	2	—	4
	名鐵	2	—	—	—	2
	大鐵	1	—	—	3	4
豫備	東鐵	4	1	2	—	7
	名鐵	6	1	—	—	7
	大鐵	2	—	—	7	9
儀裝車輸送列車牽引用	東鐵	—	4	—	—	4
	名鐵	—	5	—	—	5
	大鐵	—	1	—	—	1
外國大使及特派使節參列列車牽引用	東鐵	1	1	—	—	2
	名鐵	2	1	—	—	3
	大鐵	1	—	—	1	2

注意　本表ニハ儀裝車輸送列車及參列列車牽引用ノ豫備車ヲ含マズ

大禮用任務別機關車番號

（括弧內記載ノモノハ稱號規程改正前ノモノナリ）

任務別及所屬局			機關車番號
京都祇傍及桃山間		大鐵	88638. 68651. 38621
原宿淺川間		東鐵	69635. 79661
儀裝車輸送列車牽引用	東鐵		D 50292. D 50293 D 50267 (補) (29966) D 50264 (補) (29963)
	名鐵		D 50238 (29037). D 50239 (29038) D 50242 (29041). D 50240 (29039) D 50178 (19977)
	大鐵		D 50221 (29020)
同上豫備	東鐵		大船山北沼津ヘ D 50 形各 1 輛
	名鐵		D 50171 (19970). D 50173 (19972) D 50199 (19998). D 50243 (29042) D 50241 (29040). D 50244 (29043)
	大鐵		D 50225 (29024)
各國大使及特派使節參列々車牽引用	東鐵		C 51239 (38938). D 50268 (補) (29967)
	名鐵		C 51265 (38964). C 51246 (36945) D 50240 (29039)
	大鐵		C 51275 (38974). 88639
同上用豫備			參列列車運轉當日其ノ區間ニアル機關車及同分庫ニ牽引機關車ト同一形式ノ豫備機關車ヲ配置セリ

第二　特別修繕施行方法

大禮關係御召列車其ノ他各列車ノ牽引機關車ハ新製又ハ前回修繕後ノ經過月數ノ長短ニヨリ之ニ適應セシムル樣一般修繕局部修繕又ハ六ケ月檢査ヲ行フコトトシ常時修繕ノ場合ヨリモ特ニ各部分品ノ磨耗、龜裂ノ有無等嚴密ナル檢査ヲ爲シ且ツ主要機關車ニ對シテハ鐵道局工場ニ於ケル檢査掛員ノ外工作、運轉課關係技術員立會ノ下ニ檢査ヲ施行セリ然シテ不良品並龜裂發生品ハ姑息ナル修繕ヲ爲サズ總テ新品ト取替フルコトトシ殊ニ罐ノ修繕ニ於テ御召列車牽引機關車ニ對シテハ大小煙管全部新品ト取替ヘ其ノ他ノ機關車ハ小煙管全部取替ヘ過熱管ハ水壓試驗ヲ行ヒ接手ニ就テハ最モ周到ナル檢査ヲ爲シタリ以上ノ外主要機關車ニ對シテハ外觀上眞鍮製品及仕上部分品ノ外面ハ之ヲ研磨シ尙步板ニ手摺增設、空氣壓縮機排氣管ニ凝水排出裝置及國旗揭示器具ノ裝置等ヲ施行セリ

今各機關車ニ對シ鐵道局工場ニ於テ施行シタル修繕種別及入出場時期等ヲ記セバ左ノ如シ

機關車修繕種別其ノ他

（大宮工場施行ノ分）

所屬庫	任務	機關車番號	施行工場	入場月日	出場月日	修繕種別
宇都宮	御召	C五一二三九	大宮	八、一六	八、二三	特別檢査及一般修繕
飯田町	御召	二九六八〇	〃	九、六	九、一三	同上
大宮	指導	C五一一八四	〃	六、二五	六、三〇	同上
飯田町	指導	二九六八一	〃	五、一九	五、二六	一般修繕
大宮	指導	七九六五九	〃	七、一四	七、二〇	同上

宇都宮	豫備	C五一二一二	〃	五、一	五、五	局部修繕
宇都宮	豫備	C五一二一三	〃	六、一九	六、二三	同上
宇都宮	豫備	C五一二三六	〃	六、八	六、一三	同上
水戸	豫備	C五一二一一	〃	九、一八	九、二二	同上
高崎	豫備	六九六三五	〃	八、二四	八、三一	一般修繕
高崎	豫備	七九六六一	〃	八、一四	八、二二	同上

淺川御陵御親謁ノ際ニ於ケル飯田町機關庫牽引機關車ハ當初八六二〇形ヲ豫定シ特別修繕ヲ施行セルモ列車編成變更ノ爲九六〇〇形ニ變更セラレタリ

（濱松工場施行ノ分）

所屬庫任務	機關車番號	施行工場入場月日	出場月日	修繕種別其ノ他
名古屋御召	C五一二七一	濱松 三年八、一一	八、一七	特別檢査及局部修繕
濱松御召	C五一二六三	〃	九、七	九、一三	同上
品川御召	四九六七三	〃	九、二八	一〇、五	一般修繕
大垣御召補助	D五〇二四〇	〃	九、五	九、八	特別檢査及六ヶ月檢査
山北御召補助	D五〇二六八	〃	八、二	八、七	一般修繕
名古屋指導	C五一二〇一	〃	八、二〇	八、二五	特別檢査及一般修繕
濱松指導	C五一二二三	〃	九、二二	九、二六	同上
山北指導補助	D五〇二六四	〃	九、二七	一〇、一	局部修繕及六ヶ月檢査
名古屋豫備	C五一二四六	〃	九、一	九、七	特別檢査及局部修繕
名古屋豫備	C五一二二六	〃	九、一一	九、一六	特別檢査及一般修繕
名古屋豫備	C五一二七二	〃	九、一八	九、二一	特別檢査及局部檢査
濱松豫備	C五一二六四	〃	八、三〇	九、五	同上
濱松豫備	C五一二六五	〃	九、一四	九、二〇	同上
濱松豫備	C五一二六六	〃	九、二九	一〇、三	同上
大垣豫備	D五〇二四一	〃	九、二四	九、二七	特別檢査及六ヶ月檢査
濱松儀裝車輸送	D五〇二三八	〃	九、一二	九、一六	六ヶ月檢査
濱松	D五〇一七八	〃	一〇、一	一〇、五	一般修繕
稲澤	D五〇二三九	〃	九、一八	九、二二	六ヶ月檢査
米原	D五〇二四二	〃	一〇、三	一〇、五	同上
濱松豫備	D五〇一七三	〃	八、三〇	九、三	局部檢査及六ヶ月檢査
稲澤	D五〇二四三	〃	一〇、二	一〇、四	六ヶ月檢査
米原	D五〇二四四	〃	一〇、六	一〇、九	同上
濱松	D五〇一七一	〃	一〇、四	一〇、一〇	一般修繕
濱松	D五〇一九九	〃	九、二八	一〇、一	局部修繕及六ヶ月檢査

（鷹取工場施行ノ分）

所屬庫任務	機關車番號	施行工場入場月日	出場月日	修繕種別
梅小路御召	C五一二七八	鷹取 三年九、六	九、一三	局部修繕
〃	八八六三八	〃	九、三	九、八	一般修繕

奈良	〃	七八六七八	〃	九、一一	九、一七	局部修繕
龜山	〃	八八六三七	〃	九、一四	九、二〇	一般修繕
奈良	御召及豫備	四八六七一	〃	八、一六	八、二二	局部修繕
龜山	御召補助	六八六五八	〃	八、二九	九、四	一般修繕
梅小路	指導	C五一二七六	〃	八、二二	八、二八	局部修繕
〃	〃	八八六三九	〃	九、一五	九、二五	一般修繕
奈良	〃	七八六五八	〃	八、二五	八、三一	局部修繕
梅小路	豫備	C五一二七五	〃	八、一一	八、一七	同上
〃	〃	C五一二七七	〃	八、二	八、八	同上
奈良	〃	三八六二一	〃	八、七	八、一三	同上
龜山	〃	六八六五一	〃	八、一三	八、一八	一般修繕

上記ノ外關西線用九六〇〇形機關車數輛ニ對シ宮廷貨物廻送列車牽引用トシテ特別修繕ニ準ジ施行シタルモノアリ

第二項　參列員專用列車用客車

第一　參列員專用列車用客車ノ記號番號

本車輛ハ各國大公使、特派使節其ノ他參列諸員ノ乘用ニ供シタル優等車ニシテ主トシ定期檢査直後ノモノヲ充當セリ其ノ記號番號別表ノ如シ

參列員專用列車用客車記號番號

（括弧内番號ハ稱號規程改正前ノモノナリ）

所屬局	記號	番號
東鐵	スイネ	27100 (28100). 27101 (28101) 27102 (28102). 27103 (28103) 27104 (28104). 27150 (28120)
	スイネフ	27200 (28260). 27230 (28250) 27231 (28251). 27232 (28252) 27233 (28253). 27234 (28254)
	オイテ	27000 (オテン 28070)
	オイネテ	17000 (オテン 9025)
	オシ	17700 (28652). 17701 (28653) 27705 (28675). 27730 (28676) 27731 (28677). 27732 (28678)
	オイ	17800 (9233). 17801 (9235) 27800 (28800). 27801 (28801) 27802 (28302). 27803 (28803) 27804 (28804), 27805 (28805)
	スイフ	27830 (28850). 27831 (28851) 27832 (28852). 27833 (28853)
	ナイロフ	20550 (21500). 20551 (21501) 20552 (21502). 20553 (21503)
	ナロ	20710 (31945). 21106 (31900) 21107 (31902). 21108 (31903) 21109 (31904)

參列員專用列車用客車記號番號

（括弧內番號ハ稱號規程改正前ノモノナリ）

所屬局	記號	番號
東鐵	マニ	29503 (29933). 29504 (29934)
	オイネ	17101 (10005). 17103 (10008) 17150 (10025). 17151 (10026)
	オイネフ	17200 (28230). 17201 (28231) 17210 (28241).
	ナロネ	20100 (20600). 20101 (20601) 20102 (20602). 20103 (オロネ20603) 20104 (20604). 20111 (20611) 20112 (20612). 20130 (20640) 20131 (20641).
	ナロネフ	20210 (20665). 20211 (20666) 20212 (20667). 20213 (20668)
	ナイロ	20503 (21503).
	ナロフ	21252 (22207). 21253 (22208) 21254 (22209).
	マイネフ	37200 (スイネフ48260)
	マイネ	37100 (スイネ48120). 37101 (スイネ48121)
	スシ	37714 (48684). 37715 (48685)
	オニ	26621 (27900). 26622 (27901) 26623 (27902)

參列員專用列車用客車記號番號

（括弧內番號ハ稱號規程改正前ノモノナリ）

所屬局	記號	番號
名鐵	ナイロフ	10550 (5410)
大鐵	ナロネ	20124 (20524). 20125 (20625) 20126 (20626)
	ナロネフ	20223 (20673). 20224 (20674)
	オイ	17802 (9236). 17803 (9237)
	ナイロ	20506 (21205). 20509 (21208) 20510 (21210)
	ナイロフ	20554 (21204)
	ナロ	21081 (31851). 21082 (31852) 21083 (31853)
	ナロフ	21230 (22195). 21231 (22196)
	オニ	26634 (27850). 26635 (27851) 26636 (27852). 26637 (27853) 26644 (27870)

第二　特別修繕施行方法

本車輛ハ成ルベク定期檢査直後ニ於ケル狀態ノモノヲ充當スル方針ヲ以テ其ノ時期ニ到達セザルモノハ總テ繰上ゲ施行スルコトトシ大部分ハ十月中ニ出場セシメタルガ同月名古屋地方ニ於ケル陸軍特別大演習ニ際シ共用セラレタル一等車三輛及一等寢臺車其ノ他三輛ハ孰モ九月廿五日迄ニ出場セシメタリ然シテ各車輛ハ內外部共入念修繕ヲ爲シ出入臺ノ舊形幌ハ丸幌ニ取替外部塗粗ハ成ルベク均一ナラシムル樣施行セシメタリ今各鐵道局工場ニ於ケル修繕種別及入出場期日ヲ示セバ別表ノ如シ

參列員專用列車用客車修繕種別

記號	番號	施行工場	入場月日	出場月日	修繕種別
〃	27100	大井	9—11	9—24	甲種修繕
〃	27101	〃	8—20	9— 3	甲　〃
〃	27102	〃	8—31	9—10	甲　〃
〃	27103	〃	9—22	10— 4	甲　〃
〃	27104	〃	9—14	9—27	乙　〃
〃	27150	〃	10—16	10—25	乙　〃
スイネフ	27200	〃	9—24	10— 5	乙　〃
〃	27230	〃	9—22	10— 1	甲　〃
〃	27231	〃	8—23	8—30	甲　〃
〃	27232	〃	9—17	9—29	乙　〃
〃	27233	〃	10— 5	10—16	乙　〃
〃	27234	〃	10—16	10—25	乙　〃
オイテ	27000	〃	10—11	10—22	甲　〃
オイテネ	17000	〃	9—17	10— 2	甲　〃
オシ	17700	〃	8— 7	8—21	甲　〃
〃	17701	〃	9—27	10— 1	乙　〃
〃	27705	〃	8—29	9— 5	甲　〃
〃	27730	〃	10— 3	10—13	甲　〃
〃	27731	〃	10— 3	10—12	甲　〃
〃	27732	〃	8— 9	8—17	乙　〃
オイ	17800	〃	8—18	8—23	乙　〃
〃	17801	〃	8—22	9— 3	甲　〃
〃	27800	〃	9— 3	9— 6	乙　〃
〃	27801	〃	9— 5	9— 6	乙　〃
〃	27802	〃	9— 5	9— 6	乙　〃
〃	27803	〃	8—31	9— 4	乙　〃
〃	27804	〃	9—13	9—14	乙　〃

參列員專用列車用客車修繕種別

記號	番號	施行工場	入場月日	出場月日	修繕種別
〃	27805	大井	9—12	9—14	乙種修繕
スイフ	27830	〃	9—13	9—20	甲　〃
〃	27831	〃	8—21	8—25	乙　〃
〃	27832	〃	8—30	9— 6	甲　〃
スイフ	27803	〃	8—24	8—31	甲　〃
ナイロフ	20550	〃	9— 3	9— 4	乙　〃
〃	20551	〃	9— 4	9—14	乙　〃
〃	20552	〃	9—20	9—25	乙　〃
〃	20553	〃	10— 1	10— 4	乙　〃
ナロ	20710	〃	10— 1	10—11	乙　〃
〃	21106	〃	9—15	9—24	乙　〃
〃	21107	〃	9—29	10— 8	甲　〃
〃	21108	〃	8—15	8—21	甲　〃
〃	21109	〃	10— 1	10— 9	甲　〃
マニ	29503	〃	9—25	10— 5	甲　〃
〃	29504	〃	9—17	9—22	乙　〃
オイネ	17101	〃	10—16	10—23	乙　〃
〃	17103	〃	8—24	8—30	甲　〃
〃	17150	〃	9— 6	9—11	乙　〃
〃	17151	〃	9— 2	10—10	乙　〃
オイネフ	17200	〃	9— 4	9—14	乙　〃
〃	17201	〃	9— 7	9—14	乙　〃
〃	17210	〃	10— 4	10— 9	乙　〃
ナロネ	20100	〃	10— 4	10—16	乙　〃
〃	20101	〃	8—23	8—31	乙　〃
〃	20102	〃	10— 4	10—11	乙　〃
〃	20103	〃	10— 6	10—18	乙　〃

參列員專用列車用客車修繕種別

記號	番號	施行工場	入場月日	出場月日	修繕種別
オ　イ	17802	鷹取	10—11	10—23	乙種修繕
〃	17803	〃	10—15	10—30	甲　〃
ナ　イ　ロ	20506	〃	10—13	10—25	甲　〃
〃	20503	〃	10—18	10—28	甲　〃
〃	20510	〃	9—17	9—30	甲　〃
ナ　イ　ロ　フ	20554	〃	9—14	9—27	乙　〃
ナ　ロ	21081	〃	9—18	9—29	甲　〃
〃	21082	〃	10—3	10—9	甲　〃
〃	21083	〃	10—2	10—11	甲　〃
ナ　ロ　フ	21230	〃	9—7	9—15	甲　〃
〃	21231	〃	10—13	10—23	甲　〃
オ　ニ	26634	〃	9—4	9—16	甲　〃
〃	26635	〃	10—8	10—20	甲　〃
〃	26636	〃	9—25	10—9	甲　〃
〃	26637	〃	9—13	9—27	甲　〃
〃	26614	〃	10—18	10—30	甲　〃

參列員專用列車用客車修繕種別

記號	番號	施行工場	入場期日	出場期日	修繕種別
ナ　ロ　ネ	20104	大井	10—8	10—20	乙種修繕
〃	20111	〃	10—13	10—18	乙　〃
〃	20112	〃	9—12	9—29	乙　〃
〃	20130	〃	10—11	10—24	乙　〃
〃	20131	〃	10—12	10—23	乙　〃
ナ　ロ　ネ　フ	20210	〃	8—10	8—20	甲　〃
〃	20211	〃	10—10	10—20	甲　〃
〃	20212	〃	10—10	10—20	甲　〃
〃	20213	〃	9—28	10—9	甲　〃
ナ　イ　ロ	20503	〃	8—25	8—29	乙　〃
ナ　ロ　フ	21252	〃	9—20	9—22	乙　〃
〃	21253	〃	10—5	10—10	乙　〃
〃	21254	〃	10—9	10—10	乙　〃
マ　イ　ネ　フ	37200	〃	10—12	10—13	乙　〃
マ　イ　ネ	37100	〃	10—18	10—24	乙　〃
〃	37101	〃	10—19	10—24	乙　〃
ス　シ	37714	〃	9—26	9—28	乙　〃
〃	37715	〃	9—22	9—26	乙　〃
オ　ニ	26621	〃	9—11	9—18	甲　〃
〃	26622	〃	9—7	9—13	甲　〃
〃	26623	〃	9—21	10—1	乙　〃
ナ　イ　ロ　フ	10550	名古屋	10—3	10—12	甲　〃
ナ　ロ　ネ	20124	鷹取	9—24	10—4	甲　〃
〃	20125	〃	10—8	10—18	乙　〃
〃	20126	〃	9—11	9—22	乙　〃
ナ　ロ　ネ　フ	20223	〃	10—2	10—13	乙　〃
〃	20224	〃	9—19	9—30	乙　〃

第三　大禮服輸送設備

參列員託送ノ大禮服ハ最モ輸送ノ適確ヲ要スルヲ以テ之ガ取扱方ニ對シ特ニ通達ヲ發スルト共ニ各專用列車ノ内參列員多數ナル列車ニ對シテハ大禮服容器ノ關係上多數積重ネヲ避ケザルベカラズ依テ荷物車内ニ棚ノ設備ヲ爲スコトニ決定シ十一月二日(鐵禮運第二六五號運輸工作局長名ヲ以テ東、大鐵道局長宛左記通牒ヲ爲シタリ

一　左記列車ノ下記荷物車ニハ第三項ノ棚ノ設備ヲ爲スコト

イ　十一月六、八日第一九列車

本編成(オ=)二六六二三號車

ロ　十一月七日　第一九列車

本編成(オ=)二六六三五號車

ハ　十一月八日第一〇〇三列車ニ(オ=)二六六一四號車ヲ增結

二　前項ニ伴ヒ又ハ其ノ他ノ列車ニシテ參列員多數乘車スル列車ニハ必ズ必要ニ應ジ荷物車ヲ增結スルコト

三　棚ノ構造ハ一車ノ約三分ノ二ニ對シ荷物室棚ノ下ニ二段作トナスコト

四　本設備ハ東京鐵道局ニ於テ手配ヲ爲シ十二月ニ入リ復舊スルコト

右設備ハ大井工場ニ於テ木組ヲ爲シ東京檢車所ニ依リ品川驛構内ニテ取付ヲ爲セリ尙右棚製作ノ外各專用列車ニ對スル託送手荷物殊ニ大禮服ノ優先輸送ヲ豫定シ東鐵ト大體ノ打合ヲ爲シタリ然シ實際ニ當リ荷物甚少ナリシ爲八日第一〇〇七列車、九日第一〇〇三列車ノ鐵道局手配ニ係ル增結車ハ勿論本省通牒ノ八日第一九列車ノ棚付車モ共ニ減車ヲ爲シタリ

第三項　大禮用貨車

大禮用馬匹、自動車其ノ他ノ輸送ニ供セラレタル貨車ハ總テ運輸局ノ要求(鐵禮運第八八號)ニ基キ左記ノ通リ手配セリ

第一　馬匹用其ノ他有蓋貨車

馬匹用三十四輛齋田地方獻納品用四輛及其ノ他御用物御紋章入椅子二千脚及食器等輸送用十五輛ニシテ此等ハ孰モ昭和三年度增備トシテ日本車輛會社本支店及汽車會社東京支店ニ於テ製作中ノ十五噸積鐵側有蓋車ヲ充當スルコトニ決定シタルヲ以テ豫メ右製作會社ニ對シ落成所要期日ヲ通知シ工事ヲ入念施行ノ上現車ハ左記ノ通廻送セシメタルガ大禮關係ノ輸送ヲ終ル迄ハ一般貨物運輸ニ使用セズ品川汐留及福岡驛ニ保管セラレタリ本車輛ニ對シテハ大井工場及品川檢車所ニ於テ特ニ引張摩擦裝置ノ摩擦子及同受ニ**グリース**ヲ塗布セシメタリ然シテ此等貨車ハ鐵側ニシテ内部木張ノ新式構造ノモノニシテ引戸金具等ニモ特別ノ注意ヲ拂ヒタルヲ以テ隧道内ニ於テモ煤煙ノ侵入ナク多數馬匹ヲ輸送シタルニ何等ノ障害ヲ及ボサヾリシコトハ稀ニ見ル現象ナリトシ宮内省側ニ於テモ大ニ滿足セラレタリ

(汽車會社支店ノ分)

ワム二〇〇〇〇—二〇〇〇〇七　八輛　九月十九日迄大井工場ヘ廻送車トシテ入場セシムル樣施行スルコト

ワム二〇〇〇八—二〇〇二二　一五輛　九月廿五日迄ニ落成セシメ品川驛ヘ廻送車トシテ引渡スコト

(日本車輛本店ノ分)

ワム二〇三一六—二〇三二八　一三輛　大井工場ヘ廻送車トシテ引渡スコト

（同　支店ノ分）

ワム二〇〇八七—二〇一〇三　一七輛　九月廿五日迄ニ落成セシメ品川驛ヘ廻送車トシテ引渡スコト

第二　自動車用其ノ他無蓋貨車

宮內省自動車用約五十輛、各省自動車用約百八十輛及馬匹用三十二輛ニシテ此等ハ孰モ一般運用中ノ形式**ト**一（舊形式**ト**一三七八二號又ハ之ニ準ズル三枚側總開ノ鋼製豪枠ノモノヲ選定スルコトトシタルモ此等貨車ハ空氣制動機取付未濟ノモノニ付昭和三年度貨車空氣制動機取付工事ノ一部トシテ左記ノ通各工場ニ割當テ至急施行スルコトトセリ依テ現車ハ適當ノ時機ニ工場ニ入場セシメ空氣制動筒ヲ取付ケ同時ニ嚴重ナル仕立檢査ヲ施行シ大井工場ノ分ハ十月五日其ノ他ノ工場施行ノモノハ孰モ十月十五日迄ニ落成セシメ品川驛ニ廻送シ現車ニ「大禮用」ノ白票ヲ附シテ本輸送迄ハ一般貨物積ニ使用セザルコトニ關係鐵道局長ヘ通牒セリ

大宮	大井	名古屋	鷹取	吹田	計
五〇	三二	三〇	二〇	四〇	一八二

第八節　車輛施設工事費

大禮費支辨車輛施設工事費ニ對スル豫算並大井工場ノ決算額及主要材料內譯表ハ別表ノ通リニシテ總額ニ於テハ僅ニ六百七十圓ノ差額ニ過ギザルモ各工事件名ニ付對照スルトキハ相當ノ過不足アリ此等ハ豫算査定後宮內省トノ打合又ハ現車ノ狀態等ニ依リ車輛ノ特別修繕方法其ノ他施設事項ニ屢々變更アリタル結果工事費ノ增減ヲ來タシタルモノナリ然シテ別表ノ外第七號第九號御料車及供奉車ノ修繕並ニ第七節ニ於テ述ベタル御召列車其ノ他牽引用機關車及大公使々節參列用專用客車ノ特別修繕費普通定期檢査以外ニ要シタル工事費）ニ付テハ東名大鐵道局ニ對シ昭和三年度修車費トシテ約貳拾萬圓ノ增額ヲ爲シタリ

大禮費支辨車輛施設工事費

件名	輛數	人工	工作費	材料費	割掛	計
			円	円	円	円
第12號御料車特別修繕	1	966	9,671.235	17,782.156	823.601	(33,900.000) 28,276.992
第8號御料車特別修繕	1	449	4,503.269	13,102.385	528.169	(20,900.000) 18,133.823
賢所乘御車補修	1	1,198	12,002.267	3,941.137	478.302	(3,700.000) 16,421.706
儀裝馬車輸送車製作（含馬車臺製作）	27	2,333	23,350.342	79,934.692	3,098.550	(105,700.000) 106,383.584
3等荷物車ヲ齋田供納米輸送車ニ改造及復舊	3	127	1,275.064	794.582	62.089	(1,820.000) 2,131.735
計		5,073	50,802.177	115,554.952	4,990.711	(172,020.000) 171,347.840

括弧內ハ豫算額ニシテ三年九月鐵禮作第78號ヲ以テ東鐵局長ヘ決算請求券ヲ送附セリ。

材料費內譯表

品名	金額
	円
女官候所用床敷物	420.410
女官控所用　〃	322.850
御厠用床敷物	164.470
御座所**クツシヨン**	1,823.500
日覆裂地	962.600
フレンチ其ノ他ノ裂地類	760.660
塗料其ノ他	637.803
計	13,102.385
(賢所乘御車)	
次室用紋氈	890.000
次室及廊下用窓掛裂地	96.000
檜　柾	1,287.000
塗料及外輪	1,039.240
其ノ他	628.897
計	3,941.137

以上ノ外儀裝馬車輸送車製作及齋田供納米輸送車ニ改造用所要材料ハ何レモ普通車輛用品ナリシヲ以テ之ヲ掲記セズ。

材料費內譯表

品名	金額
	円
(第十二號御料車)	
御座所及次室椅子張裂地	2,925.000
御休憩室及御化粧室用腰掛及椅子張裂地	2,473.500
同　上腰張裂地	945.000
御座所床敷物	1,167.850
次室　〃	443.500
廊下　〃	475.500
御休憩室〃	645.850
御化粧室〃	362.900
御座所陛下用**クツシヨン**	650.000
御座所及次室用　〃	690.000
御休憩室陛下用　〃	680.000
御休憩室皇后陛下用**クツシヨン**	690.000
日覆裂地	1,048.800
母屋窓硝子	1,927.040
フレンチ其ノ他ノ裂地類	759.500
楠挽材	626.050
塗料其ノ他	1,271.666
計	17,782.156
(第八號御料車)	
御座所用御椅子	3,033.808
御座所用御長椅子	1,135.184
御化粧室腰張及椅子張裂地	513.000
〃　用裂地	598.500
女官候所腰掛用裂地	666.000
〃　控所　同　上	810.000
御座所用床敷物	958.660
御化粧室用床敷物	294.940

第三章　賢所移御

第一節　計畫一般

第一項　總說

昭和三年十一月今上天皇陛下御即位ノ大禮ヲ擧ゲラルルニ當リ賢所ヲ奉ジ京都ニ行幸被爲在ルルノ儀アリ東京、名古屋、京都各驛ニ於テ賢所ヲ乘御車ニ移御シ又乘御車ヨリ御羽車ニ移御スル施設竝ニ奉仕作業ハ大正天皇御即位ノ例ニ倣ヒ鐵道省ニテ行フコトトナリシヲ以テ其ノ施設ニ付計畫ス

先ヅ御羽車ハ大正天皇御即位ノ時御使用アリシモノ東京帝室博物館ニ在リ依テ昭和三年二月三日工作局長、機械課長、以下局員帝室博物館ニ於テ御羽車ヲ調査シ引續キ其ノ見取圖ヲ製作ノ上宮內省ト協議シ新ニ御羽車ヲ設計スルコトトセリ、又賢所移御御施設中ノ賢所御外箱御下机及御下机止木御紋章臺ハ大正天皇御即位ノ際御使用ノモノ大井工場ニ保管ノ賢所乘御車內ニ保存シアリタルヲ以テ實物ヲ其ノ見取圖ニヨリ新シク製作スルコトトセリ其ノ他ノ移御施設ハ總テ大正天皇ノ御即位ノ際ニ御使用ノモノノ寫眞ヲ參考トシ圖面ヲ作リ模型及實物ヲ製作スルコトトセリ

第二項　東京驛

本驛ニ於ケル奉仕作業ハ御羽車ヲ貴賓通路ニ進御スルコトト賢所乘御車ニ賢所ヲ移御スル二作業アリ東京驛ハ其ノ入口極メテ狹ク又貴賓通路拱下ノ梁低クシテ御羽車ヲ手舁ニテ渡御スルコトハ大正天皇御即位ノ際甚ダ困難セル事實アリシヲ以テ今回ハ御車寄ニテ御羽車ニ四個ノ自由ニ方向ヲ轉ジ得ル車ヲ取付ケ御車寄ヨリ乘降場階段下マデ進御スル事ヲ計畫シ先ヅ模型ノ車ヲ大井工場ニ於テ製作シ之レヲ宮內省ニテ製

作シタル模型ノ御羽車ニ取付ケ五月十二日鐵道次官、工作局長以下掛員及宮內省西園寺主馬頭以下關係員立會ノ上御車寄入口ヨリ貴賓通路ニ於テ試驗ヲ行ヒシ結果其ノ成績頗ル良好ニテ何等ノ困難ナク御羽車ヲ進御スルコトヲ得タルヲ以テ此ノ方法ニ依ルコトニ決定シタリ

當驛ニ於ケル賢所移御ハ行幸ノ際ハ第四乘降場還幸ノ際ハ第三乘降場ナルヲ以テ移御奉仕場及備品置場ヲ兩乘降場ニ設ケ移御施設備品ハ兩回共同一品ヲ共通ニ使用スルコトトス

賢所乘御車ニ乘御ノ際ハ御羽車御車寄ニ着御シ鹵簿ヲ奉仕セル駕輿丁ノ驛內奉仕駕輿丁ト交代スル際四個ノ御羽車用御車ヲ御羽車ニ取付ケ玄關ヨリ第四乘降場階段下迄進御シ階段下ニ到レバ四個ノ車ヲ取外シ次デ階段ヲ舁ギ上ゲ御羽車ヲ賢所移御奉仕場ニ入御ノコトトス、是レヨリ前奉仕場ニ於テハ移御奉仕者ハ賢所移御ニ要スル施設品ヲ搬入シ(附圖作第五十四圖賢所乘御第一圖)乘御車ノ扉ヲ開キ御下机臺ト乘御車トノ間ニハ棧橋ヲ渡シテ乘御車內ノ御下机ヲ御下机臺上ニ引出ス(附圖作第五十五圖賢所乘御第二圖)續テ欄干ヲ取外シ賢所ノ着御ヲ待ツ

賢所移御奉仕場ニ入御アレバ幔幕ヲ閉デ御羽車ハ長柄臺上ニ安置サル供奉掌典補ハ御羽車ノ三方ノ御帷子ヲ取外シ次デ賢所ニ十字ニ掛ケタル紐ヲ取外ス駕輿丁ハ御羽車ヲ乘御車ニ近付ケ御羽車ノ床面ト御下机ノ床面トヲ一致セシメタル後賢所ハ掌典補ニヨリ靜カニ御下机上ニ移御セラル(附圖作第五十五圖)第五十六圖)次デ御下机ヲ賢所乘御車內賢所奉安所ニ固定シ茲ニ移御ヲ終リ移御施設備品ヲ撤去シ乘御車ノ御扉ヲ閉ヅ(附圖作第五十六圖)

賢所乘御車ヨリ降御ノ際ハ御召列車第三乘降場ニ到着兩陛下貴賓通路ニ入御被爲在ルルヤ奉仕者ハ移御施設備品ヲ奉仕場ニ搬入シ(附圖作第五十七圖賢所降御第一圖)次デ御羽車ヲ搬入ス、周圍ノ幔幕ヲ閉デタル後乘御車ノ御扉ヲ開キ乘御車ト御下机臺トノ間ニ棧橋ヲ渡シ(附圖作第五十八圖賢所降御第二圖賢所御下机ヲ

御下机臺上ニ移御シ御羽車ヲ近付ケ御下机ノ床面ト御羽車床面トヲ一致セシメタル後賢所ヲ御羽車ニ移御ス(附圖作第五十八圖第五十九圖賢所降御第三、第四圖終ツテ御羽車ヲ御下机ヨリ遠ザケ驛内供奉掌典補ニヨリ賢所ニ十字ニ紐ヲ掛ケ次デ三方ノ御帷子ヲ掛ケ茲ニ移御完了シ直チニ御羽車ハ出御ス、乘降場階段ヲ下リ貴賓通路ニ入レバ又四個ノ御羽車用御車ヲ取付ケ廊下ヨリ御車寄ニ進御シ御車寄ニテ駕輿丁ノ交代スル時車ヲ取外シ終ツテ賢所御羽車ハ御車寄ヲ出御ス、是レヨリ前御羽車貴賓通路ニ入御セラルルヤ移御奉仕者ハ御下机ヲ乘御車ニ納入シ移御施設品ヲ備品置場ニ搬入シ移御後ノ作業ヲ終了ス

本驛移御施設品次ノ如シ

移御裝置備品

御紋章臺	一箇	軌條接續片　二箇
下机臺(止木付)	一箇	御羽車止木及欄干臺　一箇
棧　橋	一箇	脚　立　二箇
長柄臺調整板各二枚付)	四箇	引紐(欄干臺下段ニ置ク)　二條
幔幕裝置		
移御奉仕場用	一組	
備品置場用	一組	
奉仕者控所用	一組	

第三項　名古屋驛

本驛ニ於テハ御召列車ハ本屋側乘降場ニ發着シ行幸ノ際及ビ還幸ノ際降御セラルルヲ以テ賢所移御ヲ奉仕スルコト四回ニシテ移御奉仕場ハ行幸ノ際ハ京都寄ニ還幸ノ際ハ東京寄ニ設置シ各乘御及降御ノ移御作業ヲ行フ。備品置場ハ兩奉仕場ノ後方ニ隣接シテ設置セリ當驛ニテハ兩奉仕場ノ床面ノ軌條面上ノ高サハ甚シク相違スルヲ以テ御羽車床面ト乘御車床面トノ高サヲ一致セシムルニ必要ナル御下机臺長柄臺等ハ各奉仕場ニテ別々ノモノヲ用フル爲高サヲ異ニスルモノヲ製作セリ、當驛ニ於テハ御羽車通路ハ渡御ニ差支ヘナキ樣上家ヲ高ク改築セルヲ以テ驛屋内ニテモ御羽車ヲ手舁スルコトトセリ、乘御車御羽車間ノ賢所移御作業ハ東京ト全ク同樣ナリ

本驛移御施設品次ノ如シ

移御用備品

御紋章臺	一箇	軌條接續片　四箇
御下机臺(止木付)	二箇	御羽車止木及欄干臺　一箇
棧　橋	二箇	脚　立　二箇
長柄臺調整板各二枚付)	八箇	引　紐　二條
幔幕裝置		
移御奉仕場用	一組	
備品置場用	一組	
奉仕者控所用	一組(屋内ナルヲ以テ新ニ設備セズ)	

第四項　京都驛

本驛ハ御召列車發着共ニ本屋側乘降場ニシテ移御奉仕場ハ降御ノ際ハ大阪寄、乘御ノ際ハ名古屋寄ニ設置ス備品置場ハ奉仕場ノ後方ニ隣接シ設置セリ奉仕場ノ床面ノ高サハ兩所共同一ナルヲ以テ施設備品ハ全部共通ニ使用ス。當驛内モ御羽車通路廣ク上屋高キ爲名古屋驛ト同樣驛屋内ニテモ御羽車ヲ肩ニ奉舁セリ、賢

所乘御車御羽車間ノ賢所移御作業ハ東京ト全ク同様ナリ

本驛ノ移御施設品次ノ如シ

移御裝置備品

御紋章臺	一箇	軌條接續片　二箇
御下机臺(止木付)	一箇	御羽車止木及欄干臺　一箇
棧橋	一箇	脚立　二箇
長柄臺(調整板二枚付)	四箇	引紐　二條
幔幕裝置		
移御奉仕場用	一組	
備品置場用	一組	
奉仕者控所用	一組	

第二節　御羽車

第一項　御羽車ノ構造

御羽車ハ賢所ノ乘御セラルル輦臺ニシテ其ノ構造ハ帝室博物館ニ在ル大正天皇御即位式ノ際使用セラレタルモノヲ參考トシテ設計セルモ次ノ諸點ヲ變更セリ。

イ　御羽車ノ總高サヲ約四寸五分低クス、驛屋内ニテ御羽車ヲ進御スルコトヲ容易ニスルタメナリ

ロ　御羽車ノ輦臺ノ部分ヲ正方形トス現在ノモノハ幅ニ比シ奥行小サク且ツ高サ高キタメ横ヨリ見ル時細長ク見ユルタメ奥行ヲ幅ト等シクセリ

ハ、四隅ノ柱ヲ太クセリ

而シテ今回製作ノモノハ高サ六尺五寸一分幅五尺〇五分最大幅蕨ノ部ニテ)五尺五寸長柄ノ長サ十六尺八寸五分ニシテ其他ノ構造及ビ御帷子ノ切地飾金具ノ模様等總テ大正天皇御即位ノ際御使用ニナレルモノト同様ナリ屋根ハ檜板ノ上ニ蟹牡丹大和錦張リトシ頂上ニ擬寶珠ヲ戴キ棟ハ四方ニ下リテ端ニ於テ蕨狀ヲナス周圍ニハ欄干ヲ取付ク但シ後方ノ欄干ノミハ取外シ得ル様ニス尚屋根ノ下部ヨリ長柄ノ上面迄外側ハ蟹牡丹大和錦ノ御帷子ヲ掛ケテ被フ、輦臺ノ床面ニハ二條ノ摺動金具アリテ御外箱ノ摺入ヲ容易ニス、中央ヨリ前後ニ二尺八寸四分ヲ離シテ御外箱止木アリ、前部ハ固定セラレ後部ハ取外シ得ラル、止木ニハ御外箱摺金具ノ前後ニアル突出部ノ嵌入スル止金具アリテ完全ニ御羽車ト御外箱トヲ一體トス、實物ハ宮内省ノ意向ニヨリ圖面ト變更セル部分アリ即チ屋根ハ一體トシテ取外ス事ヲ得ズ且ツ屋根ト柱、柱ト輦臺トノ間ノ飾金具ノ下ニ補强金具ヲ入レ柱ノ取付ヲ確實ニセリ

使用材ハ全部檜ノ白木造ニシテ飾金具其他ノ金具類ハ總テ金鍍金ヲナス(附屬品トシテ赤キ御紐アリ賢所乘御ノ後此ノ紐ヲ以テ賢所ヲ十字ニ輦臺ニ結ビ付クルモノナリ

參照附圖

作第六十一圖	御羽車		秘 6
作第六十二圖	御羽車分解	其ノ一	秘 1/6
作第六十三圖	同	其ノ二	秘 2/6
作第六十四圖	同	其ノ三	秘 3/6

第二項　御吳床

御羽車ノ臺ニシテ二個ヲ以テ御羽車ヲ支フ高サ五〇〇粍長サ一、七二二粍、幅一四七粍ニシテ上板長手ニ沿フテ折疊ムコトヲ得ル構造トシ使用材ハ檜ニシテ白木造ナリ詳細ナル構造ハ(附圖作第六十三圖)ニ示ス

第三項　御羽車用御車

御羽車用御幸ハ東京驛ニ於テ御車寄ト乘降場階段下トノ間ニ御羽車ヲ進御スルトキ使用スルモノニシテ四個ヲ以テ一組トシ御羽車ノ長柄ニ車ノ上部ヲ嵌入シ其ノ上部ニ止金ヲ差シテ御羽車ニ固定ス

車輪體ハ樫材製トシ護謨輪ヲ當鈑ヲ以テ取付ケ推進中車輪ノ音響ヲ少ナカラシム輪軸ハ垂直ナル軟鋼軸ニ片心ニ取付ケラレ垂直軸ヲ中心ニ回轉シ得ルヲ以テ各車輪ハ御羽車ニ取付ケラレタルトキ其ノ方向轉換極メテ容易ナリ頭部ハ臺灣檜ヲ以テ溝形トナシ長柄ノ下部ヨリ嵌込ミタル後上部ノ二本ノ止金ヲ取付ク垂直軸ハ木捻子ヲ以テ頭部ニ取付ク尙ホ頭部ニハ一方ニ突出セル部分アリ御羽車ニ取付ケタル二個ノ並列セル車ノ其ノ部分ノ距離ヲ五尺七寸二分(附圖作第六十圖參照)トス東京驛入口ノ柱ノ間隔ハ約六尺ナルヲ以テ御羽車ニ車ヲ付ケテ通過スル際此ノ車ノ頭部ノ突出部分ヲ注意シツツ通過スレバ御羽車ノ棟ノ蕨狀ノ部分ヲ柱ニ打チ當ツル事ナキ樣考慮セル構造ナリ

參照附圖
作第六十五圖　御羽車用御車　秘 7
作第六十六圖　御羽車用御車分解　秘 1/7

第四項　賢所移御用御板

御板ハ宮城內溫明殿及京都御所內春興殿ニ於テ賢所ヲ御羽車ニ移御スル際使用セラルル移御臺ニシテ二枚ヲ以テ一組トシ御羽車ノ長柄上ニ置キ板ノ足ヲ長柄ノ內側ニ嵌入セシメ板ノ左右ニ動クコトヲ妨ギ表面ハ御羽車床面ト水平ナラシムル樣ニ製作ス上面ニハ賢所御外箱ノ摺動ニ便ナル樣摺金具ヲ取付ク材料ハ臺灣檜ノ白木造トス

參照附圖
作第六十七圖　賢所移御用御板　秘 11

第五項　御羽車其ノ他ノ實物及模型ノ製作

(イ) 御羽車

大井工場ニ於テ御羽車ノ實物大ノ模型ヲ四月中ニ一臺製作ス本模型ノ外部ハ驛構內ノ通路ニ支障物アリヤ否ヤヲ檢査スルタメ又內部ハ賢所移御作業ノ練習ヲ爲スタメ正確ナル寸法トセルモ其他ノ部分ハ實物ニ類似ノ程度ニ製作セリ但シ使用材料ハ米松ヲ用ヒタリ實物ハ宮內省ニ於テ日本橋區數寄屋町中川新右衞門商店ニ命ジ東京名古屋京都用トシテ各一臺合計三臺ヲ製作セシム又賢所移御ニ關係アル金具類ハ移御作業ニ重要ナル關係アルヲ以テ特ニ大井工場ニ於テ三臺分ヲ製作シ宮內省ヲ經テ同商店ヘ交付シ御羽車ニ取付ケタリ

(ロ) 御吳床

模型ハ御羽車ト共ニ一組(二個)ヲ大井工場ニ於テ製作ス實物ハ御羽車ト共ニ中川商店ニ於テ十二個ヲ製作シ六個ハ御羽車ト共ニ宮內省ニ納入シ他ノ六個ハ驛用トシテ東京名古屋京都各驛ニ二個宛同商店ヨリ直接各驛長宛ニ送付セリ

(ハ) 御羽車用御車

模型及實物共各四個ヲ大井工場ニ於テ製作ス

(ニ) 賢所移御用御板

模型及實物共各二個ヲ大井工場ニ於テ製作シ實物ハ完成ノ上十月十九日宮內省ニ納入セリ

第六項　御羽車ノ寸法調査

十月二十日宮內省ニ於テ完成サレタル三臺ノ御羽車ハ工作局員及大井工場員立會ノ上寸法ニ誤リナキ事ヲ確認セリ

尙御羽車ハ行幸ノ際使用シタル後還幸迄約三週間ヲ經過スルヲ以テ其ノ間歪ノ生ズル時ハ移御作業ニ支障ヲ來タス虞レアルヲ以テ還幸前當省ヨリ臨時ニ任命サレタル掌典補ハ左記ニヨリ御羽車ノ寸法ヲ確認セリ

十一月二十三日　宮內省溫明殿ニ於テ御羽車調査
二十四日　名古屋離宮賢所假殿ニ於テ　同
二十五日　京都御所春興殿ニ於テ　同

第三節　移御施設

第一項　賢所御外箱

御外箱ハ側板及底板ヲ有シ上蓋ヲ有セザル箱ニシテ高サ七五七粍幅一、三三三粍奥行八四八粍底面左右ニハ摺金具アリ前後ニ四四粍突出シ御羽車及御下机ノ止金ニ嵌入スル構造トス內面左右ニ幅五五粍ノ樫製摺木アリ賢所ヲ摺入ルルニ便ナラシム、大正天皇御即位ノ時使用セラレタルモノハ內面モ摺金具ナリシガ宮內省ノ要求ニヨリ樫製摺木ヲ用ヒタリ左右側板ノ中央ヨリ後方ノ側板ヲ左右ニ開クニハ蝶番ヲ用ヒ左右側板ノ合セ目ハ後方ニアリ上部及中部ニ止金具ヲ用フ又側板開閉部分ノ下部ニハ四個ノ忍錠ヲ設ケ側板ヲ底板ニ固定セシム、底板ノ前後部ニ左右各二個ノ引紐取付金具アリ之レニ紐ヲ掛ケテ御外箱ヲ牽引ス、使用材ハ特ニ上等ナル檜ノ柾目板ヲ用ヒ白木造トシ使用金具ノ表面ハ全部金鍍金ヲナス

參照附圖
作第六十八圖　賢所御外箱　8
作第六十九圖　賢所御外箱分解　1/8
作第七十圖　同　2/8

第二項　御下机

御下机ハ乘御車內ニテ賢所ヲ奉安シ置ク臺ニシテ下部ニ移御ノ際必ナル車輪四組ヲ有ス

御下机ハ幅一、五一三粍奥行九九四粍上板迄ノ高サ三〇二粍ニシテ上部ニハ周圍ニ欄干アリ後方ヲ除キ三方ハ取外スコトヲ得前後部欄干ノ下部ニハ御外箱止メ付金具アリ後部ノモノハ固定サレ前部ハ取外スコトヲ得下面ノ左右ニ各三個ノ忍錠アリテ欄干ヲ固定ス前方欄干ハ左右欄干柱ノ內側ノ忍錠及下部ニアル三個ノ止金具ニヨリ御下机ニ取付ケラル上面左右ニハ御外箱ノ摺動ヲ容易ニスルタメ摺動金具アリ、下部四組ノ車ハ護謨輪ヲ嵌メ二個ヲ以テ一組トシ其ノ間ニ輪導軌條ヲ挾ミ前後ニ移動セシメ得ル構造トス但シ乘御車進行中御下机ガ動クコトナキ様特ニ止裝置ニ留意セリ、使用材ハ上等檜トシ白木造ニシテ金具類ハ凡テ金鍍金ヲナス

參照附圖
作第七十一圖　御下机　秘　9
作第七十二圖　御下机分解其ノ一　秘　1/9
作第七十三圖　同　其ノ二　秘　2/9
作第七十四圖　同　其ノ三　秘　3/9
作第七十五圖　同　其ノ四　秘　4/9

第三項　御下机止木

御下机止木ハ賢所乘御車內ニ於テ御下机ヲ乘御車ニ固定スル裝置ニシテ角材ヲ井形ニ組ミタルモノニシテ前後ノ橫木上ニ左右ノ橫木ヲ組ミ合セタルモノナリ後方ノ橫木ハ固定サレ左右ノ橫木ハ後方ノ橫木トノ組合セノ中心ニ於テ**ボールト**ニテ車體ニ取付ケラレ此ノ**ボールト**ヲ中心ニシテ動カシ得ル構造ナリ前部橫木ハ下部ニ二箇所止金具アリテ之レヲ床面ノ固定金具ニ嵌入セシメ左右ノ橫木ヲ上部ヨリ押ヘテ組合ス、組

合セ後ハ其ノ部分ヲ白絹打紐ニテ結ビ付ク使用材ハ上等檜ニシテ白木造トシ金具ハ金鍍金トス

參照附圖

作第七十五圖　御下机分解　秘　4/9

第四項　御紋章臺

御紋章臺ハ移御奉仕場ニ於テ賢所乘御車ノ開扉ニ際シ取外シタル御紋章ヲ置ク臺ニシテ交錯セル脚ノ中心ヲ**ボールト**ニテ取付ケ上部ハ布張リトシ折疊式ニシテ上部ニ檜ノ白木造ノ角盆ヲ載セ白羽二重ノ袱紗ヲ以テ被ヒタル構造トシ上部ニ御紋章ヲ置ク使用材ハ檜ニシテ白木造トス

參照附圖

作第七十六圖　御紋章臺　秘　12

第五項　御下机臺

御下机臺ハ乘降場床面ニ置ク御下机ノ臺ニシテ長サ一、一五〇粍、幅一、二〇〇粍ノ四脚ノ机ニシテ高サハ驛ニヨリ異ル、上部ニハ二本ノ輪導軌條ヲ有シ上部ノ枠ノ前後ハ御下机ノ止木トナリ前部止木ハ取外スコトヲ得ルモノニシテ兩端ノ忍錠ニヨリテ御下机臺ニ固定ス、使用材ハ臺灣檜ニシテ白木造トス

參照附圖

作第八十圖　賢所移御裝置分解其ノ一　秘　1/10

第六項　棧橋

棧橋ハ御下机ト乘御車トノ間ニ架スル渡リ橋ニシテ一端ヲ乘御車拜所ノ上ニ他端ヲ御下机臺ノ金具ニ差込ミ取付クルモノニシテ長サ一、六九三粍、幅一、一三六粍ノ板ナリ上部ニハ御下机ヲ移動セシムルタメニ檜製ノ輪導軌條アリ使用材ハ臺灣檜ニシテ白木造トス、別ニ檜製ノ長サ一六七粍ノ接續軌條二箇アリ棧橋及奉安所ノ輪導軌條ノ接續ニ使用ス

參照附圖

作第八十二圖　賢所移御裝置分解其ノ三　秘　3/10

第七項　長柄臺

長柄臺ハ賢所移御奉仕ノ際奉仕場床面ニ置ク御羽車ノ臺ニシテ四個ヲ以テ一組トス、臺ノ大サハ長サ四五〇粍、幅二二〇粍ニシテ高サハ驛ノ乘降場ノ高サニヨリ異ル、尙此臺ニハ御羽車ノ床面ヲ御下机ノ床面ト一致セシムル爲各一個ノ長柄臺ニ長サ二八〇粍、幅一四〇粍ノ楔形調整板二枚附屬ス、使用材ハ臺灣檜ニシテ白木造トス

參照附圖

作第八十三圖　賢所移御裝置分解其ノ四　秘　4/10

第八項　御羽車止木及欄干臺

賢所ヲ移御スルニ當リ御羽車ノ後方ノ欄干及御外箱止木ヲ取外シタル際之ヲ置ク臺ニシテ長サ一、二〇〇粍、幅五〇〇粍、高サ七五〇粍ノ机ニテ引紐ヲ置クタメニ中段ヲ設ク、使用材ハ臺灣檜ニシテ白木造トス別ニ賢所御外箱ヲ引ク白羽二重製引紐二條附屬ス

參照附圖

作第八十三圖　賢所移御裝置分解其ノ四　秘　4/10

第九項　脚立

脚立ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ケ取外ス際ニ使用スル踏臺ニシテ長サ七〇〇粍、幅三〇〇粍、高サ五〇〇粍トシ二臺ヲ以テ一組トス、使用材ハ臺灣檜ニシテ白木造トス

參照附圖

作第八十四圖　脚立　秘　14

第一〇項　幔幕

移御奉仕場備品置場、奉仕者控所用幔幕ハ大禮使調度部ニ於テ調製スルモノナルヲ以テ當省ニ於テ寸法ヲ通知スル必要アリ依リテ各局ニ通牒シテ寸法ヲ調査セシメタルモ移御奉仕場及備品置場用幕ハ各驛ニテ其ノ取付ケ異ルタメ完成セル幔幕ニテハ其ノ取付困難ナルト調製ニ時日ヲ要スルヲ以テ幕ハ兩端ヲ縫上ゲ上下端ハ縫上ゲザル未完成品トシ奉仕者控所用ハ上部ニ乳ヲ有スル高サ六尺ノ完成品トシ交付ヲ大禮使調度部ニ希望シ十月二十三日現品交付セラレタルヲ以テ直ニ各局ニ送付シ現場ニ合セ加工セシメタリ

移御奉仕場及備品置場用幕ハ水色ト白ノ麻地ノ幔幕ニシテ上部ニハ乳ヲ着ケズ水色ノ打紐ヲ二ツ折トシ幔幕ノ上方ニ縫付ケ直徑三五粍ノ眞鍮環ニ取付クルコトトス環ハ豫メ上部ニ張ラレタル吊手鋼索ニ通シ置キ紐ノ長サニヨリ乘降場ノ勾配ニ合セ高サヲ調製シ結ビ付ク東京驛ニ於テハ此ノ調整セル打紐ニ茄子環ヲ取付ケ幕ノ取外シヲ容易ニセリ幕ノ下部ニハ風ニ煽ラルルヲ防グタメ茄子環(京都驛ハ**フツク**)ヲ取付ケ床面ニ裝置セル環ニ引掛クル樣ニス、東京驛ニ於テハ更ニ下部ニ重錘ヲ縫込ミタリ

幔幕ノ寸法左ノ如シ

東京驛ニ於テ施設セル幕ノ寸法

賢所移御奉仕場及備品置場用(高サ十一尺四寸)

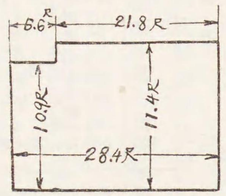
幅三十四尺二張、同三十一尺五寸一張、同百八尺一張

賢所移御作業奉仕者控所用(高サ六尺)

幅二十四尺一張

名古屋驛ニ於テ施設セル幕ノ寸法

賢所移御奉仕場用(高サ十一尺四寸)



上圖寸法ノモノ二張

幅三十九尺六寸　一張

備品置場用(高サ十尺)

幅四十尺六寸一張、同二十六尺四寸一張、同三十九尺六寸一張

賢所移御作業奉仕者控所ハ屋内ナルヲ以テ幔幕ハ新製セズ京都驛ニ施設セル幔幕寸法

賢所移御奉仕場及備品置場用(高サ十一尺四寸)

幅八尺九寸二張A、B、同三十五尺二張C、D、同三十二尺四寸一張F、同三十尺一張E、同二十六尺四寸一張H、同二十五尺八寸一張G

記入符號ハ第四節第三項ノ附圖記載

賢所移御作業奉仕者控所用(高サ六尺)

幅四十二尺二張

第一一項　移御施設ノ實物及模型ノ製作

先ヅ賢所移御施設品全部ノ實物、大ノ模型ヲ大井工場ニ於テ製作シ試驗シタルニ其ノ結果良好ナルヲ以テ次デ同工場ニテ實物ノ製作ヲ爲ス完成ノ後賢所御外箱ハ宮内省ヘ送付シ御下机及御下机止木ハ賢所乘御車ニ取付ケ其ノ他ハ實物及模型共東京、名古屋、京都ノ各驛ニ送付シ驛長ヲシテ保管セシメタリ但シ模型ハ驛ニ於ケル練習用トセリ

移御施設品御製作個數

品名	實物製作個數	模型製作個數	製作所	記事
賢所御外箱	一個		大井工場	現品完成ノ上十月十九日宮内省納入
御下机	一個	〃	〃	乘御車ニ備ヘ付ク
御下机止木	一組		〃	〃
御紋章臺	三個			
御下机臺	四個	四個	〃	東京、名古屋、京都各一個
棧橋	四個	四個	〃	東京、京都各一個、名古屋二個
長柄臺	四組	四組	〃	東京、京都各一個、名古屋二個
御羽車止木及襴干臺	三個	三個	〃	一組ハ四個、東京、京都各一組、名古屋二組
脚立	六個	六個	〃	東京、名古屋、京都各一個
幔幕	三組	三組	布地ハ宮内省取付裝置ハ各鐵道局ニ於テ現場ニ合セ製作	東京、京都、名古屋各二個
				東京、名古屋、京都各一組

備考

賢所御外箱、御下机、御下机止木、御紋章臺ノ模型製作ナキハ大正天皇御即位式ノ際使用ノ實物但シ賢所御外箱ハ模型アリシヲ以テナリ

幔幕ハ各鐵道局ニ於テ現場ニ合セ模型ヲ製作セリ

第四節　賢所御乘降驛ニ於ケル施設

第一項　東京驛

第一　賢所移御奉仕場

移御奉仕場ハ賢所乘御ノ際ハ第四乘降場ニシテ降御ノ際ハ第三乘降場ニ設ク、列車ノ發着スル擁壁側以外ノ三方ハ幔幕ヲ以テ張リ圍シ左右幕及袖幕(擁壁ト柱トノ間ノ部分ノ幕ナリ)ハ「イ」ニ柱ニ向ツテ開キ後方幕ハ「ハ」ニ向ツテ開キ同柱ニ括リ付ケ得ル樣ニシ幕ノ吊手ハ直徑四分ノ一吋ノ鋼索ヲ使用セリ、幕ノ開閉ニハ幕ノ上部兩側ニ滑車ヲ裝置シ柱ノ傍ニ於テ引紐ヲ以テ行フモノトス(圖面參照幕ノ煽止メ環ハ柱ノ中間ニ各二個所設備ス幕ノ構造ハ第三節第十項ニ記載ス

第三、第四乘降場ニ於ケル移御施設品ヲ共通ニ使用スルタメ奉仕場床面ノ軌條面上ノ高サヲ同一ニスル必要アルヲ以テ調査ノ結果第三乘降場軌條面ヲ上昇シ第四乘降場ト同ジ高サトセリ

第二　備品置場

備品置場ハ乘御ノ際ハ第四乘降場、降御ノ際ハ第三乘降場ノ北端昇降機ノ南側ニ設ケ周圍ハ第三節第十項記載ノ幔幕ヲ以テ被ハレ東側ノ幕ノミ北ノ柱ニ向ツテ開カル

東側幕ノ吊手ノ鋼索ハ御羽車出入ニ差支ヘナキ樣高サヲ十一尺五寸トス幕ノ開閉方法ハ奉仕場ニ同ジ

第三　賢所移御奉仕者控所

控所ハ第四乘降場降車口ノ階段下東側ニ設ケ一方ノミ幔幕ヲ張リ控所内人員輿丁二十人鐵道從事者二十六人ニ應ジ長椅子ヲ適當ニ配備ス、荷奉仕者ノ奉仕場ニ入場ニ際シテハ手水ヲ使ヒ清メヲ行フ爲宮内省ヨリ配付サレタル桶ヲ用意セリ

參照附圖
作第八十五圖　東京驛賢所移御奉仕場幔幕裝置
作第八十六圖　東京驛電氣列車用乘降場平面圖

第二項　名古屋驛

第一　賢所移御奉仕場

賢所移御奉仕場ハ本屋側乘降場ニテ行幸ノ際ハ京都寄ニ還幸ノ際ハ東京寄ニ設置セラレ三方ヲ幔幕ヲ以テ繞ラシ作業順序及御羽車ノ搬出搬入ノ方向ヲ考慮シ次圖ノ如ク決定セリ圖ニ於テ「イロハ」柱ハ假柱ニシテ幕ハ矢ノ方向ニ開カル幕ノ吊手ノ鋼索ハ左右及後方ニテハ高サ十一尺五寸トシ袖幕ノ部分ニテハ屋根低キタメ高サヲ十一尺トシ幕ノ開閉方法ハ東京驛ニ同ジク下部ノ幕ノ煽リ止メモ同樣ナリ但シ重錘ハ使用セズ幕ハ第三節第十項ニ記載スルモノヲ使用シ兩所共通使用シタルヲ以テ長キ方ニヨリテ製作セリ

第二　備品置場

備品置場ハ移御奉仕場ノ後方ニ隣接シテ設ケラレ周圍ヲ幔幕ニテ繞ラス前部ハ奉仕場ノ幔幕ニヨリ仕切ラレ兩側及後方ノ幕ハ幕吊リ高サ十尺トシ御羽車ヲ搬出搬入スルタメ後方ノ幕ハ開閉シ得ル樣ニ爲セリ幔幕ハ第三節第十項ニ記載ノモノヲ使用ス

第三　賢所移御奉仕者控所

行幸ノ際ハ手小荷物扱室ノ一部ヲ還幸ノ際ハ小荷物扱所ノ一部ヲ幕ニテ仕切リ控所トス幕ハ屋内ナルヲ以テ別ニ新製セズ驛備付黑白ノ幔幕ヲ張リタリ内部ニ於ケル長椅子及清メノ桶ノ準備等ハ東京ニ同ジ

控所内人員　輿丁　十六人　鐵道從事者　十三人

參照附圖

作第八十七圖名古屋停車場本屋側乘降場一部平面圖

第三項　京都驛

第一　賢所移御奉仕場

賢所移御奉仕場ハ本屋側乘降場ニ乘御ノ際ハ東京寄降御ノ際ハ大阪寄ニ設置ス、奉仕場ハ三方ニ幔幕ヲ張リ幕張リ用鋼索ハ直徑四粍ノモノヲ使用シ高サハ十一尺五寸トシ袖幕ハ屋根低キタメ別ニ袖幕用吊手ヲ設ケ幕ノ取付紐ヲ調整シテ取付クルコトトシ下端ハ床面ト約二〇粍ノ間隔ヲ有シ平行スル如クセリ、床面ニハ幕ノ煽止メ**フツク**ヲ引掛クル環ヲ二米毎ニ取付ク本驛ニ於テハ幕ノ開閉ニハ袖幕以外ノ幕開閉用紐ヲ使用セズ幕ノ一端ヲ持チテ開閉スルコトトセリ幕ノ引開ケ方向ハ圖中矢ニテ示ス、降御ノ際ノ奉仕場ハ乘御奉仕場ニ比シ奥行約三米大ナルヲ以テ袖幕(A B)及左右ノ幕(C D)ノ四枚ヲ以テ兩側ヲ被ヒ乘御ノ際ハ(C D)ノミニテ左右及袖幕用トセリ、後方ノ幕ハG及Eト取換ヘ使用スルコトトセリ、乘御奉仕場ノ「ロ」「ハ」「ニ」ハ假柱ヲ建テシモノナリ幔幕ハ第三節第十項ニ記載ノモノヲ使用ス

第二　備品置場

備品置場ハ奉仕場ノ後方ニ隣接シ奉仕場ト同ジク周圍ヲ幔幕ヲ以テ繞ラシ前方ハ奉仕場ノ後方ノ幕ヲ以テ仕切ラレ幕張リノ高サハ十一尺五寸トス幕ノ開ク方向ハ圖中矢ニシ示シ幕ノ開閉ニハ引紐ヲ使用セズ幕ハ乘御及降御ニヨリ其ノ位置ヲ變更スルコト圖面記載符號ノ如シ幔幕ハ第三節第十項ニ記載ノモノヲ使用ス

第三　賢所移御奉仕者控所

圖示ノ如ク控所ハ降御ノ際ハ降車口階段側乘御ノ際ハ乘車口階段側ニシテ周圍ノ幕ハ高サ六尺トシ兩

側ヨリ出入シ得ル樣ニ爲セリ、內部裝置ハ東京ニ同ジ

控所內人員　褐輿丁　二十人　　鐵道從業者　十三人

參照附圖

作第八十八圖京都停車場本屋側乘降場一部平面圖

第五節　工事工程及工事費

工事工程及工事費ハ別表記載ノ通(本章末尾參照)

第六節　賢所移御作業

第一項　賢所移御作業奉仕者ノ選定

賢所移御作業ノ順序ヲ大體決定シタル後必要ナル奉仕者ノ人選範圍ニ就キ工作局長運輸局長、工務局長以下關係員合議ノ上人選範圍ヲ左記ノ如ク決定シ東京、名古屋、大阪各鐵道局長ニ通報シ九月二十五日迄ニ內申セシメ後大禮使長官ノ承認ヲ經テ決定セリ

人選範圍左ノ如シ

東京鐵道局

一　鐵道省作業主任　一名(工作課長)

一　乘御車ノ扉開閉及御紋章取付取外シ擔當者　一名(客貨車掛長)

一　乘降場備品運搬及整備作業指導者　一名(東京檢車所主任)

一　備品整備作業從事者　四名

一　備品運搬作業從事者　(工作關係技手二名　運轉關係技手二名)　十名

一　乘降場幔幕取扱者　(檢車手六名內一名技手又ハ鐵道手　工場雇員四名)

一　御羽車用取付ケ取外シ從事者　四名(保線掛員　內一名技手)

一　同右用止金　〃　四名(工作關係技手)

一　掌典補　四名(運轉關係技手)

名古屋鐵道局　四名(工作關係技手內一名本省技手)

一　鐵道省作業主任　一名(工作課長)

一　乘御車ノ扉開閉及御紋章取付取外シ擔當者　一名(客貨車掛長)

一　乘降場備品運搬及整備作業指導者　一名(運轉課技師)

一　乘降場備品整備作業從事者　四名(工作關係技手二名　運轉關係技手二名)　五名

一　備品運搬作業從事者　(檢車所主任一名　檢車手二名　工場雇員二名)　四名(保線掛員　內一名技手)

大阪鐵道局

一　鐵道省作業主任　一名(工作課長)

一　乘御車ノ扉開閉及御紋章取付取外シ擔當者　一名(客貨車掛長)

一　乘降場備品運搬及整備作業指導者　一名（車輛掛長）
一　備品整備作業從事者　四名
一　備品運搬作業從事者　五名（工作關係技手二名　運轉關係技手二名）
一　乘降場幔幕取扱者　四名（檢車所主任一名　檢車手二名　工場雇員二名）（保線掛員　内一名技手）

第二項　賢所移御作業ノ練習

第一　東京驛ニ於ケル御羽車進御ノ練習

五月十一日大井工場ニテ製作中ノ御羽車用御車ノ模型完成セルヲ以テ東京驛貴賓通路ニ於テ豫備試驗ヲ行フ、次デ十二日同所ニ於テ宮内省西園寺主馬頭、星野掌典外關係員、鐵道省側ヨリ次官、工作局長、東鐵工作課長外關係員立會試驗ヲ爲シタルガ其ノ成績良好ナリキ

九月二十日深夜ヨリ翌朝未明ニ亙リ宮内省ニテ宮城ヨリ東京驛ニ至ル鹵簿行列ノ練習ヲ行ヒタリ其ノ際御羽車東京驛ニ着セシハ午前三時頃ニテ直ニ御車寄ニテ御羽車ニ車ヲ取リ付ケ貴賓通路ヲ通リ階段下ニ進御スル豫行演習ヲ爲ス立會者ハ車輛課長、東鐵工作課長、其ノ他關係技師トス

十月十三日ヨリ十月二十八日ニ亙ル御召列車第一回第二回試運轉ニ際シ東京驛ニ於テハ賢所移御ノ練習ヲ行フト共ニ貴賓通路ニ於ケル御羽車進御ノ練習ヲ爲ス

十一月二日擧行ノ宮城東京驛間鹵簿行列ノ練習ニ際シ東京驛内ニ於テモ移御練習ヲ行フコトトナリ御羽車進御ノ練習ヲ行ヒシモ折惡シク降雨ノ爲行列ノ歸路ヲ急ギ時間無カリシ爲賢所移御練習ハ中止セリ

第二　大井工場ニ於ケル練習

大井工場ニ於テ製作セル賢所移御施設備品ノ模型完成セルヲ以テ七月十六日豫メ構内ニ設備セル東京名古屋京都各驛模型乘降場ニ於テ豫行演習ヲ行ヒ翌十七日大井工場ノ技工ヲシテ移御作業ヲ行ハシメ移御ニ要スル時間ヲ測定セルニ四分乃至六分ニシテ作業ヲ終了スルコトヲ認メタリ

十八日ニハ宮内省星野掌典外關係員及本省ヨリ工作局長外關係員立會ニテ賢所移御狀況ヲ視察セリ、賢所移御奉仕者ヲ決定シタル後賢所移御ノ練習ヲ爲サシムルコトトナリ各鐵道局ノ奉仕者ヲ十月四日ヨリ三日間大井工場ニ召集シ工場内假乘降場ニ於テ練習ヲ行ハシメタリ、練習日ハ四日東京鐵道局、五日名古屋鐵道局、六日大阪鐵道局ノ豫定ナリシモ三日間ニ亙リ賢所乘御車ヲ用フルコトハ汚損スル虞レアルヲ以テ後記ノ如ク變更セリ即チ四日午後ハ東京鐵道局、五日午前ハ名古屋鐵道局、午後ハ大阪鐵道局トシ乘御車及備品ハ總テ模型ヲ使用セシメ六日ニハ賢所乘御車及備品共大禮當日使用スベキ實物ヲ使用シ宮内省、本省及各局關係者參集立會ノ下ニ各局二回ノ練習ヲ爲セリ

各局奉仕者練習時間ハ次ノ如シ

十月四日	午前十時	東京鐵道局
五日	午前八時	名古屋鐵道局
	午後一時	大阪鐵道局
六日	午前八時	東京鐵道局
	午前十時	名古屋鐵道局
	午後一時	大阪鐵道局

第三　御召列車試運轉ノ際ノ練習

御召列車試運轉ト同時ニ東京、京都、名古屋各驛ニ於テハ移御奉仕者ニ依リ乘御及降御ノ練習ヲ行ヒタリ

奉仕者ハ列車發着時刻一時間前ニ驛ニ集合シ練習ノ準備ヲナス、練習ニ使用セル御羽車ニハ第一回試運轉ノ際ハ賢所ノ重量ヲ四十貫トシテ御外箱ニ砂嚢ヲ積載セリ

東京京都兩驛ニ於テ使用セル御羽車ハ大井工場ニ於テ製作セル模型ヲ使用シ東京驛ニ於ケル練習ヲ終リタル後直ニ京都驛ニ廻送シ御召列車京都驛御到着三十分前迄ニ所定備品置場内ニ持込ムコトトセリ又御召列車京都御發車ノ際東京驛ニ廻送スルコト亦同ジ、名古屋驛使用ノ御羽車ハ宮内省ニ於テ製作セル模型ヲ借用シ大井工場ニ於テ移御ニ必要ナル加工ヲナシタル上使用シタリ

尚第二回試運轉ニ際シテハ御羽車ヲ奉昇スル駕輿丁ヲ參加セシメテ移御練習ヲナシタリ

第一回御召列車試運轉ノ際ノ各驛發着時刻及賢所移御所要時間

發着驛	時日	所要時間	記事
東京驛發	十月十三日午前七時廿二分	二十分	御羽車御車寄着ヨリ移御完了迄
名古屋驛着	十月十三日午後三時十四分	十九分	御召列車到着ヨリ御羽車幕外ニ出ル迄
名古屋驛發	十月十四日午前九時四十分	十四分	御羽車幕外着ヨリ移御完了迄
京都驛着	十月十四日午後一時廿九分	十七分	列車到着ヨリ御羽車幕外ニ出ル迄
京都驛發	十月十八日午前十時五十七分	十三分	御羽車幕外着ヨリ移御完了迄
名古屋驛着	十月十八日午後二時四十二分	十七分	列車到着ヨリ御羽車幕外ニ出ル迄
名古屋驛發	十月十九日午前六時三十分	十四分	御羽車幕外着ヨリ移御完了迄
東京驛着	十月十九日午後二時五十五分	十九分	列車到着ヨリ御羽車御車寄ニ出ル迄

第二回御召列車試運轉ノ際ノ各驛發着時刻及賢所移御所要時間

發着驛	時日	所要時間	記事
東京驛發	十月廿二日午前八時	二十分	A
名古屋驛着	十月廿二日午後三時三十分	廿一分	B
名古屋驛發	十月廿三日午前十一時	十六分	A
京都驛着	十月廿三日午後二時	二十分	B
京都驛發	十月廿七日午前十一時	十二分	A
名古屋驛着	十月廿七日午後二時	十七分	B
名古屋驛發	十月廿八日午前八時	十四分	A
東京驛着	十月廿八日午後三時三十分	廿六分	B

備考

Aハ御羽車御車寄到着ヨリ移御完了迄

Bハ御召列車到着ヨリ御羽車御車寄ニ出ル迄

第四　各驛ニ於ケル賢所移御作業練習

一　東京驛ニ於テハ十月六日ヨリ十一日迄七日間幔幕取扱ノ練習ヲ爲シ且ツ强風ノ際ニハ幔幕ノ取扱困難ナルヲ以テ隨時其ノ練習ヲ行ヘリ御羽車進御及移御作業ハ前項(第二)(第三)以外ハ行ハズ

二　名古屋驛ニ於テハ十月十一、十二、十三、十五、十六、十八、廿二、廿六日及十一月五日、廿四日移御作業ノ練習ヲ行ヘリ

三　京都驛ニテモ前項第三以外ハ賢所移御ノ練習ヲ行ハズ

第三項　賢所移御作業奉仕者ノ服裝

一　作業主任　大禮服又ハ制服

一　掌典補　衣冠單帶劍ヲ除ク）

一　御羽車用御車取付取外シ　駕輿丁服

一　同上止金取付取外シ　駕輿丁服

一　其ノ他ノ移御奉仕者　制服

衣冠單及駕輿丁服ハ宮內省ヨリ支給セラレ使用後ハ當人ニ下賜セラレタリ、賢所移御作業ニ從事スル職員ニシテ平素制服制帽ヲ貸與セザルモノニ對シテハ當日ニ限リ繰合セ貸與シ得ル樣取計ヒタリ

第四項　賢所移御作業奉仕次第

賢所移御作業奉仕次第ハ詳細ニ定ムルトコロアリ依テ次ニ之ヲ掲グ

第一　東京驛

行幸ノ場合

◎御羽車渡御奉仕作業

奉仕者　一名

一　鐵道省作業主任

一　御羽車用御車取付取外シ從事者　四名（1、2、3、4）

一　右用止金取付取外シ從事者　四名（5、6、7、8）

◎御羽車御車寄ニ到著ヨリ乘車場迄

一　御羽車御車寄ニ到著

二　御羽車用御車ヲ長柄ニ嵌入シ支フ（1、2、3、4、奉仕）

三　止金ヲ車ノ孔ニ挿入シ車ヲ長柄ニ垂下サス（5、6、7、8、奉仕）

四　車ノ方向ヲ調整ス（1、2、3、4、奉仕）

五　御羽車ヲ降シ宮內省御羽車付奉仕者交替ス（宮內省奉仕）

六　玄關廣堂ヨリ拱下ニ推進ス（宮內省奉仕）

七　鐵道省奉仕者ハ御羽車ノ兩側ニ從フ

八　乘車場階段下ニ於テ御羽車ヲ奉持ス（宮內省奉仕）

九　車ヲ支持ス（1、2、3、4、奉仕）

一〇　車用止金ヲ拔ク（5、6、7、8、奉仕）

一一　車ヲ取外ス（1、2、3、4、奉仕）

一二　御羽車乘車場ニ渡御（宮內省奉仕）

一三　鐵道省奉仕者ハ車及ビ止金ヲ持チテ乘車場ニ出デ出口階段下ノ控所ニ退去ス但シ作業主任ハ御羽車ニ從ヒ移御奉仕場幕內ニ入ル

◎東京驛ニ於ケル賢所移御奉仕作業

奉仕者

一　宮内省掌典補(鐵道職員兼務)甲、乙、丙、丁　四名
一　鐵道省作業主任　一名
一　乘御車扉ノ開閉及御紋章取付取外擔當者　一名
一　乘降場備品運搬及整備作業指導者　一名
一　備品整備作業從事者A、B、C、D、　四名
一　備品運搬作業從事者1、2、3、4、5、6、7、8、9、10　十名
一　乘降場幔幕取扱者イ、ロ、ハ、ニ(ロ、ハ幕扱主任)　四名

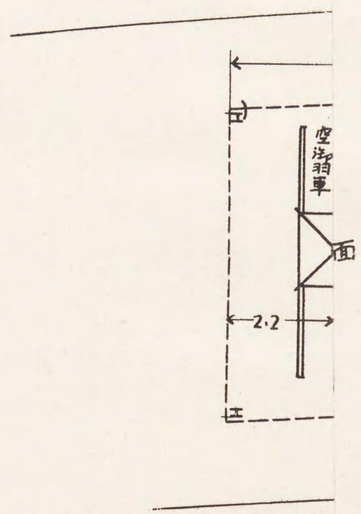
◎賢所御乘車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

◎御羽車到著前ノ準備作業

一　列車所定ノ位置ニ停車ス
二　作業主任ノ合圖ニヨリ右側ノ幕、左右袖幕及後方ノ幕ヲ閉ヅ此ノ際甲、乙ハ乘御車內ニ入ル
　　右側及右袖幕(イ、ロ奉仕左袖幕(ハ、ニ奉仕)後方ノ幕(ロ、ハ奉仕)終ツテ(イ、ロ、ハ、ニ)ハ圖示ノ位置ヲ退ク
三　備品運搬

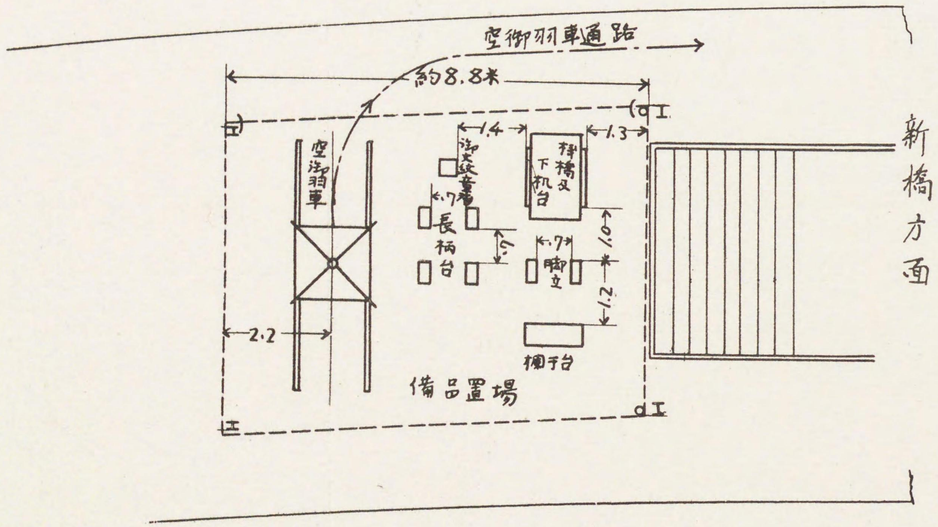
指導者			
御紋章臺	1	ABCD	2345
長柄臺	御下机臺	棧橋	6 7
脚立	欄干臺		8 9 10

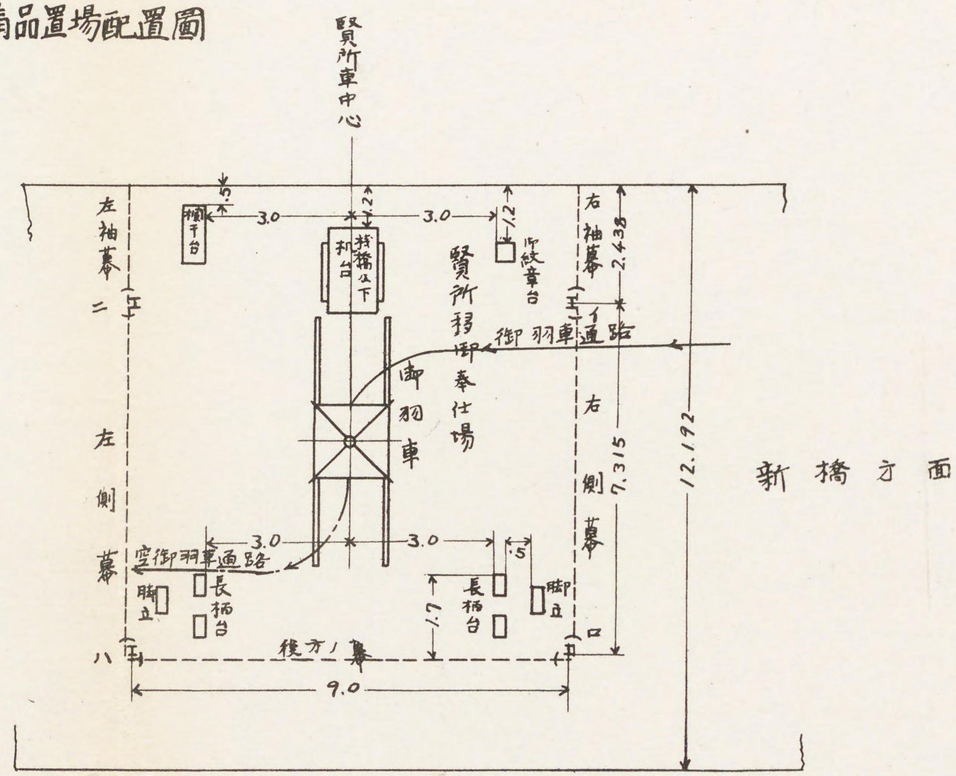
右ノ順序ニテ奉仕場ニ向フ御紋章臺、長柄臺ハ其儘奉仕場內所定ノ場所ニ置キ他ハ奉仕場外ニ置キ棧橋ハ御下机臺上ニ置ク終ツテ運搬從事者ハ別圖指示ノ所ニ起立スA、B、C、Dハ備品ヲ順次ニ奉仕場內所定ノ位置ニ移ス



東京停車場賢所移御奉仕場及備品置場配置圖

寸法單位 米





新橋方面

「イロハニトアルハ幔幕取扱ヒ」

御下机臺(棧橋ヲ載セタル)　A B C D　欄干臺　脚　立　A B C D

四　左側ノ幕ヲ閉ヅ(ハ、ニ奉仕)終ツテ「ハ、ニ」ハ圖示ノ位置ニ退ク

五　乘御車ノ御紋章ヲ取外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕、指導者補助)

六　御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(甲、乙奉仕)

七　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A、B、C、D奉仕)

棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A、B奉仕)

御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位直ニ定メ棧橋ヲ下ス(C、D、A、B奉仕)

八　軌條接續片ヲ取付ク(A、B奉仕)

此ノ際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

九　整備者A、Bハ別圖指示ノ位置ニ、擔當者及指導者ハ右側幕外圖示ノ位置ニ起立ス

一〇　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(丙、丁奉仕)

一一　乘御車内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(甲、乙奉仕)終ツテ甲、乙ハ乘御車ヨリ出ヅ

一二　御下机ヲ御下机臺上ニ搬出ス(丙、丁奉仕)

一三　御下机ヲ止木ニテ御下机臺上ニ固定ス(丙、丁奉仕)

一四　御下机欄干ヲ撤去シ御外箱止用金具ヲ取外シ棧橋上ニ置ク

兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

御外箱止用金具外シ(甲、乙奉仕)

一五　奉仕場右側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)終ツテ「イ、ロ」ハ圖示ノ位置ニ起立ス作業主任ハ御車寄ニ到リ御羽車

ノ到着ヲ待ツ

◎賢所移御作業

一六　賢所幔幕内ニ渡御(宮内省奉仕)

一七　奉仕場右側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

一八　御羽車ヲ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)

一九　御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(宮内省奉仕)此ノ際C、Dハ脚立ヲ取扱ヒ終ツテ幕外圖示ノ位置ニ退ク

二〇　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整シ御下机床面ト水平トス(宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助)終ツテ輿丁ハ御羽車ノ左右後方ニ退ク後方調整(甲、乙奉仕前方調整(丙、丁奉仕)

二一　御羽車後方欄干及御外箱止木ヲ取外シ欄干臺上ニ置ク

後方欄干外シ(甲、乙奉仕)御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)

二二　御外箱下部環ニ紐ヲ掛ケ後部ヨリ引キ前部ヲ推シ(丙、丁奉仕)

後部ヨリ紐ニテ引ク(甲、乙奉仕)前部ヲ推ス(丙、丁奉仕)

二三　御外箱ヲ御外箱止用金具ニテ固定ス(丙、丁奉仕)

二四　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザク

宮内省奉仕者ハ御羽車ヲ捧ゲ甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ移ス

二五　御羽車ニ御外箱止木ヲ取付ケ次デ後方欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕)

二六　御下机ノ欄干ヲ取付ク(甲、乙奉仕)此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(C、Dハ脚立ヲ取扱フ)

二七　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(甲、乙奉仕)

二八　賢所ヲ乘御車内ニ移御ス(甲、乙奉仕)

二九　御下机ヲ御座所ニ固定ス(乘御車内宮内省奉仕者)

三〇　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニ置ク(甲、乙奉仕)

三一　御座所ノ御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂ル(乘御車内宮内省奉仕者)

三二　御下机止木ヲ取付ク(丙、丁奉仕)

三三　主任ノ合圖ヲ待チテ擔當者、指導者及整備者ハ奉仕場ニ入場ス

三四　備品取片付

棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)

コノ場合必要ニ應ジ乘御車内宮内省奉仕者ハ御座所ノ御簾ヲ少シク揚グ

三五　乘御車ノ扉ヲ閉ジ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕、指導者補助)此ノ際御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(宮内省奉仕C、Dハ脚立ヲ取扱フ)

三六　主任ノ合圖ニ依リ左側ノ幕ヲ開ク(ハ、ニ奉仕)

三七　御羽車ヲ搬出ス(宮内省奉仕)運搬者奉仕場ニ入ル

三八　備品搬出指導者A、B、C、D、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10奉仕)

指導者
- A B C D
- 8、9
- 10
- 6、7
- 2 3 4 5
- 1

長柄臺　脚立　欄干臺　棧橋　御下机臺　御紋章臺ノ順ニ置場ニ搬入ス終ツテ控所ニ退去

ス擔當者及指導者ハ降車口階段上ニ起立ス

三九　幔幕ヲ開ク(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)

總テ幔幕ヲ開キ儀裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ク終ツテ「イ、ロ、ハ、ニ」ハ控所ニ退去ス

四〇　作業主任ハ作業完了ヲ鐵道局長ニ報告ス終ツテ降車口階段上ニ起立ス

還幸ノ場合

◎賢所御降車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス、コノ場合作業主任ハ降車口階段上ニ擔當者指導者ハ備品置場前ニ起立ス

二　陛下ノ御降車後掌典ノ合圖ニヨリ作業主任ハ作業開始ノ合圖ヲナス之レニヨリ擔當者及幔幕取扱者ハ移御奉仕場ニ參集ス

三　作業主任ノ合圖ニヨリ右幕及右袖幕左袖幕及後方ノ幕ヲ閉ヅ

右幕及右袖幕(イ、ロ奉仕)後方ノ幕(ロ、ハ奉仕)左袖幕(ハ、ニ奉仕)

終ツテ「イ、ロ、ハ、ニ」ハ圖示ノ位置ニ退ク

四　備品運搬

指導者			
御紋章臺	1		
長柄臺	A B C D		
御下机臺	2 3 4 5		
棧橋	6 7		
脚立	8 9		
欄干臺	10		

右ノ順序ニテ奉仕場ニ向フ、御紋章臺、長柄臺ハ其儘奉仕場内所定ノ場所ニ置キ他ハ奉仕場外ニ置キ棧橋ハ御下机臺上ニ置ク終ツテ運搬從事者ハ別圖指圖ノ所ニ起立ス

A'B'C'D'ハ備品ヲ順次ニ奉仕場内所定ノ位置ニ移ス

A B C D　御下机臺(棧橋ヲ載セタル)　欄干臺 A B C D　脚立 A B C D

五　御羽車ヲ幔幕内ノ長柄臺上ニオク(宮内省奉仕者及A'B'C'D'奉仕)

六　左側ノ幕ヲ閉ヅ(ハ、ニ奉仕終ツテ「ハ、ニ」ハ圖示ノ位置ニ退ク

七　乘御車ノ御紋章ヲ取外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕指導者補助)

此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(C'D'ハ脚立ヲ取扱フ)

八　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A'B'C'D'奉仕)

棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニオキ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A'B'奉仕)

御下机臺ヲ動シ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス(C'D'A'B'奉仕)

九　軌條接續片ヲ取付ク(A'B'奉仕)

此ノ際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

前二項作業ノ場合宮内省奉仕者ハ必要ニ應ジ御座所ノ御簾及御帳ヲ少シク揭グ

一〇　整備者ハ別圖指示ノ位置ニ擔當者指導者ハ右側幕外ニ起立ス(C'D'ハ幕内後方ニ起立ス)

一一　御羽車後方欄干及御外箱止木ヲ撤去ス

後方欄干外シ(甲、乙奉仕)御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)

一二　乘御車御座所ノ御簾ヲ揭ゲ御帳ヲ開ク(乘御車内宮内省奉仕者)

一三　御下机止木ヲ取外ス(丙、丁奉仕)

一四　御座所内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(乘御車内宮内奉仕者)

一五　御下机ヲ御下机臺上ニ移ス(甲、乙奉仕)

一六　御下机ヲ御下机臺上ニ固定ス(甲、乙奉仕)コノ時丙、丁ハ兩側欄干ノ止金具ヲ外ス

一七　御下机ノ欄干ヲ撤去ス

兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

但シ御外箱止用金具ハ其儘トシ取外サズ

一八　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調製ス(宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助経ツテ輿丁ハ御羽車ノ左右後方ニ整列ス

一九　御外箱止用金具ヲ取外ス(甲、乙奉仕)

二〇　賢所ヲ御下机ヨリ御羽車ニ移御ス(甲、乙、丙、丁奉仕)

丙、丁ハ紐ヲ引キ甲、乙ハ推進ス

二一　御羽車ニ御外箱止木ヲ固定シ後方ノ欄干ヲ取付ク

御外箱止木固定(甲、乙奉仕)後方欄干取付(丙、丁奉仕)

二二　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザケ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕此ノ際主任ノ合圖ニヨリC、Dハ幕内ニ入ル

二三　御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(宮内省奉仕)C、Dハ脚立ヲ取扱フ

二四　主任ノ合圖ニ依リ右側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

二五　賢所幕外ニ渡御(宮内省奉仕)コノ場合甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ撤去ス

之レヨリ前局長ハ陛下ヲ便殿ニ御先導ヲ終リ賢所移御奉仕場右幕外ニ歸リ來リテ移御終了ヲ待チテ更ニ賢所ノ御先導ヲナス、主任ハ御羽車ニ從ヒ御車寄ニ向フ

◎御羽車幔幕外渡御後ノ作業

一　擔當者、指導者及整備者ハ奉仕場ニ入場ス

二　右側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

三　御下机ニ御外箱止用金具及欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕此ノ際甲、乙ハ乘御車内ニ入ル

四　御下机止木ヲ取外シ御下机ヲ乘御車内ニ推進ス(丙、丁奉仕)

五　御下机ヲ乘御車御座所ノ床ニ固定ス(甲、乙奉仕)

六　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニ置ク(丙、丁奉仕)

七　御座所御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂レ乘御車ヨリ出ヅ(甲、乙奉仕者)

八　御下机止木ヲ御下机臺ニ取付ク(丙、丁奉仕)

九　備品取片付

棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)

此ノ場合必要ニ應ジ甲、乙ハ御簾ヲ少シク揚グ

一〇　乘御車ノ御扉ヲ閉デ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕指導者補助)

一一　左側ノ幕ヲ開ク(ハ、ニ奉仕)運搬者奉仕場ニ入場ス

一二　備品搬出(指導者A、B、C、D、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10奉仕)

指導者　A、B、C、D　長柄臺　欄干臺　10　脚立　棧橋　8、9　御下机臺　6、7　御紋章臺　2、3、4、5　1　ノ順ニ置場ニ搬出ス

一三　幔幕撤去

總テノ幔幕ヲ體裁ヨク柱ニ括リ付ク(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)

◎御羽車御渡奉仕作業

奉仕者

一　鐵道省作業主任　一名

一　御羽車用車取付ケ取外シ従事者　四名（1、2、3、4）
一　右用止金取付ケ取外シ従事者　四名（5、6、7、8）

◎御羽車降車場ニ到著ヨリ御車寄迄

一　御羽車降車場階段下ニ到著シ方向ヲ九十度廻轉ス（宮内省奉仕）
二　宮内省奉仕者ノ奉持スル御羽車ノ長柄ニ車ヲ嵌入ス（1、2、3、4奉仕）
三　止金ヲ挿入ス（5、6、7、8奉仕）
四　車ノ方向ヲ調整ス（1、2、3、4奉仕）
五　御羽車ヲ降シ拱下ヨリ玄關廣堂迄推進ス（宮内省奉仕）
六　鐵道省奉仕者ハ御羽車ノ兩側ニ從フ
七　御車寄階段前ニテ御羽車ヲ奉持ス（宮内省奉仕）
八　車ヲ支持ス（1、2、3、4奉仕）
九　止金ヲ拔ク（5、6、7、8奉仕）
一〇　車ヲ取外ス（1、2、3、4奉仕）
一一　御羽車御發進（宮内省奉仕）
一二　鐵道省奉仕者ハ御羽車ニ從ヒ所定ノ位置ニ退却ス

第二　名古屋驛

◎名古屋驛ニ於ケル賢所移御奉仕作業

奉仕者

一　宮内省掌典補鐵道職員兼務甲、乙、丙、丁　四名
一　鐵道省作業主任　一名
一　乘御車扉ノ開閉及御紋章取付ケ取外シ擔當者　一名
一　乘降場備品運搬及整備作業指導者　一名
一　乘降場備品整備作業從事者A、B、C、D　四名
一　備品運搬作業從事者1、2、3、4、5　五名
一　幔幕取扱者イ、ロ、ハ、ニ（丙「ロ」ハ幕取扱主任）　四名

行幸ノ場合

◎賢所御降車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス
二　陛下ノ便殿ニ入御ノ後掌典ノ合圖ニヨリ作業主任ハ作業開始ノ合圖ヲナス之レニヨリ擔當者及幔幕取扱者ハ移御奉仕場ニ參集ス
三　作業主任ノ合圖ニヨリ左右ノ幕及左右袖幕ヲ閉デ後方ノ幕ヲ開ク
　右幕及右袖幕（ハ、ニ奉仕左幕及左袖幕（イ、ロ奉仕）
　後方ノ幕（ハ、ニ奉仕）
　終ツテ「イ、ロ、ハ、ニ」ハ幕外後方ニ退ク
四　備品ヲ適當ナル箇所ニ配備ス
　御紋章臺（1）
　欄干臺（A、C）

上部ニ棧橋及軌條接續片ヲ載セタル御下机臺(2,3,4,5)
長柄臺四個(右側B,D,左側2,3)
脚　立(4,5)
終ツテ運搬者(1,2,3,4,5)ハ備品置場内ニ退ク

五　御羽車ヲ奉仕場幔幕内ノ長柄臺上ニ置ク(宮内省及ABCD奉仕)

六　奉仕場後方ノ幔幕ヲ閉ヅ(ハ,ニ奉仕)
終ツテ[ハ,ニ]ハ幕外後方ニ退ク

七　乘御車ノ御紋章ヲ外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕,指導者補助)
此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(C,Dハ脚立ヲ取扱フ)

八　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A,B,C,D奉仕)
棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A,B奉仕)
御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス(C,D,A,B奉仕)

九　軌條接續片ヲ取付ク(A,B奉仕)
此際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス
前二項作業ノ際宮内省奉仕者ハ必要ニ應ジ御座所ノ御簾及御帳ヲ少シク揚グ

一〇　整備者ハ備品置場内ニ,擔當者及指導者ハ左側幕外ニ起立ス(CDハ幕内後方ニ起立ス)

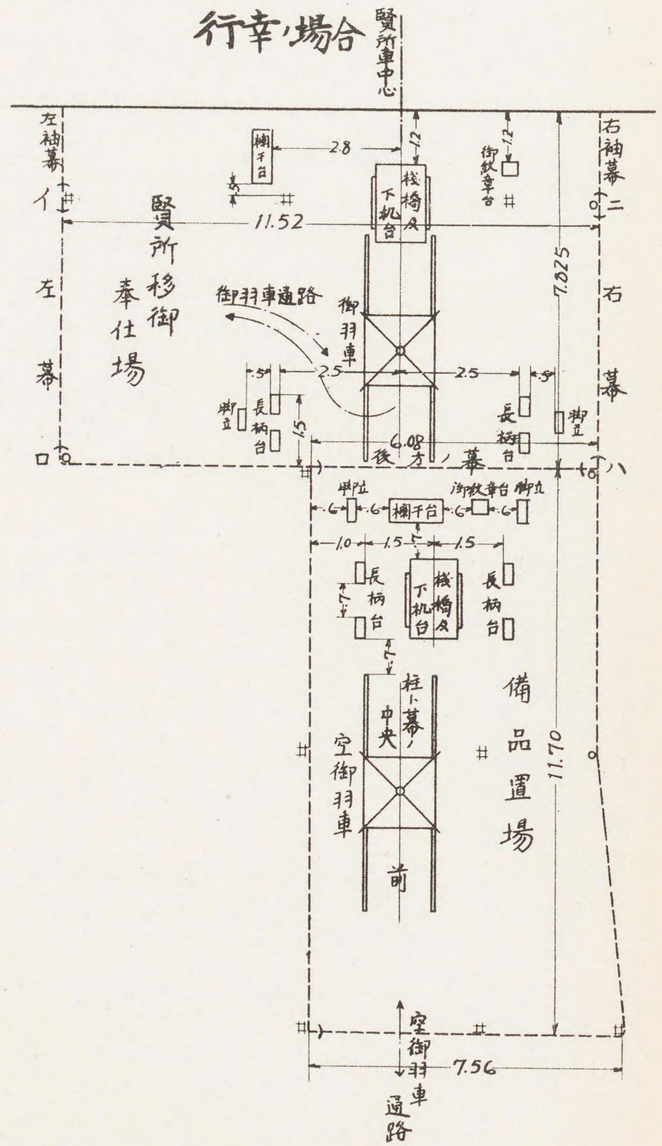
一一　御羽車後方ノ欄干及御外箱止木ヲ撤去ス
後方欄干外シ(甲,乙奉仕御外箱止木取外シ(丙,丁奉仕)

一二　乘御車御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(乘御車内宮内省奉仕者)

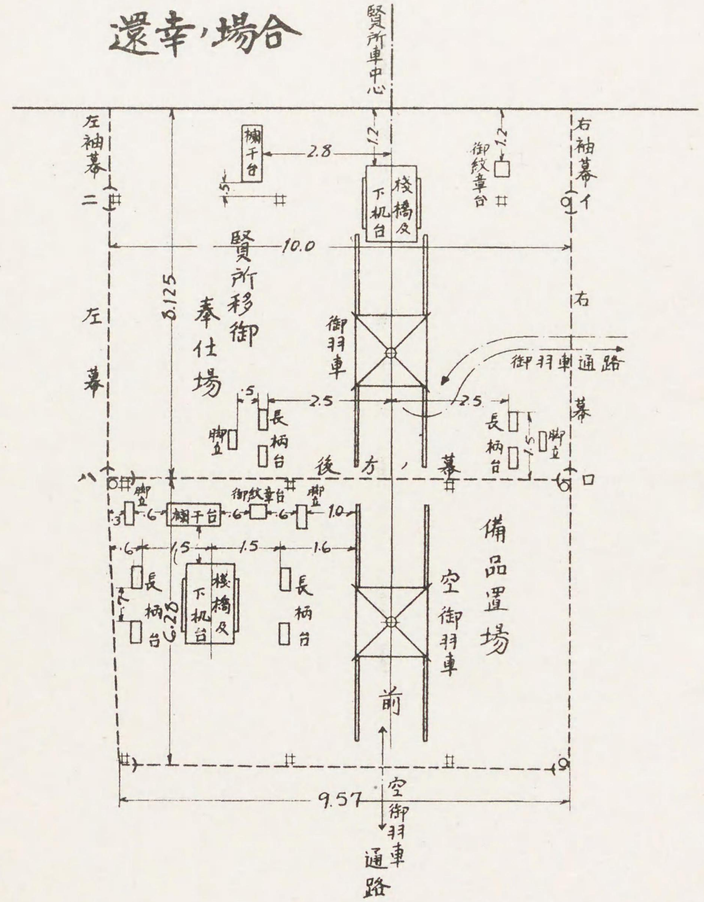
名古屋停車場賢所移御奉仕場及備品置場配置圖

寸法單位米

行幸ノ場合



還幸ノ場合



一〇　整備者ハ備品置場内ニ擔當者及指導者ハ左側幕外ニ起立ス(CDハ幕内後方ニ起立ス)

一一　御羽車後方ノ欄干及御外箱止木ヲ撤去ス

後方欄干外シ(甲乙奉仕御外箱止木取外シ(丙丁奉仕)

一二　乘御車御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(乘御車内宮内省奉仕者)

一三　御下机止木ヲ取外ス(丙、丁奉仕)

一四　御座所内御下机ノ固定装置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(乘御車内宮内省奉仕者)

一五　御下机ヲ御下机臺上ニ移ス(甲、乙奉仕)

一六　御下机ヲ御下机臺上ニ固定ス(甲、乙奉仕此ノ時丙、丁、ハ兩側ノ欄干止金具ヲ外ス

一七　御下机ノ欄干ヲ撤去ス

兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

但シ御外箱止用金具ハ其儘トシ取外サズ

一八　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整ス(宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助終ッテ輿丁ハ御羽車左右後方ニ退ク

後方調整(甲、乙奉仕)前方調整(丙、丁奉仕)

一九　御外箱止用金具ヲ取外ス(甲、乙奉仕)

二〇　賢所ヲ御下机ヨリ御羽車ニ移御ス(甲、乙、丙、丁奉仕)

丙、丁ハ紐ヲ引キ甲、乙ハ推進ス

二一　御羽車ニ御外箱止木ヲ固定シ後方ノ欄干ヲ取付ク

御外箱止木固定(甲、乙奉仕)後方欄干取付ケ(丙、丁奉仕)

二二　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザケ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)此ノ際主任ノ合圖ニヨリC、Dハ幕内ニ入ル

二三　御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(宮内省奉仕)C、Dハ脚立ヲ取扱フ

二四　主任ノ合圖ニヨリ奉仕場左側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

二五　賢所幕外ニ渡御(宮内省奉仕)コノ場合甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ撤去ス
之レヨリ前局長ハ陛下ヲ便殿ニ御先導ヲ終リ賢所移御奉仕場左幕外ニ歸リ來リテ移御終了ヲ待チテ更ニ賢所ノ御先導ヲナス

◎御羽車幔幕外渡御後ノ作業

一　擔當者及指導者奉仕場ニ入場ス
二　奉仕場左側ノ設ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)
三　御下机ニ御外箱止用金具及欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕)此ノ際甲、乙ハ乘御車内ニ入ル
四　御下机止木ヲ取外シ御下机ヲ乘御車内ニ推進ス(丙、丁奉仕)
五　御下机ヲ乘御車御座所ノ床ニ固定ス(甲、乙奉仕)
六　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニ置ク(丙、丁奉仕)
七　御座所ノ御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂レ乘御車ヨリ出ヅ(甲、乙奉仕)
八　御下机止木ヲ御下机臺ニ取付ク(丙、丁奉仕)
九　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(ハ、ニ奉仕)
一〇　備品取片付

整備者及運搬者ハ奉仕場ニ入場ス
棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)
此ノ場合必要ニ應ジ甲、乙ハ御簾及御帳ヲ少シク揚グ

一一　乘御車ノ扉ヲ閉デ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕指導者補助)
一二　備品搬出

御紋章臺(1)
棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)
欄干臺(A、C)
長柄臺(右側B、D、左側2、3)
脚　立(4、5)

一三　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(ハ、ニ奉仕)
一四　奉仕場左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ開キ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ケタル後退去ス(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)

行幸ノ場合

◎御乘車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

◎御羽車到着前ノ準備作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス
二　作業主任ノ合圖ニヨリ奉仕場ノ左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ閉デ後方ノ幕ヲ開ク此ノ際甲乙ハ乘御車内ニ入ル
左幕及左袖幕(イ、ロ奉仕右及右袖幕(ハ、ニ奉仕)後方ノ幕(ハ、ニ奉仕)
終ツテ(イ、ロ、ハ、ニ)ハ幕外後方ニ退ク
三　備品搬入
御紋章臺(1)
欄干臺(A、C)
上部ニ棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)

長柄臺右側B、D、左側2、3）

脚　立（4、5）

終ツテ運搬者（1、2、3、4、5）ハ備品置場内ニ退ク

四　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ（ハ、ニ奉仕）

終ツテ（ハ、ニ）ハ幕外後方ニ退ク

五　乘御車ノ御紋章ヲ取外シ扉ヲ開ク（擔當者奉仕指導者補助）

六　御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク（甲、乙奉仕）

七　御下机臺ノ位置ヲ定ム（A、B、C、D奉仕）

棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ（A、B奉仕）

御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス（C、D、A、B奉仕）

八　軌條接續片ヲ取付ク（A、B奉仕）

此ノ際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

九　整備者A、Bハ備品置場内ニ退去ス擔當者及指導者ハ左側幕外ニ起立ス

一〇　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク（丙、丁奉仕）

一一　乘御車内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス（甲、乙奉仕終ツテ甲、乙ハ乘御車ヨリ出ヅ）

一二　御下机ヲ御下机臺上ニ搬出ス（丙、丁奉仕）

一三　御下机ヲ止木ニテ御下机臺上ニ固定ス（丙、丁奉仕）

一四　御下机欄干ヲ撤去シ御外箱止用金具ヲ取外シ棧橋上ニ置ク

兩側欄干外シ（甲、乙奉仕）前方欄干外シ（丙、丁奉仕）

御外箱用止金具外シ（甲、乙奉仕）

一五　主任ノ合圖ニ依リ奉仕場左側ノ幕ヲ開ク（イ、ロ奉仕）

◎賢所移御作業

一六　賢所幔幕内ニ渡御（宮内省奉仕）

一七　奉仕場左側ノ幕ヲ閉ヅ（イ、ロ奉仕）

一八　御羽車ヲ長柄臺ニ安置ス（宮内省奉仕及甲、乙、丙、丁奉仕）

一九　御羽車ノ御帷子ヲ取外ス（宮内省奉仕）（C、Dハ脚立ヲ取扱ヒ終ツテ幕内後方ニ起立ス）

二〇　御羽車ヲ御下机臺ニ近付ケ御羽車ノ床面ヲ調整シ御下机床面ト水平トス（宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助）

終ツテ輿丁ハ御羽車左右後方ニ退ク

後方調整（甲、乙奉仕）前方調整（丙、丁奉仕）

二一　御羽車後方欄干及御外箱止木ヲ取外シ欄干臺上ニ置ク

後方欄干外シ（甲、乙奉仕）御外箱止木取外シ（丙、丁奉仕）

二二　御外箱下部環ニ紐ヲ掛ケ後部ヨリ引キ前部ヲ推シ御下机上ニ移御ス

後部ヨリ紐ニテ引ク（甲、乙奉仕）前部ヲ推ス（丙、丁奉仕）

二三　御外箱ヲ御外箱止用金具ニテ固定ス（丙、丁奉仕）

二四　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザク

宮内省奉仕者ハ御羽車ヲ捧ゲ甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ移ス

二五　御羽車ニ御外箱止木ヲ取付ケ次デ後方欄干ヲ取付ク（丙、丁奉仕）

二六　御下机ノ欄干ヲ取付ク（甲、乙奉仕）此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク（C、Dハ脚立ヲ取扱フ）

二七　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(甲、乙奉仕)

二八　賢所ヲ乗御車内ニ移御ス(甲、乙奉仕)

二九　御下机ヲ御座所ニ固定ス(乗御車内宮内省奉仕者)

三〇　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニオク(甲、乙奉仕)

三一　御座所ノ御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂ル(乗御車内宮内省奉仕者)

三二　御下机止木ヲ取付ク(甲、乙奉仕)

三三　主任ノ合圖ニヨリ擔當者、指導者及整備者ハ奉仕場ニ入場ス

三四　備品取片付

棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)

此ノ場合必要ニ應ジ乗御車内宮内省奉仕者ハ御座所ノ御簾ヲ少シク揚グ

三五　乗御車ノ扉ヲ閉ジ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕、指導者補助)

此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(C、Dハ脚立ヲ取扱フ)

三六　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(ハ、ニ奉仕)

三七　御羽車ヲ置場ニ搬出ス(宮内省奉仕)此ノ場合A、B、C、Dハ長柄臺ヲ撤去ス

三八　備品搬出

御紋章臺(1)

棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)

欄干臺(A、C)

長柄臺右側(B、D)、左側(2、3)

脚立(4、5)

整備者及運搬者ハ備品ヲ置場ニ搬入後控所ニ退去ス

三九　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(ハ、ニ奉仕)

四〇　奉仕場左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ開キ之レヲ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ク(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)終ツテ(イ、ロ、ハ、ニ)ハ控所ニ退ク

四一　作業主任ハ奉仕作業完了ヲ鐵道局長ニ報告ス終ツテ主任、擔當者及ビ指導者ハ乗降場所定ノ位置ニ起立ス

還幸ノ場合

◎賢所御降車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス

二　陛下ノ便殿ニ入御ノ後掌典ノ合圖ニヨリ作業主任ハ作業開始ノ合圖ヲナス之ニヨリ擔當者及幔幕取扱者ハ移御奉仕場ニ參集ス

三　作業主任ノ合圖ニヨリ左右ノ幕及左右袖幕ヲ閉デ後方ノ幕ヲ開ク

右幕及右袖幕(イ、ロ奉仕)左幕及左袖幕(ハ、ニ奉仕)

後方ノ幕(ロ、ハ奉仕)

終ツテ(イ、ロ、ハ、ニ)ハ幕外後方ニ退ク

四　備品ヲ適當ナル箇所ニ配備ス

御紋章臺(1)

欄干臺(A、C)

上部ニ桟橋及軌條接續片ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)
長柄臺四個(右側B、D、左側2、3)
脚　立(4、5)
終ツテ運搬者(1、2、3、4、5)ハ備品置場内ニ退ク
五　御羽車ヲ奉仕場幔幕内ノ長柄臺上ニ置ク(宮内省奉仕者及A、B、C、D奉仕)
六　奉仕場後方ノ幔幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)
終ツテ「イ、ロ」ハ幕外後方ニ退ク
七　乘御車ノ御紋章ヲ外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕、指導者補助)
此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(C、Dハ脚立ヲ取扱フ)
八　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A、B、C、D奉仕)
桟橋ノ後端ノ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A、B奉仕)
御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ桟橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ桟橋ヲ下ス(C、D、A、B奉仕)
九　軌條接續片ヲ取付ク(A、B奉仕)
此際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス
前二項作業ノ際宮内省奉仕者ハ必要ニ應ジ御座所ノ御簾及御帳ヲ少シク揚グ
一〇　整備者ハ備品置場内ニ擔當者及指導者ハ右側ノ幕外ニ起立ス
一一　御羽車後方ノ欄干及御外箱止木ヲ撤去ス
後方欄干外シ(甲、乙奉仕)御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)
一二　乘御車御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(乘御車内宮内省奉仕者)

一三　御下机止木ヲ取外ス(丙、丁奉仕)
一四　御座所内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(乘御車内宮内省奉仕者)
一五　御下机ヲ御下机臺上ニ移ス(甲、乙奉仕)
一六　御下机臺ヲ御下机臺上ニ固定ス(甲、乙奉仕)此ノ時丙、丁ハ兩側欄干止金具ヲ外ス
一七　御下机ノ欄干ヲ撤去ス
兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)
但シ御外箱止用金具ハ其儘トシ取外サズ
一八　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整ス(宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助)終ツテ輿丁ハ御羽車ノ左右後方ニ退ク
後方調整甲、乙奉仕前方調整(丙、丁奉仕)
一九　御外箱止用金具ヲ取外ス(甲、乙奉仕)
二〇　賢所ヲ御下机ヨリ御羽車ニ移御ス(甲、乙、丙、丁奉仕)
丙、丁ハ紐ヲ引キ甲、乙ハ推進ス
二一　御羽車ニ御外箱止木ヲ固定シ後方ノ欄干ヲ取付ク
御外箱止木固定(甲、乙奉仕後方欄干取付ケ(丙、丁奉仕)
二二　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザケ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)此ノ際主任ノ合圖ニヨリC、Dハ幕内ニ入ル
二三　御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(宮内省奉仕)C、Dハ脚立ヲ取扱フ
二四　主任ノ合圖ニヨリ奉仕場右側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

二五　賢所幕外ニ渡御(宮内省奉仕)此ノ場合甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ撤去ス
之レヨリ前局長ハ陛下ヲ便殿ニ御先導ヲ終リ賢所移御奉仕場右幕外ニ歸リ來リテ移御終了ヲ待
チテ更ニ賢所ノ御先導ヲナス

◎御羽車幔幕外渡御後ノ作業

一　擔當者及指導者ハ奉仕場ニ入場ス
二　奉仕場右側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)
三　御下机ニ御外箱止用金具及欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕)此ノ際甲乙ハ乘御車内ニ入ル
四　御下机止木ヲ取外シ御下机ヲ乘御車内ニ推進ス(丙、丁奉仕)
五　御下机ヲ乘御車御座所ノ床ニ固定ス(甲、乙奉仕)
六　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニオク(丙、丁奉仕)
七　御座所御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂レ乘御車ヨリ出ヅ(甲、乙奉仕)
八　御下机止木ヲ御下机臺ニ取付ク(丙、丁奉仕)
九　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)
一〇　備品取片付
整備者及運搬者ハ奉仕場ニ入場ス
棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)
此ノ場合必要ニ應ジ甲乙ハ御簾ヲ少シク揚グ
一一　乘御車ノ御扉ヲ閉デ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕指導者補助)
一二　備品搬出

御紋章臺(1)
棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)
欄干臺(A、C)
長柄臺(右側B、D、左側2、3)
脚　立(4、5)
一三　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)
一四　奉仕場左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ開キ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ケタル後退去ス(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)
還幸ノ場合

◎御乘車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

◎御羽車到着前ノ準備作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス
二　作業主任ノ合圖ニヨリ奉仕場ノ左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ閉デ後方ノ幕ヲ開ク此ノ際甲、乙ハ乘御車内ニ入ル
左及左袖蓑ハ、ニ奉仕右幕及右袖蓑イ、ロ奉仕後方ノ蓑(イ、ロ奉仕)
終ツテ「イ、ロ、ハ、ニ」ハ幕外後方ニ退ク
三　備品搬入
御紋章臺(1)
上部ニ棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)
欄干臺(A、C)

長柄臺(右側B、D、左側2、3)
脚　立(4、5)
終ツテ運搬者(1、2、3、4、5)ハ備品置場内ニ退ク

四　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)
終ツテ(イ、ロ)ハ幕外後方ニ退ク

五　乘御車ノ御紋章ヲ取外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕、指導者補助)

六　御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(甲、乙奉仕)

七　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A、B、C、D奉仕)
棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A、B奉仕)
御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス(C、D、A、B奉仕)

八　軌條接續片ヲ取付ク(A、B奉仕)
此ノ際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

九　整備者A、Bハ備品置場内ニ退去ス擔當者及指導者ハ右側ノ幕外ニ起立ス

一〇　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(丙、丁奉仕)

一一　乘御車内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(甲、乙奉仕)終ツテ甲、乙ハ乘御車ヨリ出ヅ

一二　御下机ヲ御下机臺上ニ搬出ス(丙、丁奉仕)

一三　御下机ヲ止木ニテ御下机臺上ニ固定ス(丙、丁奉仕)

一四　御下机欄干ヲ撤去シ御外箱止用金具ヲ取外シ棧橋上ニ置ク
兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

御外箱止用金具外シ(甲、乙奉仕)

一五　主任ノ合圖ニ依リ奉仕場右側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

◎賢所移御作業

一六　賢所幔幕内ニ渡御(宮内省奉仕)

一七　奉仕場右側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

一八　御羽車ヲ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)

一九　御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(宮内省奉仕)(C、D)ハ脚立ヲ取扱ヒ終ツテ幕内後方ニ起立ス

二〇　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整シ御下机床面ト水平トス(宮内省奉仕、甲、乙、丙、丁補助)
終ツテ輿丁ハ御羽車ノ左右後方ニ退ク
後方調整(甲、乙奉仕)前方調整(丙、丁奉仕)

二一　御羽車後方欄干及御外箱止木ヲ取外シ欄干臺上ニ置ク
後方欄干外シ(甲、乙奉仕)御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)

二二　御外箱下部環ニ紐ヲ掛ケ後部ヨリ引キ前部ヲ推シ御下机上ニ移御ス
後部ヨリ紐ニテ引ク(甲、乙奉仕)前部ヲ推ス(丙、丁奉仕)

二三　御外箱ヲ御外箱用金具ニテ固定ス(丙、丁奉仕)

二四　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザク
宮内省奉仕者ハ御羽車ヲ捧ゲ甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ移ス

二五　御羽車ニ御外箱止木ヲ取付ケ次デ後方欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕)

二六　御下机ノ欄干ヲ取付ク(甲、乙奉仕)此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取扱フ(C、Dハ脚立ヲ取扱フ)

二七　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(甲、乙奉仕)

二八　賢所ヲ乗御車内ニ移御ス(甲、乙奉仕)

二九　御下机ヲ御座所ニ固定ス(乗御車内宮内省奉仕者)

三〇　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ両側ニ置ク(甲、乙奉仕)

三一　御座所ノ御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂ル(乗御車内宮内省奉仕者)

三二　御下机止木ヲ取付ク(甲、乙奉仕)

三三　主任ノ圖合ニ依リ擔當者指導者及整備者ハ奉仕場ニ入場ス

三四　備品取片付

棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)

此ノ場合必要ニ應ジ乗御車内宮内省奉仕者ハ御座所ノ御簾ヲ少シク揚グ

三五　乗御車ノ扉ヲ閉鎖シ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕指導者補助)

此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(C、Dハ脚立ヲ取扱フ)

三六　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

三七　御羽車ヲ置場ニ搬出ス(宮内省奉仕此ノ場合A、B、C、Dハ長柄臺ヲ撤去ス

三八　備品搬出

御紋章臺(1)

棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)

欄干臺(A、C)

長柄臺右側(B、D、左側2、3)

脚立(4、5)

整備者及運搬者ハ備品ヲ置場ニ搬入後控所ニ退去ス

三九　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

四〇　奉仕場左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ開キ之レヲ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ク(イ、ロ、ハ、ニ奉仕終ツテ「イ、ロ、ニ」ハ控所ニ退ク

四一　作業主任ハ奉仕作業完了ヲ鐵道局長ニ報告ス終ツテ主任擔當者及指導者ハ乗降場所定ノ位置ニ起立ス

第三　京都驛

◎京都ニ於ケル賢所移御奉仕作業

奉仕者

一　宮内省掌典補(鐵道職員兼務)甲、乙、丙、丁　四名

一　鐵道省作業主任　一名

一　乗御車扉ノ開閉及御紋章取付ケ取外シ擔當者　一名

一　乗降場備品運搬及整備作業指導者　一名

一　乗降場備品整備作業従事者A、B、C、D　四名

一　備品運搬作業従事者1、2、3、4、5　五名

一　幔幕取扱者イ、ロ、ハ、ニ(内「ロ」ハ幕取扱主任)　四名

行幸ノ場合

◎賢所御降車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス

二　陛下ノ便殿ニ入御ノ後掌典ノ合圖ニヨリ作業主任ハ作業開始ノ合圖ヲナス之レニヨリ擔當者及幔幕取扱者ハ移御奉仕場ニ參集ス

三　作業主任ノ合圖ニヨリ左右ノ幕及左右袖幕ヲ閉デ後方ノ幕ヲ開ク

右幕及右袖幕(ハ、ニ奉仕左幕及左袖幕(イ、ロ奉仕)

後方ノ幕(ハ奉仕)

終ツテ(イ、ロ、ハ、ニ)ハ備品置場内ニ退ク

四　備品ヲ適當ナル箇所ニ配備ス

御紋章臺(1)

上部ニ棧橋及軌條接續片ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)

欄干臺(A、C)

長柄臺四個(右側B、D、左側2、3)

脚　立(4、5)

終ツテ運搬者(1、2、3、4、5)ハ備品置場内ニ退ク

五　御羽車ヲ奉仕場幔幕内ノ長柄臺上ニ置ク(宮内省奉仕者及A、B、C、D奉仕)

六　奉仕場後方ノ幔幕ヲ閉ヅ(ハ奉仕)

終ツテ(ハ)ハ備品置場内ニ退ク

七　乘御車ノ御紋章ヲ外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕指導者補助)

終ッテ運搬者(1、2、3、4、5)ハ備品置場内ニ退ク

五　御羽車ヲ奉仕場幔幕内ノ長柄臺上ニ置ク(宮内省奉仕者及ABCD奉仕)

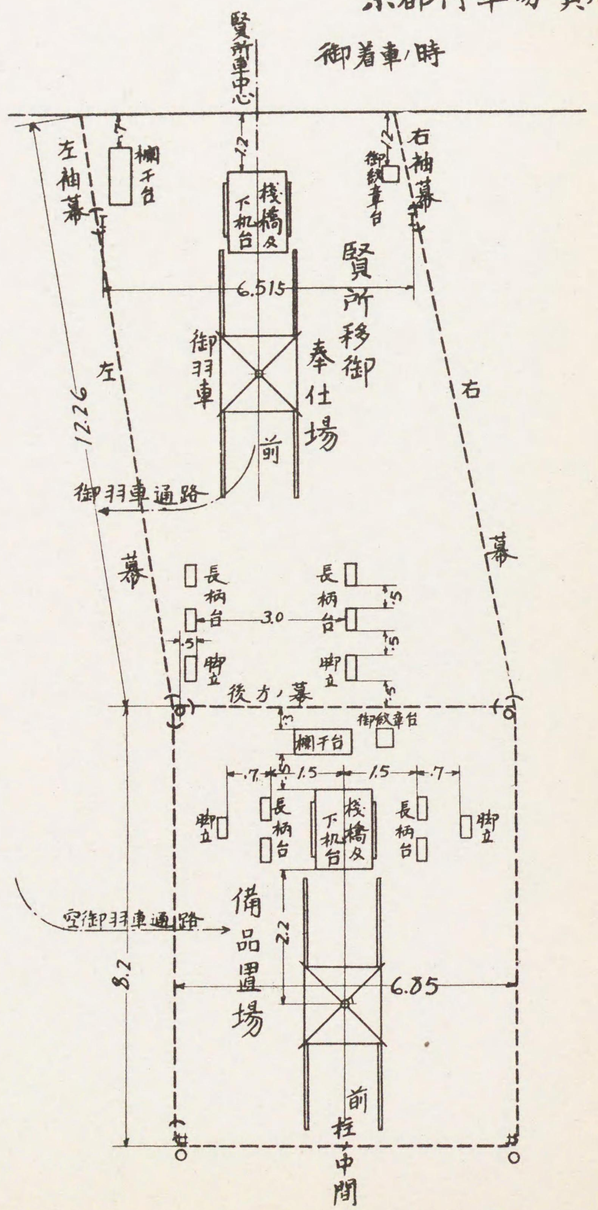
六　奉仕場後方ノ幔幕ヲ閉ヅ(ハ奉仕)

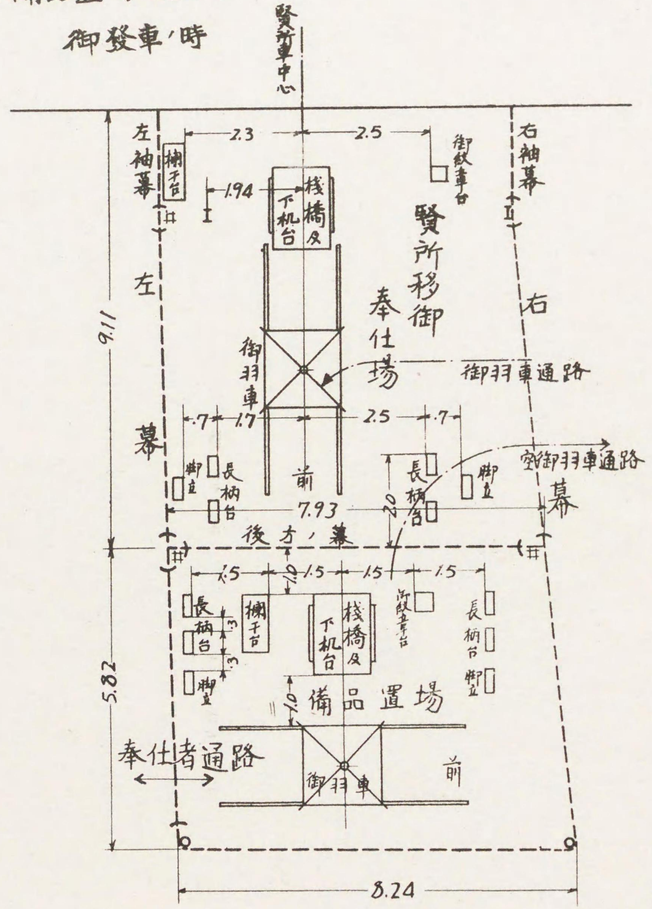
終ッテ[ハ]ハ備品置場内ニ退ク

七　乘御車ノ御紋章ヲ外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕、指導者補助)

京都停車場賢所移御奉仕場及備品置場配置圖

寸法單位　米





此際宮內省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(C'D'ハ脚立ヲ取扱フ)

八　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A'B'C'D'奉仕)

棧橋ノ後端ヲ乘御車內拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A'B'奉仕)

御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス(C'D'A'B'奉仕)

九　軌條接續片ヲ取付ク(A'B'奉仕)

此際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

前二項作業ノ際宮內省奉仕者ハ必要ニ應ジ御座所ノ御簾及御帳ヲ少シク揚グ

一〇　整備者ハ備品置場內ニ擔當者及指導者ハ左側ノ幕外ニ起立ス(C'D'ハ幕內後方ニ起立ス

一一　御羽車後方ノ欄干及御外箱止木ヲ撤去ス

後方欄干外シ(甲、乙奉仕御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)

一二　乘御車御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(乘御車內宮內省奉仕者)

一三　御下机止木ヲ取外ス(丙、丁奉仕)

一四　御座所內御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(乘御車內宮內省奉仕者)

一五　御下机ヲ御下机臺上ニ移ス(甲、乙奉仕)

一六　御下机ヲ御下机臺上ニ固定ス(甲、乙奉仕)此ノ時丙、丁ハ兩側欄干止金具ヲ外ス

一七　御下机ノ欄干ヲ撤去ス

兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

但シ御外箱止用金具ハ其儘トシ取外サズ

一八　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整ス(宮內省奉仕甲、乙、丙、丁補助)終ツテ輿丁ハ御羽車ノ

左右後方ニ退ク

一九　御外箱止用金具ヲ取外ス(甲、乙奉仕)

二〇　賢所ヲ御下机ヨリ御羽車ニ移御ス(甲、乙、丙、丁奉仕)

丙、丁ハ紐ヲ引キ甲、乙ハ推進ス

二一　御羽車ニ御外箱止木ヲ固定シ後方ノ欄干ヲ取付ス

御外箱止木固定甲、乙奉仕後方欄干取付ケ(丙、丁奉仕)

二二　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザケ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)

二三　御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(宮内省奉仕)(C、D ハ脚立ヲ取扱フ

二四　主任ノ合圖ニヨリ奉仕場左側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

二五　賢所幕外ニ渡御宮内省奉仕)コノ場合甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ撤去ス

之レヨリ前局長ハ陛下ヲ便殿ニ御先導ヲ終リ賢所移御奉仕場左幕外ニ歸リ來リテ移御終了ヲ待チテ更ニ賢所ノ御先導ヲナス

◎御羽車幔幕外渡御後ノ作業

一　擔當者及指導者奉仕場ニ入場ス

二　奉仕場左側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

三　御下机ニ御外箱止用金具及欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕此ノ際甲、乙ハ乘御車内ニ入ル

四　御下机止木ヲ取外シ御下机ヲ乘御車内ニ推進ス(丙、丁奉仕)

五　御下机ヲ乘御車御座所ノ床ニ固定ス(甲、乙奉仕)

六　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニ置ク(丙、丁奉仕)

七　御座所ノ御帳ヲ閉デ御簾ヲ垂レ乘御車ヨリ出ヅ(甲、乙奉仕)

八　御下机止木ヲ御下机臺ニ取付ク(丙、丁奉仕)

九　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(ハ奉仕)

一〇　備品取片付

整備者及運搬者ハ奉仕場ニ入場ス

棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D奉仕)

此ノ場合必要ニ應ジ甲、乙ハ御簾ヲ少シク揚グ

一一　乘御車ノ扉ヲ閉デ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕、指導者補助)

一二　備品搬出

脚　立(4、5)

長柄臺右側B、D左側(2、3)

棧橋ヲ乘セタル御下机臺(2、3、4、5)

欄干臺(A、C)

御紋章臺(1)

右ノ順序ニテ備品ヲ奉仕場ヨリ搬出後控所ニ退去ス

一三　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(ロ、ハ奉仕)

一四　奉仕場左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ開キ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ケタル後退去ス(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)

還幸ノ場合

◎御乘車ノ場合ニ於ケル移御奉仕作業

◎御羽車到著前ノ準備作業

一　御召列車所定ノ位置ニ停車ス

二　作業主任ノ合圖ニヨリ奉仕場ノ左右ノ幕及左右ノ袖幕ヲ閉ヂ後方ノ幕ヲ開ク此ノ際甲、乙ハ乘御車内ニ入ル

左側幕及左袖幕(ハ、ニ奉仕)右側幕及右袖幕(イ、ロ奉仕)後方ノ幕(ハ奉仕)終ツテ[イ、ロ、ハ、ニ]ハ備品置場内ニ退ク

三　備品搬入

御紋章臺(1)

欄干臺(A、C)

上部ニ棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)

長柄臺右側(B、D左側2、3)

脚　立(4、5)

終ツテ運搬者[1、2、3、4、5]ハ備品置場内ニ退ク

四　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(ハ奉仕)

終ツテ[ハ]ハ備品置場内ニ退ク

五　乘御車ノ御紋章ヲ取外シ扉ヲ開ク(擔當者奉仕指導者補助)

六　御座所ノ御簾ヲ揚ゲ御帳ヲ開ク(甲、乙奉仕)

七　御下机臺ノ位置ヲ定ム(A、B、C、D奉仕)

棧橋ノ後端ヲ乘御車内拜所床上ニ置キ御座所ノ段ノ適當ノ所ニ當テ他端ヲ捧グ(A、B奉仕)

御下机臺ヲ動カシ其ノ後端ノ栓ガ棧橋ノ穴ニ適合スル位置ニ定メ棧橋ヲ下ス(C、D、A、B奉仕)

八　軌條接續片ヲ取付ク(A、B奉仕)

此ノ際指導者ハ御下机臺前方ヨリ監視シ其ノ偏倚セル場合ハ訂正スルヲ要ス

九　整備者A、B、ハ備品置場内ニ退去ス、擔當者及指導者ハ右側ノ幕外ニ起立ス

一〇　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(丙、丁奉仕)

一一　乘御車内御下机ノ固定裝置ヲ解キ御下机ヲ引出ス(甲、乙奉仕)終ツテ甲、乙ハ乘御車ヨリ出ヅ

一二　御下机ヲ御下机臺上ニ搬出ス(丙、丁奉仕)

一三　御下机ヲ止木ニテ御下机臺上ニ固定ス(丙、丁奉仕)

一四　御下机欄干ヲ撤去シ御外箱止用金具ヲ取外シ棧橋上ニ置ク

兩側欄干外シ(甲、乙奉仕)前方欄干外シ(丙、丁奉仕)

御外箱用止金具外シ(甲、乙奉仕)

一五　主任ノ合圖ニ依リ奉仕場右側ノ幕ヲ開ク(イ、ロ奉仕)

◎賢所移御作業

一六　賢所幔幕内ニ渡御(宮内省奉仕)

一七　奉仕場右側ノ幕ヲ閉ヅ(イ、ロ奉仕)

一八　御羽車ヲ長柄臺ニ安置ス(宮内省奉仕者及甲、乙、丙、丁奉仕)

一九　御羽車ノ御帷子ヲ取外ス(宮内省奉仕C、Dハ脚立ヲ取扱ヒ終ツテ幕内後方ニ起立ス

二〇　御羽車ヲ御下机臺ニ近ヅケ御羽車ノ床面ヲ調整シ御下机床面ト水平トス(宮内省奉仕甲、乙、丙、丁補助)

終ツテ輿丁ハ御羽車ノ左右後方ニ退ク

後方調整(甲、乙奉仕)前方調整(丙、丁奉仕)

二一　御羽車後方欄干及御外箱止木ヲ取外シ欄干臺上ニ置ク
後方欄干外シ(甲、乙奉仕)御外箱止木取外シ(丙、丁奉仕)

二二　御外箱下部環ニ紐ヲ掛ケ後部ヨリ引キ前部ヲ推シ御下机上ニ移御ス
後部ヨリ紐ニテ引ク(甲、乙奉仕)前部ヲ推ス(丙、丁奉仕)

二三　御外箱ヲ御外箱止用金具ニテ固定ス(丙、丁奉仕)

二四　御羽車ヲ御下机臺ヨリ遠ザク
宮内省奉仕者ハ御羽車ヲ捧ゲ甲、乙、丙、丁ハ長柄臺ヲ移ス

二五　御羽車ニ御外箱止木ヲ取付ケ次デ後方欄干ヲ取付ク(丙、丁奉仕)

二六　御下机ノ欄干ヲ取付ク(甲、乙奉仕)此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク(C、D ハ脚立ヲ取扱フ)

二七　御下机止木ヲ取外シ棧橋上ニ置ク(甲、乙奉仕)

二八　賢所ヲ乘御車内ニ移御ス(甲、乙奉仕)

二九　御下机ヲ御座所ニ固定ス(乘御車内宮内省奉仕者)

三〇　軌條接續片ヲ取外シ御下机臺ノ兩側ニ置ク(甲、乙奉仕)

三一　御座所ノ御帳ヲ閉ヂ御簾ヲ垂ル(乘御車内宮内省奉仕者)

三二　御下机止木ヲ取付ク(甲、乙奉仕)

三三　主任ノ合圖ニ依リ擔當者、指導者及整備者ハ奉仕場ニ入場ス

三四　備品取片付
棧橋ヲ取外シ御下机臺ニ重ネ後方ニ引ク(A、B、C、D 奉仕)

此ノ場合必要ニ應ジ乘御車内宮内省奉仕者ハ御座所ノ御簾ヲ少シク揚グ

三五　乘御車ノ扉ヲ閉ジ御紋章ヲ取付ク(擔當者奉仕、指導者補助)
此ノ際宮内省奉仕者ハ御羽車ノ御帷子ヲ取付ク C、D ハ脚立ヲ取扱フ

三六　奉仕場後方ノ幕ヲ開ク(ハ奉仕)

三七　御羽車ヲ置場ニ搬出ス(宮内省奉仕)コノ場合 A、B、C、D ハ長柄臺ヲ撤去ス

三八　備品搬出
脚　立(4、5)
長柄臺(右側 B、D、左側 2、3)
棧橋ヲ載セタル御下机臺(2、3、4、5)
欄干臺(A、C)
御紋章臺(1)
整備者及運搬者ハ備品ヲ置場ニ搬入後控所ニ退去ス

三九　奉仕場後方ノ幕ヲ閉ヅ(ハ奉仕)

四〇　奉仕場左右ノ幕及左右袖幕ヲ開キ之レヲ體裁ヨク所定ノ柱ニ括リ付ケタル後退去ス(イ、ロ、ハ、ニ奉仕)

四一　作業主任ハ奉仕作業完了ヲ鐵道局長ニ報告ス、終ツテ主任、擔當者及指導者ハ乘降場所定ノ位置ニ起立ス

第七節　雜

第一項　各驛ニ於ケル賢所ノ供奉並御先導

賢所乘御ノトキハ掌典長掌典(内掌典)掌典補ハ自動車ニテ驛ニ先着ス(内掌典ハ**カーテン**ヲ降シタル賢所乘御車内掌典室ニ入ル掌典長掌典(掌典補ハ御車寄ニ賢所ノ御着ヲ待テ供奉シ移御奉仕場ニ到リ掌典ハ乘御車前部ヨリ入リ賢所奉安所御扉内ニ入ル

賢所降御ノ際ハ兩陛下便殿ニ入御ノ後内掌典以外ノ掌典部員ハ下車シ鹵簿ニ供奉スル掌典次長掌典(掌典補ハ直ニ御車寄ニ到ル

驛内ニテ供奉スル掌典長掌典補ハ賢所移御奉仕場ニ入リ掌典ハ賢所奉安所御扉内ニ入ル賢所移御終了後ハ次ニ記載ノ如キ順序ニテ御車寄ニ供奉ス内掌典ハ陛下ノ御車寄ヲ御發進後驛内供奉掌典部員ト共ニ自動車ニテ後發ス

各驛ニ於ケル賢所供奉並ニ先導順序次ノ如シ

鐵道局長　式部長官　宮内大臣　掌典補　掌典

御羽車　掌典長　掌典補　掌典補　大禮使高等官

服裝ハ掌典長(掌典補ハ衣冠單帶劍)

大禮使高等官ハ大禮服

第二項　賢所移御奉仕場内奉仕者

掌典長

掌　典　二人(賢所奉安所御扉内)

掌典補　八人(四人ハ鐵道職員ニシテ臨時掌典補ニ任命セラレタル者)

移御作業主任(整備者　二人

駕輿丁指揮者大禮使書記　一人

駕輿丁　二十人(東京(京都)　十六人(名古屋)

第三項　驛ニ於ケル賢所進御並移御ノ時間

東京驛乘御ノ際

十一月　六日午前七時　賢所移御準備作業開始

七時　十五分　驛内供奉員御車寄内整列

七時　廿六分　賢所御車寄着御

七時　卅二分　御羽車移御奉仕場ニ到着

七時四十一分　移御終了閉扉後列車内供奉員乘車

八時　御發車

東京驛降御ノ際

十一月廿七日午後三時　賢所移御奉仕者所定ノ位置ニツク

三時　三十分　東京驛着御

三時　卅二分　兩陛下貴賓通路入御後供奉員下車賢所移御奉仕場ニ參入掌典二人賢所奉安所御扉内ニ入リ移御作業ヲ開始ス

三時四十四分　移御作業完了御羽車貴賓通路ニ進御

三時四十八分　移御後ノ作業終了

三時五十　分　賢所御羽車御車寄ヲ出御

名古屋(京都)兩驛乘御ノ際

名古屋驛御發車　十一月　七日午前十一時
同　十一月廿七日午前　八時
京都驛御發車　十一月廿六日午前十一時
御發車一時間前ニ移御準備作業ヲ開始ス
○　分　移御準備作業開始
二十五分　驛内供奉員御車寄内整列
四十　分　賢所移御奉仕場ニ到着
五十五分　移御作業完了後列車内供奉員乘車
六十　分　御發車

名古屋、京都兩驛降御ノ際
名古屋驛御着車　十一月　六日午後三時三十分
同　十一月廿六日午後二時　○分
京都驛御着車　十一月　七日午後二時　○分
御着車三十分前ニ移御奉仕者所定ノ位置ニツク
○　分　着　御
二　分　兩陛下便殿入御直ニ移御作業ヲ開始ス
十　三分　移御作業終了
十　五分　賢所御羽車御車寄ヲ出御
名古屋驛ニ於ケル賢所移御作業ニ要セシ實際ノ時間

御着車後所要時間
十一月六日　十一月廿六日
一分三十秒　一分五十五秒　移御作業着手迄
三分二十秒　三分五十五秒　御扉開終迄
八分　○秒　九分　○秒　移御終了迄
十四分　○秒　十四分　三十秒　移御作業完了賢所進御
十八分卅五秒　二十分　○秒　移御後ノ作業終了
御羽車御車寄御到着ヨリノ所要時間
十一月七日　十一月廿七日
二分　八秒　一分　五十秒　御羽車移御奉仕場ニ着御
五分　廿三秒　四分　三十秒　賢所乘御
七分五十八秒　七分　○秒　御羽車ヲ後ニ遠ザク
九分　廿八秒　九分　○秒　御扉閉鎖
十一分十一秒　十分　六秒　移御作業完了
備考　十一月七日御發車ノ際ハ降雨ナリキ

第四項　賢所移御施設ノ清祓

賢所移御施設ニ對シ宮内省ヨリ掌典一人掌典補一人驛ニ出張シ左記日時ニ清祓ヲ行ヒタリ所要時間約二十分ナリ
東京驛　十一月五日午前十時

名古屋驛　十一月六日午後二時

京都驛　十一月七日午後一時

其ノ際桶紙、八足、菰等ヲ持參ス、使用濟ニ際シ東京驛ノ分ハ宮內省ヘ名古屋驛ノ分ハ名古屋離宮ヘ京都驛ノ分ハ京都宮內省出張所ヘ夫々返納セリ

第五項　施設品ノ保管場所

東京驛、階上貴賓室廊下

名古屋驛、貨物掛會議室

京都驛、同驛東端ノ倉庫

第六項　移御施設金具類ノ塗料

移御作業施設品ニ用ヒタル金具類ニハ**ラツク**其他ノ錆止メハ絶對ニ塗布セザルコトヲ要ス錆止メノ固結スルコトニヨリ忍錠其他動カザルコトアリテ作業ニ支障ヲ來タス恐レアリ

工事工程及工事費調

決算請求書3年9月作禮7號　　費途　工營費　鐵道設備費　5,900.000圓　決算額　6,442.438

品名	數量 實物	數量 模型	施設箇所	費途	製作完成月日	落成品發送 先	落成品發送 月日	使用後ノ現品保管
(1)移御裝置								
御外箱	1	1	東京・名古屋・京都ノ各驛ニ共通使用ス	1,45.1325	9—30	宮內省	10—19	宮內省
御下机（移御車）	1	0	乘御車ニ備付ケ其レ迄大井工場保管	832.642	9—30			大井工場
御下机臺（止木付）	4	4	東京1. 京都1, 名古屋2.	869.676	9—25		10—10	同上
棧橋（軌條接續片付）	4	4	同上	434.838	9—26		10—10	同上
長柄臺（調整板付）	4	4	同上	883.582	9—25		10—10	同上
御紋章臺	3	0	三驛各1	169.944	9—30		10—10	同上
引紐	6	0	三驛各2	154.444	9—25		10—10	同上
(2)御羽車用御車（留金付）	4	4	東京驛專用	128.340	9—30		10—10	同上
賢所移御用御板	2	2	宮內省ノ要求ニヨリ製作	364.053	9—30	宮內省	10—19	宮內省
禰干臺	3	1	三驛各1. 模型ハ大井工場ニテ使用	124.586	9—25		10—10	大井工場
金具類	3	0	宮內省ニ送附ス	332.207	9—15	中川新右衞門	9—27	宮內省
(3)御羽車（臭床付）	0	1	東京・京都驛共通使用	695.801	6—30			
計				6,442.438				

但シ脚立ハ工場割掛ニテ6個製作シ、材料費、工作費合計25.200圓ヲ要セリ

本表ノ移御裝置一式ハ使用後ノ現狀ニ於テ大禮使ヨリ當省ニ引繼ヲ受ケ財產トシテ整理セラレタリ

第四章　停車場、線路其ノ他ノ施設

第一節　御召列車御發著驛

第一項　東京驛（附圖務第一圖參照）

第一　御便殿竝御通路

大正四年御大禮ノ際御使用遊バサレタル通ノ現狀ナルモ昭和二年十月二日宮內省白根事務官及木下、本多兩書記官檢分ノ結果今次ノ御大禮ニ際シテモ格別改造修繕ノ必要ヲ認メズ凡テ塗替化粧直シノ程度ニ止ムルコト尙兩陛下ノ御卓被ハ宮內省ヨリ持參スベク御厠所モ携帶御厠ヲ準備スルコトトナリタル爲右趣旨ニ依リ左記ノ通施工セリ尙昭和二年十月十八日宮內省木下書記官ト本省運輸局前田總務課長ト打合ノ上御車寄ヨリ御召列車御乘降口及賢所乘御車御入口迄絨氈ヲ敷充メタリ

階下松ノ間		
窓緞帳上飾	修繕	三ケ所
〃絹レース	取替	三ケ所
〃日除羽二重	〃	三ケ所
窓外部ペイント	塗替	二七平米
煖爐	修繕	一ケ所
同附屬便所竝御廊下		
窓緞帳レース	取替	二ケ所
窓日除	取替	六ケ所
窓上飾緞子	〃	四ケ所
腰羽目ラツク	塗替	三一六〇平米
壁漆喰	塗替修繕	九七二八平米四
御通路		
窓日除	取替	九ケ所
窓上飾緞子	〃	九ケ所
中央通路鐵桁ペイント	塗替	七四六平米
中央通路波形鐵板ペイント	〃	三八〇平米
タイル張	張替	一五平米
同	洗滌	五一〇平米
タイル張白色エナメル	塗替	一五平米
中央通路階段石造部	洗滌	三〇〇平米
同	修繕	二六平米

第二　貴賓室竝御車寄

階下梅ノ間、竹ノ間、階上櫻ノ間、牡丹ノ間同附屬便所竝御廊下御車寄ニ對シ左記修繕ヲ施行セリ

階下梅ノ間及竹ノ間		
窓緞帳レース	取替	八ケ所
〃上飾	〃	八ケ所

〃	日除	八ケ所	
〃	張替	九四二五平米八	
〃	修繕	二ケ所	
〃	取替	七ケ所	
〃	〃	四ケ所	
〃	〃	二ケ所	
〃	〃	一ケ所	
〃	〃	一ケ所	
〃	〃	一ケ所	
〃	塗替	七六〇平米	
〃	〃	二三一平米四	
〃	修繕	八ケ所	
〃	取替	八ケ所	
〃	張替	一九〇平米三二	
〃	取替	一八一平米二一	
〃	塗替	一〇七平米九四	
〃	腰羽目ペイント	四九三平米一四	
〃	階上廊下	二一一平米七八七	
〃	リノリユーム敷物	三ケ所	
〃	窓上飾	六ケ所	
〃	窓日除		
〃	階上廣間		
〃	羽目ラツク	塗替	二三七平米七四九
〃	天井漆喰	〃	一三七平米七〇四
〃	御車寄		
〃	窓日除	取替	二ケ所
〃	レース	取替	二ケ所
〃	御車寄廣場花崗石煉瓦出面	洗滌	一六五二平米

從來臣下車寄ノ設ケ無キ爲ステーションホテル出入口ヨリ出入セシガ斯クテハ不便少ナカラザル爲新ニ御車寄トステーションホテル出入口トノ間ニ臣下車寄ヲ左記ノ通新設セリ

〃	庇(木鐵混造モルタル塗)	新築　一ケ所
〃	通路(玄關出入口二ケ所ヲ含ム)	設置　一ケ所
〃	階段木造	〃　一ケ所
〃	物置	〃　三六平米

第三　乘降場

賢所乘御車停止位置ノ關係上神田寄ニ於テ約二車分**ホーム**外ニ停止ノコトトナルニ依リ右繼足ノ爲メ左記ノ通施行セリ

第四**ホーム**	古枕木造假繼足	五九平米四二
登掛階段	同　假　設	一ケ所
車掌室附屬倉庫	木造平家移轉鐵板葺修繕	八一平米五三二
空瓶收納所	同　同	六平米六二四
假倉庫	木造平家假設撤去	三二平米一二四
側線	三十瓩軌條撤去	二　米
車止	三種軌條製移轉	一　基
乘降場上家其ノ他驛長事務室待合室ニ對シ汚損甚ダシキヲ以テ左記修繕ヲ施行セリ		
第二乘降場上家	**ペイント**塗替	四三〇九平米〇四一
第二乘降場階段上家	〃	二六四三平米六七〇
第二乘降場驛長事務室外部	〃	一〇五平米三〇七
同　待合室外部	〃	一〇三平米九七三
同**エレベーター**外部	〃	一四平米八七三
第三乘降場上家	〃	五九六九平米二一二
同驛長事務室外部	〃	一六四平米四四五
同待合室外部	〃	二三五六平米八四〇
同**エレベーター**外部	〃	七八平米九一六
第一乘降場上家屋根	〃	二三五六平米八四〇
同上　階段上家	〃	七八平米九一六
同上　上家	〃	四四五七平米四三七
同上驛長事務室其他壁及天井	〃	一八〇五平米九九四
第四乘降場上家	〃	五七九七平米二五三
同驛長事務室其他	〃	一二五九平米八二一
郵便**ホーム**上家屋根	**コールタ**〃	五四九平米一〇九
第三、第四乘降場路面凹凸甚ダシキ爲左記修繕ヲ施行セリ		
第三乘降場路面**アスフアルト**	補床修繕	二四六八平米〇〇〇
第四乘降場〃	〃　〃	一八六七平米九〇〇
第三、第四**ホーム**ニ御召列車著發ニ伴ヒ左記設備ヲ施シ大禮終了後撤去セリ		
幕張設備具鐵製	設置及撤去	四ケ所
同木造六三六—七一二米 八六九—八七九米	〃	二ケ所
第三第四乘降場引幕	〃	六ケ所
降車通路引幕	〃	一ケ所
第三、第四乘降場上家竪樋破損セルニ依リ左記修繕ヲ施行セリ		
第三、四乘降場上家竪樋	修繕	一〇四ケ所

第四　電燈設備

貴賓室一階ニ於テハ松ノ間ハ其ノ儘トシ竹ノ間梅ノ間ノ四隅ノ燈具八個ハ同室内中心ノ燈具ト形ヲ揃ヘンガ爲取替ヘ而シテ該廊下及御通路ノ**エレクトロリヤ**九個ハ高サノ關係ト體裁上**パイプペンダント**ニ變更シ供奉員室及同通路竝車寄ハ改築セラレタルニ依リ燈具ヲ變更スルコトトシ十三個撤去シテ十九個新設シタリ、又二階廊下ノ電燈モ新品ニ取替ヘタリ

次ニ貴賓室ヨリ第二乘降場ニ至ル燈具ハ賢所移御ノ際支障ノ虞アルニ依リ十六個撤去シテ十八個新設セリ、燈具ノ種類ハ主トシテ**ブラケツト**トセリ

又驛前廣場ノ燈柱ノ中御車寄ニ近キモノ四本改造シタリ

第五　驛前廣場

東京市ト協定シテ電車軌道敷以内ヲ省負擔、以外ハ市負擔トシテ鋪裝工事施行ス

御車寄附近ノ鐵柵ハ車馬乘入レニ支障スルヲ以テ之ヲ撤去シタル外左記ノ通施工セリ

記

御車寄人除柵腐蝕破損セルヲ以テ左記修繕ヲ施行セリ

鐵柱鎖付	高一米三二	更換	延長二〇米六〇〇

御車寄近傍水道設備ナキタメ左記給水設備ヲ施セリ

水道鉛管	新設	延長一九米五〇〇
水栓	同	一ケ所
水栓止	同	一ケ所

セグメントヲ除ク以外路面凹凸甚ダシキヲ以テ左記ノ通修繕施工セリ

砂利撒布　六〇立米

第六　其ノ他

御車寄前ハ樹木少クシテ不體裁ノ爲適當ニ補植シ圓形芝生區域ハ宮内省寫眞班ノ謹寫場トシ其ノ周圍ニ幕張ヲ施セリ

驛階下供奉員室ニ對シ左記ノ通施工セリ

供奉員室

窓緞帳	**レース**	取替　二ケ所
窓日除		取替　二ケ所
絨氈		取替　六三平米二三五
壁紙		張替　一一五平米六九二
天井漆喰		塗替　六四平米四四〇
腰羽目	**ペイント**	塗替　五三平米三三〇

第二項　名古屋驛（附圖務第七圖參照）

第一　御便殿

大正四年御大禮ノ際御使用遊バサレタル通ノ現狀ナルモ昭和二年十月二日宮内省白根事務官、木下、木多兩書記官檢分ノ結果今次ノ御大禮ニ際シテモ格別改造修理ノ必要ヲ認メズ尚兩陛下ノ御卓、御椅子ハ宮内省ヨリ持參スベク猶厠所ハ和式抽出式型ナルヲ廢シ行幸ノ際宮内省ヨリ携帶御厠ヲ準備スルコトトナリタルニ依リ右ノ趣旨ニ依リ左記ノ通施工セリ、要スルニ名古屋驛改築計畫ノ外別ニ御大禮ノ爲ニ特ニ貴賓室其ノ他ヲ改造セズ從來ノ貴賓室ヲ御便殿ニ充當シ御便殿入口ハ不體裁ニ付木造額椽取設ケ之ヲ改造セ

リ

記

一　在來敷物ハ之ヲ新規絨氈ト取換ヘ木部ノ**ペイント**竝**ワニス**及壁ハ全部之ヲ塗換ヘ化粧室内**リノリユーム**及洗面器ハ何レモ新品ト取換ヘタリ、各出入口開戸ハ把手及蝶番ハ新品ト取換ヘ各建具在來硝子板ハ全部新規ノモノト交換セリ尚窓**レース**、**カーテン**ハ全部新品ト取換ヘ窓掛絹緞子ハ在來品ヲ洗濯ノ上仕立直シ飾房ハ新品ト取換ヘタリ

第二　貴賓室

從來ノ一、二等待合室ヲ床面上塗ヲ人造石磨出シ仕上ゲトシテ臨時貴賓室ニ充當シ中央衝立ヲ置キ皇族及臣下トノ區別ヲ爲ス

從來ノ一、二等出札所ヲ取繕ヒ御便所ニ充當セリ

貴賓室開戸蝶番把手ヲ新品ト取換ヘ床叩キ**アスフアルトモルタル**ニテ上塗ヲ爲ス、各窓ニハ**ブラインド**及絹緞子製窓掛ヲ取付ケタリ

第三　本屋及乘降場上家

賢所御羽車御通過ニ支障ノ爲改札口梁扛上シ木柵ノ位置ヲ變更シ一部嵌外シ裝置トナシ待合所入口梁ヲ扛上セリ尚在來木造上家ハ賢所御羽車御通過竝御召列車停止位置ノ關係上古軌條造リニ改增築セリ賢所移御奉仕場及空御羽車竝備品置場等ハ周圍ニ幔幕ヲ張リ繞ラシ一部**ワイヤーロープ**ヲ張リ滑車利用引紐ヲ以テ開閉裝置ヲ施シ裾部煽リ止メハ丸穴明キ鐵具ヲ床面ニ植込ミ引掛ケ式トシタリ

在來一、二等待合室ヲ臨時貴賓室ニ充當ノ爲一般待合室ノ一部ヲ區劃シ羽目板張トシ臨時一、二等待合室ニ充テ本屋車寄昇降口階段ハ賢所御羽車通過保全ノ爲木造登掛床板張トナシ表面總體棕梱製**マツト**ヲ敷込ミ御召列車御昇降口ヨリ御便殿及車寄ニ至ル御通路ニハ絨氈敷込ミ雲齋織防水布製ノ上覆ヲ三個所設備シ乘降場御召列車搭載品積卸作業場ニハ白黑堅鯨幕ヲ張リ繞ラシ一部滑車ニテ開閉裝置ヲ施セリ

尚本屋内外部及跨線橋外部其ノ他**ペイント**及壁竝天井ノ**フラツトオールペイント**、**ワニス**塗換尚乘降場本屋及集札所上家床面**ペイント**塗修繕セリ

第四　電燈設備

貴賓室ニ於テハ既設ノ電燈四個ヲ撤去シ六個新設セリ

而シテ御便殿ニ取付ケシ**エレクトロリヤ**ハ銀古味トセリ臨時皇族御休所トナリタル一、二等待合室ニ於テハ在來ノ電燈ニテハ不適當ナル爲三十六個ヲ撤去シ三十一個新設セリ

又本屋及上リ乘降場ニ於テハ電氣揭示器十個ヲ取替ヘ電燈ハ五十七個撤去シテ五十五個新設セリ

乘降場ニ於ケル電燈設備ハ主トシテ賢所移御ノ際在來ノ電燈位置ニテハ支障ノ虞アルヲ以テ變更サレタルモノナリ

以上ノ外宮廷列車洗濯及警備用竝御調度品積卸用トシテ又儀仗兵ノ乘降ニ便ナラシムル爲電燈二十七個新設シ燭力變更ノモノ約六十個アリ

第五　電熱器設備

貴賓室ニハ**三キロワツト**ノ電熱器一個ヲ又臨時皇族御休所トナリタル一、二等待合室ニハ電熱器九個其ノ容量十四**キロワツト**餘ヲ設備シタリ

第六　驛前廣場

廣場路面凹凸甚敷爲砂利敷路面修理ヲナス御馬車廻ノ關係上支障物(案内標其ノ他)ヲ移轉セリ

尙御着輦及御發輦當日ハ御鹵簿筋ニ白砂幅八米厚十二糎撒布セリ

第七　構内線路

御召列車ガ東京ヨリ御着ノ際賢所移御作業ノ關係上ヨリ乘降場ニ直接御到着ニナル樣下リ本線ヨリ上リ本線ニ亘ル亘リ線ヲ使用スル必要アリ之ガ爲從來ノ入換用亘リ線ヲ十番轍叉ニ更換ス

尙御召列車洗滌ノ爲木造客車洗滌臺ヲ軌條及古枕木造ニ改增築シ之ニ伴ヒ側線延長及給水設備ヲ增設セリ

第三項　京都驛（附圖務第十一圖參照）

第一　本屋

在來ノ旅客手荷物扱設備狹隘ナル爲上下三等待合室ノ增築及手小荷物扱所增築模樣替及之ニ伴フ給水設備竝荷物運搬ノ爲本屋ト扱所間ニ荷物運搬用連絡橋**エレベーター**塔新設セリ其ノ他施行セル主ナル工事左ノ如シ

上下三等待合室及廊下增築	四一六平米四
本家出札室模樣替增築	八六平米
同上車寄改築	一四一平米七
在來集札口上家一部模樣替	二六〇平米
在來手小荷物扱所ヲ手小荷物渡場ニ模樣替	五一八平米五
小荷物扱所新築	一八九平米三
小荷物配達所移轉模樣替增築	四〇八平米二
渡廊下上家新築	一八三平米五
在來小荷物引渡所撤却	一六五平米三
驛荷物庫移轉	一六五平米三
在來自動車庫撤却	一二八平米四
本屋外部壁塗替	一二三〇平米
同　軒樋修繕	三〇三米
同　軒蛇腹被覆取換	四八九平米五
本屋塔屋其ノ他被覆取替	二一〇平米三
本屋**ペイント**・**ワニス**塗替及壁ノ口引	九四九一平米一
臨時待合所假設	二九八平米一

第二　御便殿

大正四年御大禮ノ際御使用遊バサレタル通ノ現狀ナルモ昭和二年十月二日宮內省白根事務官及木下本多兩書記官檢分ノ結果今次ノ御大禮ニ際シテモ格別改造修繕ノ必要ヲ認メズ但シ兩陛下ノ御厠所ノ和式抽出式ナルヲ洋式水洗式ニ改メ度希望アリ其ノ他ハ凡テ壁塗替等化粧直シノ程度ニ止ムルコトトナリタル爲右趣旨ニ依リ左記ノ通施工セリ

御厠所模樣替	一箇所
緞帳修繕	三箇所
窓**レース**及**ブラインド**取替	三箇所

敷物修繕　四一平米九

マントルピース、カバー取替　二箇所

其ノ他内外壁塗換、床張替建具類附屬金物等取替御便殿前ノ床面ヲ**ロツクアスフアルトブロツク**ニ改造

御通路絨氈一部修繕セリ

第三　貴賓室

貴賓室ニ關シテハ左ノ通施行セリ

貴賓室模様替修繕　六七一平米八

同前床面**ロツクアスフアルト**鋪裝　三六六平米八

窓緞帳取換　八箇所

同**レース、ブラインド**取換　九箇所

敷物取換　八一平米二

同　修繕　一六二平米四

其ノ他建具類金物、壁裂及壁紙等修繕ヲ行ヘリ

第四　乘降場

乘降場床面三〇〇〇平米ヲ改修シ御召列車御發著ノ際不體裁ナル箇所ニハ幕張ヲ施シ尙在來乘降場柵垣五米二ヲ移轉セリ

第五　乘降場上家竝跨線橋

上家雨漏其ノ他不良ノ箇所ハ**スレート**葺直シ等ノ修理及**ペイント**塗替等ヲ施工セリ

其ノ主ナルモノ左ノ如シ

乘降場上家屋根葺換　三四九六平米七

同屋根石綿板差換　一七〇〇〇枚

乘降場上家天窓取設及改造　七箇所

乘降場上家**ペイント**塗替　三二五〇八平米

跨線橋屋根石綿板差換　四四五〇枚

同上**ペイント**塗替　一一六三八平米

第六　電燈設備

貴賓室ニ於ケル從來ノ燈具ハ大部分ハ新品ニ取替ヘ他ハ改造シタリ

燈具ノ硝子部分ハ御便殿ノ**エレクトロリヤ**ハ摺硝子ヲ以テ格子溝型トシ其ノ他ハ**ベラ**硝子ヲ用フ、又燈具ノ金具ハ純金鍍金及純銀鍍金ヲ古味仕上トセリ

以上燈具ノ撤去シタルモノ三十四個、新設シタルモノ三十六個ニシテ其ノ設備容量ハ八・五**キロワツト**トナリタルモノニシテ附圖務第十二圖見ルガ如シ、次ニ驛本屋乘降場其ノ他ノ電燈設備ハ大正三年度ニ施行シタルモノニシテ當時トシテハ模範的設備ナリシモ照明界ノ發達ニ伴ヒ照度比較的高キ市街ヨリ驛内ニ至レバ急ニ陰氣ナル氣分ヲ覺ユル程度ナリシヲ以テ御大禮ヲ機トシ電燈設備ノ增設竝改良ヲナシタリ

屋外照明トシテハ驛構内線路ノ在來照明設備ノ一部ヲ溢光照明式ニ改メ驛前廣場ニ於テハ鐵柱ヲ設ケ鐵柱上ニ**オーナメンタル、ポールヘツド**三個ヅツヲ設ケタリ

第七　電熱器設備

貴賓室ノ在來ノ電熱器ハ大正三年ノ設備ニ係リ爾來十四年經過シタルモノニシテ構造體裁共ニ室内ト

調和セザルモノアリ仍テ從來ノ二十二個ヲ撤去シテ十四箇ヲ新設セリ其ノ設備容量四十一**キロワット**ナリ御乘降當時貴賓室室內ハ電熱器ニ依リ溫度ヲ華氏六十度ヲ保ツ樣心掛ケタルモノニシテ十一月七日及十一月十九日ノ兩日ハ室內溫度華氏六十五度ヲ示セルヲ以テ使用セズ其ノ他ノ御乘降當日ハ使用シタリ尙該設備圖ハ務第十二圖ノ如シ

第八　驛前廣場

驛前廣場路面一〇、七〇〇平米ヲ修理シ砂利三七五立米ヲ撒布シ驛前庭園其ノ他柵垣ノ修繕ヲ施工セリ御鹵簿御發着當日ハ御通路筋ニ白砂ヲ撒布セリ

第九　其ノ他

驛階上驛員休息所ヲ本省及關係鐵道局ノ派出所ニ充當セル爲驛員休息所ヲ移轉セル外主ナル工事左ノ如シ

省用自動車庫假設	四四四平米
同　上洗場給水設備	一箇所
大臣宿舍自動車庫假設及撤却	一八平米
驛防火及撤水用栓新設	六箇所
本屋樓上**リノリユーム**張替	五〇三平米
職員集會所假模樣替	二五一平米
遺留品保管室取設	一〇平米
驛構內發生塵芥處分ノ爲**ゴ**式燒却爐新設	一箇所

第四項　山田驛（附圖務第十四圖參照）

第一　本屋

本屋ニ對シ施設セル主ナル工事左ノ如シ

本屋**ペイント**塗換	一八三〇平米
同水性**ペイント**塗換	一四九八〃
同灰汁洗	二三三〃
同**アスファルトペイント**塗	六五〃
樋修繕	一四六米

尙御召列車御發著ニ際シ不體裁ニ見ユル梁（本屋寄乘降場）ニハ幕張ヲ施セリ

第二　御便殿竝貴賓室

御便殿及貴賓室ニ對シ施工セル主ナル工事左ノ如シ

貴賓室模樣替修繕	木造平家建屋根石綿盤葺　一三一平米六
廊下敷物取換	三〇平米五

其ノ他窓掛改修給水設備修繕建具類金物取換表側床面「**コンクリート**」ヲ修繕セリ

第三　電燈設備

貴賓室照明器具ハ大正十三年建家改增築ノ際新設シタルモノニシテ御更衣室化粧臺上方**ブラケット**一個アリシヲ撤去シ燭臺型銀鍍金仕上ゲ**スタンド**二個ヲ新設ス其ノ他ノ燈具ニシテ金銀鍍金仕上ゲノ汚損剝脫セルモノハ一旦取外シ全部分解修理ヲナシ尙別ニ改造シタルモノモアリ

次ニ乘降場本屋ニ於テハ多少改修ヲ加ヘ跨線橋階段及電報受付口ヲ半圓型**グローブ**ニ其ノ他ヲ**トロジヤリヤ**ニ又車寄ハ**ブラケツト**式トナセリ

御召列車駐留線照明トシテ臨時灯七個ヲ設備シ客車洗滌臺ノ燈具ハ之ヲ**ハイウエーユニツト**ニ取替ヘ其ノ他御調度品積卸場轉轍器踏切道附近ニモ適當ナル照明ヲ與ヘ作業上萬遺漏ナカラシム

驛前廣場ノ**ブラケツト**灯取付ノ鐵柱ハ此ノ際全部塗換ヘタリ

（別冊圖面電第一圖參照）

第四　電熱器設備

貴賓室御便殿及特別待合室ハ在來ノ電熱器ニテハ容量小ナルヲ以テ三**キロワツト**電熱器一個宛增設シ其ノ構造裝飾等ハ在來品ト同一ナラシメ右屋內線ハ各ニ對シ單獨回線トシテ布設セリ

山田行幸當日午前室內溫度華氏六十度以上ナリシヲ以チ電熱器ヲ使用セズ而シテ御還幸當日ハ午前七時三十分ヨリ同九時五十分迄電熱器ヲ使用シ室內溫度ヲ華氏六十度以上ナラシム

又驛長室ニハ大禮關係者ノ爲特ニ臨時用トシテ電熱器三**キロワツト**一個、二**キロワツト**三個ヲ假配線ニ依リ設備セリ

（附圖電第一圖參照）

第五　驛前廣場

驛前路面三二一九平米三ヲ修理シ敷砂利厚約四糎一三立米ヲ撒布セリ

第六　構內線路

客車留置線ハ滯泊列車ニ對シ不足ニシテ加フルニ操車群線入口ニ於テ急曲線ヲ有スルヲ以テ之ガ緩和ヲ爲ス此ノ軌道延長七七八米二ヲ增設シタル外側線一、七四〇米ヲ移轉シ本線二〇〇米ヲ扛上セリ

第七　其ノ他

御料車留置線ヲ設備シ貨物通路及出入口ヲ擴張修繕シ遷車臺ヲ一部改造シ尙乘降場上家修繕竝跨線橋屋根葺替及**ペイント**塗替ヲ施セリ

構內發生ノ塵芥處分ノ爲藤崎式燒却爐ヲ二個所設置セリ

（附圖務第二十圖參照）

第五項　畝傍驛

第一　本屋

在來本屋事務室狹隘ナルヲ以テ之ヲ擴張セリ施設シタル主ナル工事左ノ如シ

本屋模樣替及增築	二〇一平米三
手荷物置場ヲ集札口ニ改造其ノ他	七平米
本屋付卸庇模樣替	一八平米二
本屋引水鐵管伏設	一三米九

第二　驛前廣場

驛前廣場不陸ナルヲ以テ左記ノ通施設セリ

路面修繕	一四九二平米九
敷砂採集及撒布	一二立米
路面鋤取	七八立米九

第三　乘降場上家

在來上家ハ狹隘且設備不十分ナルヲ以テ上下乘降場上家ヲ增築セリ施設シタル主ナル工事左ノ如シ

乘降場增築(登掛一箇所移轉ヲ含ム)　一五平米
同　柵垣移轉竝撤却　二八米
乘降場上家增築　二一〇平米四
乘降場**アスファルト**塗　六六七平米八
同　上家**ペイント**塗換　二、九八九平米八

第四　電燈設備

驛本屋擴張其ノ他工事ニ伴ヒ從來ノ舊式燈具ハ殆ンド一掃シテ新品ニ取替ヘタリ

上家ナキ乘降場ハ元、木柱**エキステリヤ**ヲ吊下シタリシモ大部分燈柱式ニ改メ此ノ外調度品積卸作業用トシテ臨時電燈設備ヲナス、構內照明ハ吉野鐵道株式會社ノ電車線柱ノ林立スル爲暗キ部分アリ之ガ一部改良ヲ加ヘタリ又驛前廣場ニモ此ノ際照明設備ヲ施ス

第五　構內線路

在來ノ本線有效長ヲ延伸スルト共ニ下リ安全側線ヲ新設シ之ニ伴フ構內線路ノ急曲線緩和ノ爲配線一部變更シ貨車遷車臺一部ヲ修繕セリ

第六　**カーテン**

ポプリン地ヲ以テ本屋窓掛十二箇所設備セリ

第六項　桃山驛(附圖務第十三圖參照)

第一　本屋

桃山御陵御親謁ニ際シ御陵側ニテ御乘降アラセラルルニ付テハ在來ノ當驛本家ハ御陵ノ反對側ニアリテ不便且地勢ノ關係上御陵側ヨリノ乘降客逐年增加セラルルヲ以テ御陵側ニ更ニ本屋ヲ新築シ御陵道ニ通ズル新道ヲ拓キ御陵側ヨリノ御乘降竝一般旅客ノ便ヲ計レリ施設シタル主ナル工事左ノ如シ

本屋新築　二〇一平米二
同上御車寄新築　二四平米
同上窓掛新設　九箇所
同上付卸上家及集札口上家增築　二八三平米五
同上附屬便所新築　一三平米二
同上附屬物置其他新築　一三平米二
同上附屬堀拔井戸及流場新設　一箇所
丸太柵移轉改造　七九米七

第二　乘降場上家竝跨線橋

本屋新築ニ伴ヒ在來向乘降場ノ兩側ニ上下列車ヲ發著セシムルコトトナシタルヲ以テ乘降客取扱方ヲ變更セリ施設セル主ナル工事左ノ如シ

乘降場擁壁ノ一部移轉改築　五九米
向乘降場上家增築　七四〇平米
同上盤面工(**コンクリート**造)　六六七平米七
跨線橋(三線跨キ)　一箇所
乘降場上家屋根葺替　七一六平米
乘降場上家軒樋取換　一七五米五

同上　ペイント塗換　二七八六平米九

第三　驛前廣場

新設本屋前廣場所要地ノ内宮内省所管地九五七坪餘ヲ永代無償使用ノコトトシ廣場及御陵道ニ通ズル道路ヲ新設セリ、廣場ハ御馬車廻シ儀仗兵整列場、自動車置場等ノ關係上宮内省ト打合セ所要ノ廣サトス地盤軟弱ナル爲特ニ**スチームローラー**ヲ使用シ踏固メヲ十分ニシ十月上旬竣工セシムルヲ得タリ

第四　電燈設備

本屋新築其ノ他ニ伴ヒ電燈設備ヲ新設シ而シテ在來ノ設備ノモノニ對シテハ新設設備ニ適當スル樣改修シタリ

電燈個數ノ增加ハ六十一個ニシテ主トシテ新築本屋ノ分トス、次ニ上家ナキ乘降場ハ燈柱式ニ改メ驛前廣場ニモ照明設備ヲ施セリ

第五　構内線路

本屋ノ御陵側移轉ト共ニ上下本線ヲ變更シ在來本屋寄本線ヲ貨物列車待避線トス之ニ伴ヒ一部線路ノ移轉ヲナス

本線移設　四二米
側線移設　三八〇米
同　增設　九五米二

第六　其ノ他

官舍井戸移轉改造ヲ行ヒ驛構内ニ丸太柵五〇米ヲ新設シ尙驛構内發生ノ塵芥處分ノ爲**ゴ**式塵芥燒却爐一箇所新設及本家窓掛九箇所新設セリ

第七項　原宿驛（附圖務第二圖參照）

第一　車寄

在來帝室用本屋車寄ハ狹隘ノタメ使用上不便ナルニ依リ左記ノ通工事ヲ施行セリ

車寄　木鐵混造大和**スレート**葺　新設　三〇平米五四五

第二　乘降場

乘降場裏擁壁破損及路面不陸ナルヲ以テ左記ノ通修繕セル外乘降場上家天窓破損セルモノヲ修繕シ、汚損部分ハ凡テ洗滌並**ペイント**塗替ヲ施行セリ

乘降場　裏笠石在來**コンクリートブロツク**ヲ花崗石ニ改修　五〇米六〇

第三　電燈設備

帝室用車寄ニ**シーリングライト**一箇ヲ設備セリ

第四　道路其ノ他

新設車寄ヨリ正門間路面、不陸甚ダシキ爲メ左記ノ通改修施行セリ

路面鋪裝　**アスフアルト**敷　修繕　一三六平米

本屋前切取斜面ノ防護並路面ノ凹凸ヲ修理ノタメ左記ノ通修繕施行セリ

切取斜面　張芝　修繕　五九平米二五〇
路面・敷砂　修繕　一四平米四〇〇

第八項　東淺川驛（附圖務第九圖參照）

第一　本屋

木骨鐵網**コンクリート**壁屋根銅板葺腰ハ人造石洗出トス貴賓室及次ノ間ノ壁紙ハ瑞西製**テツコー**及**サルブラ**ヲ用ヒ雜作及腰羽目ハ楢材ヲ用ヒ床ハ**フローリングブロツク**ノ上ニ絨氈ヲ敷込ミ窓掛ハ絹緞子トス

御化粧室ト御便所ハ白色**タイル**及**モザイクタイル**ヲ張リ詰メ又反對側ニ待合室及職員室ヲ設ケ天井及壁ハ白漆喰塗腰羽目ハ楢材張トシ床ハ叩キ又ハ**リノリユーム**敷トス

此建坪左ノ如シ

車寄	三四平米六五
貴賓室	四五平米九九
次ノ間	四五平米九九
廣間	七九平米二〇
待合室	七三平米〇〇
職員室	五一平米八三
御便所、御化粧室	三二平米八五
計	三六三平米五一

第二　乘降場竝上家

在來木造乘降場擁壁ヲ**コンクート**造ニ改築シ上家ノ柱及小屋材ハ軌條ヲ用ヒ屋根ハ淺野波形**スレート**葺トス此ノ建坪六六一平米

第三　電燈設備

驛ノ改築ト共ニ電燈設備ヲ新設ス

御便殿ニハ銀古味仕上**エレクトロリヤ**及**ブラケツト**ヲ設ケ其ノ他ノ屋内ニ於テハ**チエーンペンダント**ヲ多ク使用シ其ノ設備概數九十個ナリ

又驛前廣場ノ照明ニハ燈柱七本ヲ新設シタル外屋外線路照明竝信號用トシテ電燈十個ヲ設ケタリ

尙此等ノ外儀裝馬車取卸作業用トシテ臨時電燈八個ヲ新設シ燭力變更セシモノ三十四個アリシモ此等ハ大禮後復舊セリ

第四　電熱器設備

御便殿其ノ他ニ電熱器九個ヲ設備シタルモノニシテ其ノ設備容量ハ三十五**キロワツト**トシ其ノ内譯ハ次ノ如シ

御便殿	一〇**キロワツト**
次ノ間	一〇〃
休所	六〃
其ノ他	九〃

第五　驛前廣場

新ニ二四六〇平米ヲ買收擴張シ東京府計畫ノ道路幅員擴張ト連絡ヲ保ツコトトシ用地境界ニハ目穩用植樹ヲナシ且敷砂利ヲ補充シ**スチームローラー**ヲ使用シ十分堅固ニ踏固メ排水ハ鐵筋**コンクリート**管ヲ敷設セリ

第六　其ノ他

本屋附屬便所及守衛詰所兼湯呑所ヲ新設ス

御召列車發著線ト本線路間ノ切取法面ノ修理ヲナス

第二節　御停車驛其ノ他

第一項　御停車驛

一　山北

御召列車運轉ノ場合停止位置ノ關係上給水不便ニ付給水設備ヲ假設セリ

乘降場上家及跨線橋ペイント塗替其ノ他工事ヲ施行セリ

一　沼津

本停車場乘降場ノ後部ハ從來砂利敷ノ儘ニシテ御召列車ノ停車ニ際シテハ設備トシテ不十分ナルヲ以テ之ヲ混凝土鋪裝ニ改築セリ

一　大垣

乘降場床面アスフアルト修繕及本屋乘降場上家ペイント塗替工事等ヲ施行セリ

一　米原

本屋乘降場上家ペイント塗替及向ホーム郵便室移轉竝上家改築工事ヲ施行セリ

一　柘植

經年汚損甚敷爲本屋其ノ他灰汁洗ヲ施シ大破機關庫ヲ撤却シ尙驛構內發生ノ塵芥燒却ノ爲岸本式塵芥燒却爐ヲ新設セリ

一　津

經年汚損甚敷爲本屋其ノ他ペイント塗替乘降場跨線橋アスフアルト塗ヲ施行シ尙驛構內發生ノ塵芥燒却爐ヲ新設セリ

第二項　御通過驛其ノ他

第一　草津

東部急曲線緩和ノ爲左ノ通配線變更ヲ爲シタル外驛構內發生塵芥處分ノ爲岸本式塵芥燒却爐一箇所新設セリ

側線增設	三七瓩軌條	一九米一
同　移設	三〇瓩軌條	七九米
		二六米

第二　奈良

御召列車關西線ヨリ櫻井線ニ直通運轉ノ爲信號機增設竝急曲線緩和ノ爲施設シタル主ナル工事左ノ如シ

櫻井線上リ遠方信號機增設	一基	
同　上リ場內信號機增設	一基	
同　上移設	一基	
出發信號機增設	一基	
同　導線增設	一三〇米	
第一種聯動裝置改修	一箇所	
集札口上家改增築	二七平米七	
同　柵垣移轉改造	一七米六	
乘降場上家淸掃	二六五九平米七	
本線移轉	一六五米	
側線移轉	一二〇米	

側線增設

貴賓室本屋待合所乘降場ノ電燈燈具ハ舊式ニ屬シ不體裁ノモノアルニ依リ取替及增設ヲナシタルモノニシテ增設個數ハ二十三個トス　二三米

御召列車用機關車駐留中之ガ夜間警戒上照明不十分ノ爲機關車庫電燈ノ增燭ヲナセリ

尙御調度品列車入換作業用臨時電燈トシテ驛前廣場照明ハ燈柱式ニ變更セリ

貴賓室電熱器ハ二**キロワット**二個ナリシモ容量小サク室內裝飾ト調和セザル爲改良ヲ加ヘタリ、電熱器外部ハ銀古味仕上地ニ金鍍金仕上ゲ飾片ヲ配シタリ

第三　鳥　羽

御召列車山田驛御發著ノ際ニ於ケル他列車ノ收容線トシテ側線增設ヲ行ヒ之ニ伴ヒ用地二七坪四ヲ買收セリ

第四　神　田

御召列車東京驛御發着前後相當時間中電車折返シ運轉ノ爲亘リ線上ニ左記ノ通電車線ヲ架設シタリ

(1)　神田秋葉原間第一號及第二號柱間山手、京濱線ノ上下亘リ線電車線架設延長約三〇米

(2)　神田東京間第七號及第八號柱間山手、京濱線ノ上下亘リ線ニ電車線架設延長約三〇米

第五　田　町

御召列車東京驛御發着前後相當時間中電車折返シ運轉ノ爲左記ノ通亘リ線ヲ假設シ之ニ電車線ヲ架設セリ

亘リ線　假設　延長　四九米四五

（附　三七瓩八番轉轍器、轍叉　二組）

田町品川間第一號及第三號柱間山手線上下線間亘リ線ニ電車線架設　延長　約三〇米

第三節　儀裝馬車、馬匹竝御用物積卸驛

第一項　汐留驛（附圖務第三第四第五圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

宮內省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ且前後二回ニ亘リ立會ノ上實地積卸試驗ヲナシ設計ヲ確定シ左記ノ通施工セリ、特別儀裝馬車貨車積込ニ際シテハ其ノ車體大ナル爲貨車積込ニ際シ車輪ヲ取替フル必要アルニ依リ混凝土造ノ車輪取外シ臺ヲ其ノ附近ニ設置セリ

貨物積卸場	古枕木古軌條造假設	延長一八米八九六
貨物上家	木造平家亞鉛鍍波形鐵鈑葺撤去復舊	八三平米
遷車臺	基礎其ノ他假設	一箇所
貨物通路	古枕木張假設	二五米
線路	三〇瓩軌條移轉復舊	二七米四
線路	三七瓩軌條假設撤去	四五米七
轉轍器轍叉	撤去復舊	一組
積卸場聯結器取付裝置	木造假設	二箇所
混凝土叩	新設	二箇所
柵垣	移轉	二〇米

第二　馬匹積卸場

馬匹積卸ノ必要上宮内省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ左記ノ通施工ス

貨物積卸場　古枕木造幅員六尺　假設撤去　五箇所

第三　貨物上家其ノ他

御大禮用貨物發着取扱ノタメ左記ノ通設備ヲ施セリ

第一號貨物上家　木造淺野波形板葺　二七七平米六五五

貨物ホーム擁壁　古枕木造修繕昂上　三三米

同　登掛　同　二箇所

盛土　增築　二〇立米

敷砂利　二〇立米

第四　電燈設備

御調度品積卸場特別貨物扱上家、小口發送貨切上家附近ノ三箇所ニ電燈十七個設備セリ

第二項　名古屋驛（附圖務第八圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

宮内省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ古枕木造杉板敷延長二一米三ノモノヲ假設セリ

儀裝馬車通過ノ際動搖ヲ緩和スル爲貨物通路敷石ノ据直シ及敷砂利ノ補充ヲ爲セリ

貨物積卸場床面敷枕木三八〇平米竝擁壁延長六九米修繕セリ尚御着輦及御發輦當日積卸場附近ニ白砂ヲ撒布セリ

第二　馬匹積卸場

宮内省側ト實地立會ノ結果其ノ位置ヲ定メ儀裝馬車積卸場附近ニ古枕木及電柱腕木ヲ以テ六十呎ノ馬繋場ヲ假設セリ

第三項　梅小路驛（附圖自務第二十六圖至第三十一圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

宮内省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ左記ノ通設備セリ

儀裝馬車積卸場擁壁新設　古枕木造　一三米

同上路面敷板新設　三五〇平米

遷車臺新設　一箇所

側線移設　二八〇米

第二　馬匹積卸場

宮内省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ左記ノ通設備セリ

馬匹積卸場擁壁新設　古枕木造　七〇米

排水溝改築　七五米

亘リ線增設　四一米四

尙附近ニ馬繋場木造三七米ヲ設備セリ

第三　電燈設備

御調度品ノ積卸竝貨車入替作業用トシテ屋外及貨物積卸場上家ニ投光器其ノ他ノ電燈設備ヲナス

第四　其ノ他

御召列車牽引機關車京都驛ヨリ梅小路機關庫ニ出入ノ際不便ナルヲ以テ機關車廻線ヲ新設シ同上工事ニ伴フ第一種聯動裝置改修其ノ他工事ヲ施行セル外主ナル施設左ノ如シ

第三貨物積卸場增設　一二米

第四貨物積卸場增設　六七米一

貨物通路敷石移轉竝撤却　移轉　一五平米

撤却　二四五平米二

自動車積卸用**ホーム**假設　一箇所

操車掛詰所移轉改築木造平家建石綿板葺　九平米九

第四項　山田驛（附圖自務第十四圖至第十九圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

宮內省側ト立會ノ上其ノ位置ヲ決定シ枕木**サンドル**及軌條ヲ以テ巾六米四延長九米ノ積卸場及之ニ枕木敷登掛ヲ設備セリ

尙短時間ニ貨車入換ヲ可能ナラシムル爲遷車臺ヲ設備セリ

第二　馬匹積卸場

宮內省側ト立會ノ上在來貨物上家裏側**ホーム**ヲ使用スルコトトシ特ニ增設等ヲナサズ

第五項　畝傍驛（附圖自務第二十圖至第二十五圖）

第一　儀裝馬車積卸場

宮內省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ枕木**サンドル**及軌條ヲ以テ幅六米二六七延長一〇米三八ヲ設備セリ

尙驛構內區域狹隘ノ爲馬車廻シニ際シ支障スル貨物庫ノ庇等取除キ電柱移轉ヲ爲セリ

積卸場通路設假設竝撤却工事ヲ施行セリ

第二　馬匹積卸場

宮內省側ト實地立會ノ上其ノ位置ヲ定メ枕木**サンドル**及軌條ヲ以テ幅五米四九延長三〇米ヲ設備セリ

第六項　飯田町驛（附圖自務第三圖及至第六圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

其ノ位置ハ鐵道側ノミニテ定メ左記ノ通施工セリ

貨物積卸場古枕木、古軌條造假設撤去　一箇所

車止　軌條製撤去　一基

連結器取付裝置木造假設　一箇所

第二　馬匹積卸場

馬匹積卸ノ爲左記ノ通施工セリ尙路面泥濘ノ爲敷枕木修理セリ

貨物積卸場　木造及古枕木造　假設撤去　二箇所

貨物積卸場　混凝土造　修繕　二箇所

登掛　假設　一箇所

第三　電燈設備

御調度品積卸用トシテ第一貨物**ホーム**上家ニ電燈四個ヲ新設ス

第七項　淺川驛（附圖務第十圖參照）

第一　儀裝馬車積卸場

宮內省側ト實地立會其ノ位置等ヲ定メタルモ其ノ後構內配線一部變更ノ結果更ニ協議シテ變更シ構內上リ側線ニ長二二米六六、巾四米二六軌條古枕木造ノ積卸場ヲ設置シ床面板割ヲ打付ケタリ

第二　馬匹積卸場

積卸場前面ノ貨物通路ニハ特ニ敷砂利ヲナシ路面ノ修理ヲナス

宮內省側ト立會在來貨物**ホーム**ヲ使用スルコトトシ驛前貨物積卸前面廣場路面高低敷均シ敷砂利三〇立米撒布搗固メヲ爲ス

馬繫場延長一二呎假設セリ

第五章　線路其他ノ施設

第一節　線路ノ檢査

第一項　軌道

御召列車試運轉ニ先チテ御召列車運轉區間全線ニ亘リ軌條、繼目板、**ボールト**等ノ細密檢査ヲナシ疵軌條其ノ他不完全ナルモノハ之ヲ更換セリ尙試運轉後再ビ之ガ細密檢査ヲ行ヒ萬遺漏ナキヲ期セリ

第二項　橋梁

昭和三年七月ヨリ十月ニ亘リ御召列車運轉區間全線ニ亘リ事務所員、保線區員立會ノ下ニ各橋梁ノ檢査ヲ行ヒタル結果笠石及床石目筋龜裂、竝床石沈下、橋臺橋脚ノ一部龜裂、袖石垣孕出シ、鐵桁**リベット**ノ弛緩等既往又ハ現在ニ於テ變狀ヲ來セシモノアルヲ認メタルモ何レモ格別著シキモノ及ビ增進甚シキモノナク列車運轉上支障ヲ認メズ

第三項　保安設備

昭和三年九月ヨリ十月ニ亘リ御召列車運轉線路各停車場構內信號機聯動機轉轍器ニ對シ局保線關係員及關係保線事務所員竝保線區員立會ノ上檢査施行ノ結果些少ノ不具合ハ即時修理ヲ爲シ其ノ他即時施工シ難キモノニ付テモ十月末日迄ニ夫々修理ヲ了セリ但シ中央線ニシテ名古屋鐵道局管內ノ分ハ十一月二十八日檢査修理ヲ完了セリ

第四項　下水伏樋類

下水伏樋類ニ對シテハ橋梁、溝橋、隧道等ノ檢査ト同時ニ檢査施行セリ下水ニ於テハ一部既往ニ於ケル變狀ハ認メタルモ格別著シキモノ及變狀增進ノ虞アルモノナク伏樋ニ於テハ排水不良ノモノニシテ沈積土砂浚

渫容易ナルモノハ即時修理シ其ノ他ノモノハ浚渫工事ヲ施行シタリ

第五項　切取法面其ノ他

御召列車運轉區間線路沿線ニ於ケル地質不良ノ箇所又ハ土砂崩壞ノ虞アル箇所ニ就キ本省地質關係員、局保線關係員、保線事務所員、保線區員立會ノ上九月ヨリ十月ニ亘リ地質的調査ヲ行ヒタル結果特ニ注意ヲ要スベキ左記箇所ニ對シテハ特ニ巡視ヲ嚴ニシ或ハ警戒員ヲ派ス等萬遺漏ナキヲ期シタリ

東海道線	一九箇所
草津線	六箇所
奈良線	一四箇所
關西線	三二箇所
參宮線	一八箇所

第二節　線路關係施設

第一項　軌條更換

御召列車運轉線路ニ於ケル豫定ノ磨耗軌條更換及重量軌條更換ハ之ガ急施ニ力メ左記區間ノ更換ヲ了セリ

東京	東神奈川間
程ヶ谷	戸塚間
山北	沼津間
岩淵	蒲原關
蒲原	由比間
山比	興津間
用宗	燒津間
島田	金谷間
堀之內	掛川間
垂井	關ヶ原間
關ヶ原	柏原間
守山	大津間

第二項　道床改良

草津線ハ切込砂利道床ナルヲ以テ精選砂利ニ改良シタリ

其ノ他既定計畫ニ基ク道床補充又ハ砂利篩分工事等ヲ施行セリ

第三項　橋桁更換

御召列車運轉ノ爲特ニ橋桁更換ヲナシタル箇所ナキモ既定計畫ニ基クモノハ努メテ施行時期ヲ繰合セ御召列車ハ工事ノ爲絶對ニ徐行運轉ヲナサシメザル方針ノ下ニ安全率少ナキ左記橋梁ノ橋桁ハ之ヲ更換又ハ補强セル等萬全ヲ期セリ

藤澤辻堂間	鵠沼川
平塚大磯間	花水川
舞坂辨天島間	第二濱名
彦根河瀨間	芹川
河瀨稻枝間	安曇川
近江八幡篠原間	仁保川

野州守山間　花ケ池
柳本三輪間　久ノ本架道橋外三ケ所
加太柘植間　第一大和川街道架道橋

第四項　法面整理其ノ他

東海道本線由比興津間ニ落石止ヲ施設シ島田友田間ニ土留石垣ヲ新設又ハ改修シ關西本線參宮線奈良線、櫻井線ニ總延長九〇哩ニ亘リ法面整理ヲ施シ東海道線外五線ノ軌道特別修理ヲナシ加太隧道内不良砂利入替等ヲ施セリ

第五項　配線變更

急曲線緩和及不時ノ用ニ供スル爲亘リ線ヲ新設スル等左記各驛構内ノ配線變更ヲナセリ

辨天島、草津、石部、深川、宮川、山田上口、奈良、玉水、柳本、京都

第三節　其ノ他ノ施設

第一項　奈良ホテル

經年ノ爲汚損甚敷ニ依リ全部ニ亘リ改修ヲ爲シタルモ其ノ主ナルモノ左ノ如シ

客室天井張替　二〇八平米三
階段天井張替　三九平米六
床毛緞通取換　七七平米
床絨氈取換　七三平米八
壁紙張替　二一七平米七
客室其ノ他壁塗替　五八七一平米五

使用人食堂改築、給湯給水設備並汚水淨化裝置ヲ改造セリ

照明器具ハ殆ントホテル新築當時ノ設備ノ儘ニシテ一部セードノ取替又ハ小部分ノ改造ニ依リテ多少其ノ趣ヲ變ヘ今日ニ至リシモ器具ノ汚損甚シク室内裝飾或ハ調度品ニ對シ不調和ノモノアリシヲ以テ之ガ改良ヲ爲セリ

第二項　各驛井戸

防火ノ爲井戸及井戸屋形並ポンプ小屋等ノ施設ヲナシタル驛左ノ如シ

亀山津柘植山田山田上口畝傍桃山

第三項　各驛建物

御召列車運轉區間各驛

本屋上家其ノ他ノ建物ハペイント塗替又ハ灰汁洗等ヲナシ見苦シカラザル樣ノ手入セリ

其ノ主ナルモノ左ノ如シ

新橋驛乘降場上家ペイント、ワニス水性ペイント塗替同驛エレベーター塗替
品川驛第三、四乘降場上家ペイント塗替
同　上屋根コールター塗替
同驛跨線橋ペイント塗替
國府津驛上下乘降場上家及木部ペイント塗替
同　上屋根コールター塗替
三島驛跨線橋ペイント塗替
豐田驛跨線橋　同　上
八王子驛　同　上
淺川驛　同　上

第四項　御召列車運轉區間柵垣

御召列車運轉區間ニ於ケル停車場人除柵並踏切道柵等ニシテ警備其ノ他ノ關係上必要アルモノハ假設又ハ新設ヲナシ破損セルモノハ修理ヲ加ヘタリ

別紙ノ通

第四節　停車場線路其ノ他工事工程及工事費

東京鐵道局

大禮關係

件名	豫算金額 配布	豫算金額 施行	決 三年度
大禮費支辨			
東京驛貴賓室模樣替	31,353	31,300	31,299.530
汐留驛上家新設	3,765	3,731	3,598.000
同驛儀裝馬車積卸場設備	3,223	3,522	3,334.708
飯田町驛同上	102		
計	38,443	38,553	38,232.238
大禮費支辨外ノ分			
改良費支辨			
東京驛々前補裝	68,000	61,522	61,898.030
計	68,000	61,522	61,898.030
事業費支辨			
東京驛帝室御通路洗滌其他	9,000	1,588	1,583.290
同驛供奉員室車寄新設	6,000	8,920	8,919.743
同驛々前路面砂利敷	2,200	1,007	1,004.290
同驛々前植樹	2,000	2,220	2,220.000
同驛ペイント塗替	2,000	14,890	14,890.390
同驛第四ホーム假繼足	2,000	1,938	1,937.822
原宿驛帝室用車寄新設	1,200	1,575	1,527.250
同驛々前路面修繕	1,000	1,129	1,128.715
御召列車運轉區間柵垣修繕及設備	1,000	5,172	5,062.330
沿線警備費	15,000	—	44,110.180
計	41,400	38,439	82,384.010

工事調表

算金額 四年度	算金額 計	工事着手 年月日	工事竣功 年月日	備考
—	31,299.530	3. 6. 22	3. 10. 22	
—	3,598.000	3. 6. 22	3. 7. 20	
—	3,334.708	3. 4. 16	4. 3. 9	
—	38,232.238			
—	61,898.030	3. 8. 7	3. 11. 1	
—	61,898.030			
—	1,583.290	3. 8. 28	3. 10. 1	
—	8,919.743	3. 8. 23	3. 10. 30	
—	1,004.290	3. 10. 22	3. 11. 11	
—	2,220.000	3. 10. 17	3. 10. 31	
—	14,890.390	3. 9. 20	3. 10. 20	
—	1,937.822	3. 7. 27	3. 9. 4	
—	1,527.250	3. 10. 12	3. 11. 20	
—	1,128.715	3. 10. 12	3. 11. 10	
—	5,062.330	3. 9. 16	3. 10. 15	
—	44,110.180			
—	82,384.010			

名古屋鐵道局

大禮關係

件名	豫算金額 配布	豫算金額 施行	決算 三年度	決算 四年度	決算 計	工事着手 年月日	工事竣功 年月日	備考
大禮費支辨								
名古屋驛貴賓室及本屋修繕	3,605	3,652	3,647.850	—	3,647.850	3. 8. 19	4. 1. 11	
同驛上家改築	10,988	10,137	10,086.897	—	10,086.897	3. 8. 19	3. 10. 10	
同驛儀装馬車積卸設備	350	277	273.911	—	273.911	3. 9. 6	4. 1. 9	
淺川驛儀装馬車積卸設備	200	378	320.863	—	320.863	3. 9. 7	3. 12. 5	
同驛々前路面修理	390	117	117.290	—	117.290	3. 9. 7	3. 12. 5	
計	15,533	14,561	14,446.811	—	14,446.811			
大禮費支辨外ノ分								
改良費支辨								
東淺川驛改築	86,033	70,952	71,039.885	175.880	71,215.765	3. 7. 9	4. 3. 29	四年度決算額ハ遞信省電柱移轉ニ關スルモノ
計	86,086	70,952	71,039.885	175.880	71,215.765			
事業費支辨								
名古屋驛本屋其他床叩キ修繕ペイント塗替	12,000	14,071	14,160.110	—	14,160.110	3. 9. 5	3. 10. 28	
同驛亘線更換其他	5,200	4,240	4,431.498	—	4,431.498	3. 9. 10	3. 9. 21	
同驛々前廣場砂利敷	800	786	821.150	—	821.150	3. 10. 5	3. 11. 25	
御召列車運轉區間柵垣修繕及設備	1,000	923	923.380	—	923.380	3. 9. 13	3. 12. 6	
沿線警備費	40,000	—	60,891.931	—	60,891.931			
計	59,000	20,020	81,228.069	—	81,228.069			

工事調表

大阪鐵道局

大禮關係

件名	豫算金額 配布	豫算金額 施行	決算 二年度
大禮費支辨			
京都驛貴賓室模様替	30,758	23,312.181	—
山田驛同上	3,247	1,560.000	—
畝傍驛廣場路面修理	495	491.000	—
山田驛同上	981	1,147.390	—
梅小路驛馬匹積卸設備	3,051	3,909.600	—
畝傍驛同上	1,200	1,516.210	—
梅小路驛儀裝馬車積卸設備	3,183	2,345.810	—
畝傍驛同上	1,500	1,137.180	—
山田驛同上	1,902	953.100	—
計	46,317	36,372.471	—
大禮費支辨外ノ分			
改良費支辨			
梅小路驛機關車廻線新設	30,000	21,191.000	—
鳥羽驛側線增設	10,000	14,183.000	—
山田驛同上	45,345	30,574.000	—
畝傍驛本屋擴張其他	18,700	15,525.000	—
桃山驛本屋新築其他	65,500	72,649.000	—
京都驛本屋及手小荷物扱所擴張其他	56,000	130,502.000	53,636.970
計	225,545	234,624.000	53,636.970
事業費支辨			
京都驛本屋修繕	24,000	—	—
同驛乘降場上家其他修繕	24,000	—	—
同驛乘降場床面改修	6,400	—	—
同驛乘降場上家及跨線橋ペイント塗替	25,600	—	—
同驛自働車庫假設	9,000	—	—
同驛防火及撒水用栓新設	12,000	—	—
桃山驛乘降場上家屋根改修	4,500	—	—
山田驛本屋及上家ペイント塗替	5,000	—	—
津驛上家ペイント塗替	800	—	—
奈良驛信號機增設	1,600	—	—
奈良ホテル手入	21,000	—	—
御召列車運轉區間柵垣修繕及設備	1,000	—	—
沿線警備費	30,000	—	—
計	164,900	—	—

工事調表

算金額 三年度	算金額 四年度	算金額 計	工事着手 年月日	工事竣功 年月日	備考
27,279.129	—	27,279.129	3. 9. 6	3. 10. 15	
3,180.795	—	3,180.795	3. 8. 30	3. 10. 28	
495.610	—	495.610	3. 10. 2	3. 11. 22	
1,146.180	—	1,146.180	3. 10. 1	3. 11. 22	
3,970.903	—	3,970.903	3. 9. 11	3. 10. 23	
1,560.380	—	1,560.380	3. 10. 1	3. 12. 9	
2,410.926	—	2,410.926	3. 9. 11	3. 10. 23	
1,177.370	—	1,177.370	3. 10. 1	3. 12. 9	
1,691.414	—	1,691.414	3. 10. 1	3. 12. 1	
42,912.707	—	42,912.707			
21,131.984	8.570	21,140.554	3. 7. 19	4. 6. 28	
14,072.564	—	14,072.564	3. 7. 6	3. 11. 29	
31,815.008	—	31,815.008	3. 7. 11	4. 3. 21	
15,432.443	—	15,482.443	3. 7. 22	3. 10. 23	
72,928.553	—	72,928.553	3. 7. 1	4. 3. 30	大禮關係以外繼續工事ヲ含ム
77,307.788	—	130,944.758	3. 1. 6	3. 11. 5	
232,738.340	8.570	286,383.880			
23,128.000	—	23,128.000	3. 4. 20	3. 10. 12	施行豫算中ニハ本件以外ノ工事ヲ含ムヲ以テ分割困難ナリ
35,763.900	—	35,763.900	3. 9. 6	3. 11. 18	
4,816.670	—	4,816.670	3. 9. 11	3. 11. 26	
21,855.290	—	21,855.290	3. 9. 11	3. 10. 15	
10,754.700	—	10,754.700	3. 9. 21	3. 10. 15	
5,154.500	—	5,154.500	3. 9. 1	3. 10. 28	
5,193.000	—	5,193.000	3. 6. 17	3. 11. 22	
3.479.840	—	3,479.840	3. 9. 11	3. 10. 15	
1,559.510	—	1,559.510	3. 9. 13	3. 10. 5	
2'078.401	—	2,078.401	3. 8. 1	3. 10. 16	
21,276.070	—	21,276.070	3. 7. 28	4. 2. 17	
1,946.070	—	1,946.070	3. 9. 18	3. 10. 26	
97,827.960	—	97,827.960			
234,833.911	—	234,833.911			

第六章　通信施設

京都ヲ中心トシ其ノ他ノ行幸啓各地ニ最モ關係ヲ有スル箇所ニ連絡通信ヲ適切ナラシムルノ要ヲ認メ之ガ通信施設ノ大體方針ヲ樹テ同時ニ關係鐵道局ヨリ施設上ノ希望ヲ徵シ綜合的ニ左ノ如ク計畫ヲ進メタリ

イ　電信回線ハ本省、東京通信所對京都、龜山、奈良ニ直通通信ヲ圖ル爲既設電信線ニ接續所ヲ增設シ、又京都對畝傍、龜山、山田ノ直通線竝京都大阪間ノ專用線ヲ臨時施設スルコト

ロ　電話中繼線ハ東京京都間、東京大阪間竝京都ヲ中心トシテ名古屋、大阪、湊町、奈良、山田等其ノ關係ヲ及ボス範圍廣汎ナル爲之等ニ對シ施設ヲ要スルモノ相當多ク且平素ニ於テモ通話輻輳ヲ來シツツアル狀況ナルヲ以テ之ガ緩和ヲ圖ルト共ニ大禮ニ際シ緊急通話ノ增加ヲ考慮シ東京京都間二回線、名古屋京都間一回線、京都山田間一回線ヲ新設及東京大阪間二回線、京都奈良間、奈良龜山間、奈良山田間、奈良湊町間各一回線ヲ增設スルコト、東京京都間及東京大阪間新增設ノ內三回線ハ搬送式電話裝置トスルコト

ハ　中繼線ヲ除ク他ノ電話回線ハ京都對畝傍ノ通話ヲ一層圓滑ナラシムル爲奈良交換畝傍線ヲ一回線新設スルコト又御召列車運轉區間ニ於ケル保線用電話回線ヲ新增設シ警護用ニ備ヘシムルコト

ニ　電話交換機ハ諸詰所ニ臨時裝置セラルル電話機多數ニ達スベキヲ以テ京都驛ニ增設シ又從來設備ナカリシ奈良**ホテル**ニ新設スルコト

右計畫ニ基ク設備ハ其ノ必要期間ヲ考慮シ御大典御擧行迄ニ逐次施行ヲ了セリ

以上通信設備ニ要シタル工事費ハ大禮費(工營費)、改良費(通信設備費)、事業費(保電費又ハ補充費)支辨ノ三種ニシテ內大禮費支辨ノモノハ主トシテ宮內省又ハ京都御所トノ間ニ施設セル電話及御大禮輸送事務ニ直接關係ヲ有スル鐵道省鐵道局等ノ臨時出張所ニ施設セル電話及御召列車御發着模樣ヲ即報セシムル爲臨時施設セル電信線ノ設備費、亦改良費支辨ノモノハ主トシテ中繼線、高周波搬送式中繼線、交換機ノ新設擴張、電報氣送管設備ノ改良其ノ他電話線(保線從事員用ヲ含ム)ノ新增設等御大典終了後ニ於テモ事業上存續スベキモノニシテ既定年度割計畫ニ屬スルモノ及次年度施行計畫ニ屬スルモノノ內一部繰上施行セシモノ又事業費支辨ノモノハ御大禮輸送事務ニ直接ノ關係ヲ有セザルモ事業遂行上關聯シテ必要ナル電話電鈴設備ノ臨時施設及電信線中繼線等ノ臨時變更其ノ他小工事ヲ施行シタルモノトス

而シテ通信施設ニ對シ適切ナル運用ヲ爲サシムル方法トシテ電報及電話ノ特殊取扱方ヲ指示シ、或ハ電報略號ヲ制定シ、或ハ電話番號簿ヲ作製シ、或ハ通信回線ノ圖表ヲ調製スル等遺憾ナキヲ期シ併テ通信從事員ノ配置ヲ考慮シ以テ萬全ヲ期シタリ

第一節　通信設備

第一項　電信設備

一　本設備ハ主トシテ鐵道省對名古屋、京都、奈良及京都對大阪、畝傍、奈良、山田ニ發着スル電報ノ速達ヲ企圖センガ爲既設電信線ノ接續驛所ヲ變更シタルモノ及回線ヲ臨時新設シタルモノニシテ電信設備施設物件表及別紙回線圖ニ示セル通トス但奈良ニテ切換トナル京都山田間及京都畝傍間臨時電信線ハ山田行幸當日(十一月十九日)ヨリ京都還幸當日(十一月二十二日)迄ハ京都山田電信線トシ畝傍行還幸當日(十一月二十三日)ハ京都畝傍電信線トシテ使用シタルモノトス

電信設備施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計
工營費支辨					
電信機新設	箇				
作業費支辨					
電信機新設	〃	二			二
〃　撤去	〃	一		九	一　九

第二項　電話設備

一　本設備ノ內鐵道事業用ノモノハ御大禮輸送事務ニ關係アル鐵道省、鐵道局其ノ他臨時出張所及御召列車運轉區間警備員打合用其ノ他特ニ必要ナル個所ニ交換加入又ハ專用電話線ヲ新設シ又ハ既設回線ニ電話機ノ增設ヲ爲シタルモノニシテ電話設備施設物件表及附圖電第二圖ニ示セル通トス

尙鐵道大臣宿舍トシテ借入レノ京都三谷與一郎氏宅ニハ鐵道事業用交換加入電話施設ノ爲京都驛ヨリ市內三谷氏宅附近迄ハ遞信省所管市內電話線ヲ借受ケタルモノトス

二　前記ノ外御召列車運轉當日自動信號區間ニ於ケル各自動信號機ニ對シ其ノ上リ下リノ方向ニ應ジ配置セル閉塞機手ノ警備事務打合ノ爲使用セル携帶電話機數ハ左ノ通ニシテ孰レモ自動信號保守用電話線ニ接續シタルモノトス

列車別	東鐵	名鐵	大鐵	計
東京　京都間	五二	一二五	五二	二二九
京都　山田間	—	—	二九	二九
山田　京都間	—	—	二八	二八
京都　東京間	四九	一二四	五四	二二七
東京　東淺川間	三一	—	—	三一
東淺川　東京間	二八	—	—	二八
計	一六〇	二四九	一六三	五七二

三　公衆電話ノ施設ニ關シテハ關係遞信局ト豫メ交渉ノ上左ノ通施設シタルモノトス

設置場所名	加入者番號	記事
八王子保線區	八王子一二八五番	十一月廿六日開通 永久備トス
鐵道省京都臨時出張所	下　七七〇六番	十一月廿一日開通
大阪鐵道局　同	下　七七〇七番	十一月廿一日撤去
京都臨時自動車庫	下　七七〇九番	十一月廿一日開通
梅小路貨物掛詰所	下　七七一〇番	十一月廿一日撤去
大鐵京都出張員宿舍（鳥居樓支店內）	下　七七〇八番	同
大禮使鐵道部京都詰所（晴鴨樓內）	祇園　三九八〇番	同
鐵道大臣京都宿舍（三谷宅內）	上　六〇七〇番	十一月五日開通
京都驛長	下　七七二一番	十一月廿一日撤去

鐵道省山田出張所（戸田家内）	山田	二〇〇〇番	十一月十五日開通
大阪鐵道局山田詰所（藤屋内）	山田	二〇〇一番	十一月廿一日撤去
	同		同

備考

前記ノ内京都驛長ノ分ハ十一月十一日ヨリ京都驛助役室内大禮案内所ニ移轉シ尚大禮乘車券發賣所ニ電話機一箇增設ス

電話設備施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計	
工營費支辨						
電話機新設	箇	一五	四	六八	八七	
〃　撤去	〃	一			一	
電線添架延長	米	一五、七一四	九六九	一一、六〇六	二八、二八九	
〃　假設	〃			一、一五〇	一、一五〇	
改良費支辨						
電話機新設	箇		七五	四〇	一一五	
〃　撤去	〃					
電線添架延長	米		三一一、三〇五	三五四、九三九	六六六、二四四	
〃　架設	〃		一三	二	一五	
〃　撤去	〃		四三八	五八九	一、〇二七	
電纜架設	〃		四八二	一〇、一〇〇	一〇、五八二	
〃　撤去	〃			七四	七四	二五P
				七四	七四	一三P

作業費支辨				
電話機新設	箇	八	三八	
〃　撤去	〃	二		
電線添架延長	米	一〇、六六八	二〇、九三八	三一、六〇六
〃　架設	〃	三一四		三一四
〃　移設	〃	八〇		八〇
〃　撤去	〃	六〇		六〇
電話線借入	〃		一五、四〇〇	一五、四〇〇
電話機新設	箇		一	一
擴聲器新設	〃		一	一
同操縱盤取換	〃		一	一
			京都驛ト鐵道大臣宿舍間遞信省ヨリ公衆電話	

第三項　宮内省關係電話設備

一　本設備ハ御召列車及御調度品輸送等ニ關シ宮内省及京都御所ト停車場其ノ他ノ箇所ト打合上必要ノ爲施設シタルモノニシテ東京驛宮内省間ハ遞信省又ハ宮内省所屬電線路ニ添架シ京都驛京都御所間ハ遞信省所屬電話線ヲ借入レタルモノニシテ電話機設置場所及回線ノ構成竝施設物件ノ數量ハ左ノ通トス

回線名	電話機設置場所
宮内省	
東京構外汐留線　東鐵運輸課旅客掛	
同　運轉課列車掛	
東京驛	

（汐留驛
京都御所内大禮使鐵道部長
京都驛
京都構外
梅小路線
鐵道省京都臨時出張所
大阪鐵道局　同
梅小路驛

宮内省關係電話設備物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計	
工費費支辨						
電話機新設	箇	五	—	—	一〇	
電線添架延長	米	二、五八二	—	五	二、五八二	（京都驛京都御所間遞信省ヨリ借入）
電話線借入	米	—	—	—	一六、九三〇	
				一六、九三〇	一六、九三〇	

第四項　中繼線設備

一　本設備ハ既設中繼線ノ通話輻輳ヲ緩和シ併セテ直通ノ中繼線ナキ區間ニシテ其ノ必要アル箇所ニ之ヲ施設セシモノニシテ昭和三年度ノ新規改良工事ノミニ止マラズ昭和二年度ヨリ施行シタルモノトス尚御大禮期間中在來施設ノ中繼線ト併セテ臨機變更セルモノ不尠モ此等ハ總テ作業費支辨ニ依レルモノトス

二　前號ニ依ル中繼線ノ施設ヲ摘記セバ左ノ通ニシテ之ガ施設物件ノ數量ハ左表ニ示ス通ニシテ回線圖ハ別紙ノ通トス

（附圖電第三圖及第四圖參照）

中繼線施設區間

摘要		
大船國府津間	新設	（七番線）
名古屋京都間	新設	
京都奈良間	〃	（幻影三番線）
京都山田間	〃	
龜山奈良間	〃	（幻影三番線）
龜山山田間	〃	（幻影三番線）
奈良湊町間	〃	（重信七番線）
奈良湊町間	〃	（幻影八番線）
奈良王寺間	〃	（幻影四番線）
龜山柘植間	〃	（重信二番線）
同	〃	（重信三番線）
同	〃	（幻影四番線）
奈良山田間	〃	（幻影線）
名古屋大阪間	〃	（重信三番線）
東京大阪間	〃	（搬送三番線）
東京京都間	臨時	（重信一番線）
同	〃	（幻影二番線）

東京京都間	臨時	(搬送三番線)	
同	〃	(搬送四番線)	十一月八日以降實施
名古屋京都間	〃	(重信二番線)	
草津京都間	〃	(幻影四番線)	
米原草津間	〃	(幻影三番線)	
京都湊町間	〃	(重信二番線)	
京都岡山間	〃	(幻影線)	十一月八日限廢止
京都兵庫間	〃	(二番線)	十一月九日以降實施
京都大阪間	〃	(十二、十三、十四番三回線)	
東京大阪間	〃	(搬送四番線)	十一月六、七日ニ限リ施行
名古屋山田間	〃	(重信線)	十一月十九日ヨリ二十二日迄實施
京都山田間	〃	(幻影線)	十一月十八日ヨリ二十二日迄實施
京都奈良間	〃	(四番線)	十一月二十二日ヨリ二十三日迄實施
奈良山田間	〃	(重信線)	同　　前
名古屋京都間	〃	(重信三番線)	十一月二十六日ニ限リ實施
龜山山田間	〃	(幻影四番線)	同　　前
本省東京間	新設	東京交換第一及第十八席ノ左、第四及第二十一席ノ右、右方**デミセクシヨン**ノ左ニ**ダイヤル**線計五回線增設	

備考　前掲京都山田間ノ臨時施設ニ係ル幻影中繼線ハ御召列車山田京都間還幸當日ハ列車運轉狀況ヲ指定驛ヨリ京都駐在ノ幹部員ニ連達セシムル目的ヲ以テ御召列車ノ進行ニ連レ刻々變更シタルモノトス即チ御召列車カ松阪驛御通過迄ハ京都龜山田間トシ松阪御通過後直ニ京都龜山間及龜山山田間ニ分割シ、更ニ御召列車カ拓植驛御通過後直ニ京都奈良間及奈良山田間トシ十八日以前ノ狀態ニ復シタルモノトス

三　前號記載ノ外京都大阪間ニ於ケル既設中繼線ノ通話改善竝通話輻輳ノ緩和ヲ圖ル爲既設線路ニ一・三粍二十八對重信鉛被紙**ケーブル**一條ヲ京都大阪間ニ添架シ之ニWE式七**クワツド**裝荷線輪ヲ二十四箇所ニ配分挿入シ追次減衰スベキ通話ヲ昂昇セシメ以テ通話度ヲ明瞭ナラシメタリ

中繼線設備施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計	
改良費支辨						
電線添架延長	米	一、二五六	三〇〇、六九八	九五〇、〇五四	一、二五二、〇〇八	
〃　架設	〃	一七〇		一、一〇四	一、二七四	
〃　移設	〃		三二、二二七	七一八、九〇七	七五一、一三四	
〃　撤去	〃			三七〇	三七〇	
二五Pケーブル架設	〃			一八四	一八四	
〃　撤去	〃			一八五	一八五	
〃　二八Pケーブル添架	〃		三七、九八〇	三七、九八〇	三七、九八〇	京都大阪間中繼線改良トシテ架設ノモノ
電線移設	〃		四七、七四四	四七、七四四	四七、七四四	
七クワツド裝荷線輪新設	箇		二四		二四	

第五項　搬送式通信設備

一　本設備ハ前項中繼線設備ト其ノ目的ヲ同フシ東京大阪間ノ通話輻輳ヲ緩和スル爲施設セシモノニシテ

既設中繼線ヲ利用シ東京大阪間ニ**ウエスターン**C—2—S型高周波搬送式電話三回路ヲ重疊セシメタルモノトス其ノ方法トシテハ品川及大阪ニ孰レモ端局裝置一組宛ヲ、名古屋ニ中繼局裝置一組ヲ新設シ東京品川間ハ品川ニ於ケル局部回路ノ延長トシ東京大阪間ニ高周波ニ依ル電話回路ヲ構成シタルモノトス

二　本設備ニ利用セラルル中繼線ハ東京(通)大阪(通)中繼一番及四番ノ二回線ニシテ一番線ヲ以テ常用トシ四番線ハ必要ニ應ジ一番線ト相互容易ニ切換得ル設備トナセリ尚本設備ハ高周波ニ依ル通話減衰ヲ尠少ナラシムル爲從來中繼線中品川京都及大阪ノ各構内ニ於テ**ケーブル**ニ收容シアリシ部分ヲ架空裸線ニ改良セル外各引込線モ亦他線ト分離セシメタルモノトス

三　本設備ニ依リ構成セラレタル中繼回線ニ關シテハ前項中繼線設備ニ於テ詳記セルヲ以テ本項ニハ之ヲ省略ス

搬送式通信設備施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計	
改良費支辨						
WE式端局裝置	組	一	一	一	二	
〃　中繼〃	〃					
電動發電機新設	箇	一	一		二	一KW
配電盤〃	〃	一			二	
電線添架延長	米	六〇〇		一、四九二	二、〇九二	
〃　架設〃	〃			四、四七〇	四、四七〇	

第六項　交換機設備及改良

(イ)　京都交換機ノ增備及改良

一　本設備ハ京都驛既設共電式二〇〇回線用二座席二臺ニテハ其ノ容量不足シ御大禮要務ノ爲假設セラルベキ各電話線ヲ收容スルノ餘地ナキノミナラズ將來增設ニ對スル餘裕モ殆ンドナキ狀態ナルヲ以テ之ヲ實裝二四〇容量三二〇回線外ニ磁石式加入者及中繼線ノ收容實裝六〇回線分ヲ具備セル二座席共電式交換機ニ取換同時ニ一臺同種ノモノヲ增設シタルモノトス

二　前項施設ニ伴ヒ在來交換室ハ狹隘ニシテ機器ノ設置不可能ナルヲ以テ隣接セル電信室内ニ約二・七五米喰込マセ交換室ヲ擴張セルト同時ニ電信室内各機械ノ裝置換ヲ施セリ

(ロ)　奈良**ホテル**交換機新設

一　本設備ハ奈良**ホテル**内各客室及事務室ニ市内公衆電話ト通話シ得ベキ電話機ヲ設置スルノ目的ニ依リ**ホテル**玄關脇ニ設置セル交換室ニ共電式一〇〇回線用二座席交換機一臺ヲ新設シ(内二〇回線分ヲ磁石式トシ遞信省加入者線收容ニ充當各客室及事務室ニ該交換加入電話機六十五箇ヲ設置セリ

二　本交換機ノ内容ハ鐵道事業用一般ノモノトハ聊其ノ趣ヲ異ニシ電話規則ノ制限ニ依ル遞信省制定標準ニ準據シ製作シタルモノニシテ其ノ内容及部分品ノ規格ニ關シテハ大阪遞信局ノ承認ヲ經タルモノトス

三　本交換機ニ接續スル遞信省加入者線ハ從來**ホテル**事務室ニ設置ノ二回線ヲ轉換器ニ依リ切換新設交換機ニ接續シ得ル裝置トシ常ニ交換機接續ヲ定位トシ必要ニ應ジ事務室ヨリ直接市内通話ヲ爲シ得ル事トセリ

四　本設備使用開始ト同時ニ既設**ホテル**内專用電話(**インター**、**ホーン**八箇及事務室ト自動車庫間專用電話)ハ總テ之ヲ撤去セリ

交換機設備、施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計
改良費支辨					
（京都交換機擴張）					
共電式交換機新設	箇			三	三
〃　撤去	〃			二	二
電線添架延長	米			六九	六九
電話機新設	箇			一	一
（奈良ホテル市内電話用交換機新設）					
共電式交換機新設	箇			一	一
電話機新設	〃			六五	六五
〃　撤去	〃			一〇	一〇
充電器新設	〃			一	一
配電盤〃	〃			一	一

第七項　氣送管設備其ノ他

（イ）京都電報氣送管增設改良

一　本設備ハ京都第一階廣場ノ鐵道案内所ニテ一般公衆電報ノ受附ヲ爲スタメ同所ト第二階ノ電信室間ニ直徑約五四粍(二吋四分ノ二)厚サ約一・六粍(十六分ノ一吋)ノ眞鍮製氣送管二條延長約一二〇米ヲ敷設シ兩所ニ發受機各一基ヲ設置セルモノナリ

二　前項施行ニ伴ヒ在來設備ノ氣送管用排氣電動**ポンプ**ハ容量小ナルノミナラズ設置以來約十五ケ年ノ日子ヲ經過セル爲不良箇所頻出セルヲ以テ之ヲ三相交流六〇**サイクル**、二二〇**ヴオルト**、三馬力ノ誘導電動機直結**スペンサー**、**ダービンポンプ**ニ取換ヘ尙氣送管内ニ**メツセンヂヤー**、**ギヤリヤー**ノ走行セザル場合電力ノ空費ヲ節約スル目的ニテ**パワー**、**コントロール**、**デヴアイス**ヲ裝置シタルモノナリ

三　前號ノ外既設ノ助役室及電信室ニ於ケル發受機ハ增設ノモノト一致セシムル必要上孰レモ取換ヘヲ爲セリ

（ロ）京都旅客案内用擴聲機增設

一　本設備ハ京都既設旅客案内用擴聲裝置ニ更ニ第一及第二乘降場ト停車場前臨時設置ノ團體待合所ニ各一箇宛ノ擴聲機ヲ設置シ併セテ既設**アナウンサー**用操縱器ノ取換及**コールボツクス**ノ新設ヲ爲セリ

（ハ）電鈴假設

一　本設備ハ京都ヨリ桃山行還幸ニ際シ御料馬車及諸員乘用自動車廻送ノ通路ニ當ル山科京都間及京都稻荷間ニアル師團街道橋二箇所竝稻荷桃山間ニ於ケル桓武天皇御陵前踏切道ニ於テ當該時刻通過ノ列車ニ對シ注意若クハ列車出發時刻ヲ加減セシムル爲師團街道二ケ所ニ對シテハ京都驛助役室ヨリ亦桓武天皇御陵踏切道ニ對シテハ桃山助役室ヨリ孰レモ相互合圖シ得ル樣押返シ電鈴ヲ設備シ警備擔當者ヲシテ其ノ取扱ヲ爲サシメタリ

（ニ）無線放送ノ設備

一　社團法人日本放送協會ノ請願ニ依リ御召列車御發着模樣ノ放送合圖用トシテ東京、名古屋、京都ノ各驛乘降場指示ノ箇所ニ電鈴用押釦ヲ設置シ上家内ハ被覆線ヲ敷設シ連絡セシムルコトトナリ出願者ヲシテ本設備ヲ施行セシメタリ

二　前號ノ外京都ニ於テハ京都驛ト京都御所間鹵簿通御ノ御模樣放送ノ目的ヲ以テ放送局ニ於テ停車場正面奉迎門ノ門柱内ニ**マイクロフオン**ヲ設置シ京都演奏所トノ連絡ヲ採ル爲停車場前廣場ノ支障トナラザル地點ニ地中線ヲ敷設スルコトヲ承諾施行セシメタリ

（ホ）皇禮砲發射合圖用電話及電鈴設備

一　第十六師團ニ於テハ京都稻荷間加茂川橋梁ノ下流加茂河原ニ砲列ヲ敷キ御召列車ノ京都御發着毎ニ皇禮砲ヲ發射スル爲其ノ合圖用トシテ京都東信號扱所附近ヨリ砲列場マデ電話及電鈴線假設ノ必要アリ當省通信線路ニ電線添架方交渉アリ承諾施行セシメタリ

氣送管設備其ノ他施設物件表

施設物件	單位	東鐵	名鐵	大鐵	合計
改良費支辨					
（京都氣送管）					
氣送管敷設延長	米			一一〇	一一〇
同發受器新設	箇			〃	〃
〃　〃取換	〃			〃	〃
電動ポンプ〃	〃			〃	〃
電鈴新設	〃			〃	〃

第八項　工事工程及工事費

大禮費　　大禮關係工事工程及工事費調（甲）

件名	豫算金額 配布	豫算金額 施行	着手 年月日	竣功 年月日	決算金額 三年度	決算金額 計
臨時通信設備費					円	円
（東鐵）						
東京驛宮内省間電話設備	300	337	3—10—3	3—10—5	428.726	428.726
臨時短距離電話設備	1,800	1,692	3—10—1	3—10—5	1,735.367	1,735.367
計	2,100	2,029			2,164.093	2,164.093
（名鐵）						
臨時短距離電話設備	200	235	3—10—24	3—10—25	254.976	254.976
（大鐵）						
臨時短距離電話設備	3,000	3,162	3—10—13	3—10—28	2,765.239	2,765.239
臨時長距離電話設備	2,000	1,261	3—10—13	3—11—5	1,774.806	1,774.806
臨時電信機搭設	100	117	3—10—22	3—10—23	109.144	109.144
京都驛御所間電話設備	1,500	1,053	3—10—15	3—10—28	809.627	809.627
計	6,600	5,593			5,458.816	5,458.816
合計	8,900	7,857			7,877.885	7,877.885

本項各表中（甲）ハ本省ニ於テ大禮關係工事トシテ指定セルモノ
（乙）ハ鐵道局ニ於テ大禮關係工事トシテ一般配付豫算内ニテ施設セルモノヲ示ス

大禮關係工事工程及工事費調（甲）

改良費

件名	豫算金額 配布	豫算金額 施行	着手年月日	竣功年月日	決算金額 二年度	決算金額 三年度	決算金額 計
					円	円	円
通信設備費							
（東鐵）							
東京大阪間搬送式電話設備	45,000	45,450	3—9—10	3—10—13	—	45,173.328	45,173.328
（名鐵）							
東京大阪間搬送式電話設備	23,500	23,800	3—9—1	3—10—15	—	24,618.831	24,618.831
大府交換刈谷線外九回線新設	30,000	10,994	3—8—5	3—8—28	—	11,400.259	11,400.259
原富士線外十二回線新設其他		12,651	3—7—2	3—9—30	—	12,705.953	12,705.953
名古屋大阪電話中繼線新設	9,853	10,311	3—3—21	3—4—30	8,902.678	813.490	9,716.168
名古屋米原中繼五番線新設	13,600	14,981	3—5—27	3—7—15	—	14,445.193	14,445.193
米原京都中繼三番線新設	400	554	3—7—23	3—8—1	—	515.038	515.038
計	77,353	73,291			8,902.678	64,498.764	73,401.442
（大鐵）							
名古屋大阪中繼線新設其他	15,892	15,892	2—10—18	2—11—4	15,892.369	—	15,892.369
奈良山田中繼線新設	10,743	10,743	2—11—20	3—3—30	10,743.362	—	10,743.362
京都奈良中繼三番線新設其他	7,400	7,904	3—8—8	3—10—20	—	7,571.366	7,571.366
米原京都　〃	12,000	15,834	3—7—2	3—10—25	—	15,074.424	15,074.424
京都驛交換機改良	30,000	29,859	3—7—28	3—10—7	—	29,445.396	29,445.396
東京大阪間搬送式電話設備	45,000	45,656	3—9—1	3—10—15	—	42,654.600	42,654.600
龜山奈良中繼三番線外二回線新設其他	30,200	39,070	3—7—3	3—10—25	—	26,095.803	26,095.803
龜山山田中繼三番線新設其他					—	12,320.723	12,320.723
奈良ホテル電話交換設備新設	8,000	9,365	3—10—1	3—10—20	—	9,845.740	9,845.740
京都驛電話交換室間仕切移轉其他						550.000	550.000
京都交換草津線新設其他						4,027.990	4,027.990
草津交換彦根二番線變更其他						882.800	882.800
京都交換大津四番線ヲ石山ニ延長其他						145.661	145.661
京都保線區外一個所電話機設備						121.162	121.162
京都驛構內架空電線路新築	20,000	15,974	3—5—31	3—7—28		314.376	314.376
大阪通信所ニ搬送式電話裝置用電源設備						2,800.607	2,800.607
關西線電話回線增設其他						1,596.495	1,596.495
參宮線電話回線增設變更						2,798.368	2,798.368
奈良交換祓傍線新設其他						2,543.889	2,543.889
湊町保線事務所管內保線用電話線增設其他						4,644.985	4,644.985
計	179,235	190,297			26,635.731	163,434.385	190,070.116
合計	301,538	309,038			35,538.409	273,106.477	308,644.886

改良費　大禮關係工事費調(乙)

件名	決算金額 三年度	決算金額 計
電氣信號設備費	円	円
京都驛信號機型式變更ニ伴フ自動信號機基礎新設其他	1,987.000	1,987.000
京都入換信號機其他型式變更	29,871.000	29,871.000
計	31,858.000	31,858.000

保電費　大禮關係工事費調(乙)

件名	決算金額 三年度	決算金額 計
通信關係	円	円
(東鐵)		
品川驛構內「リーバー」改修ニ伴フ電氣鎖錠器移轉	392.044	392.044
本省東京通信所中繼191番外5回線假設	43.960	43.960
東京田町間電車線路上部橫斷電線張替	516.599	516.599
田端鶴見間　〃	386.761	386.761
新橋及神田驛高聲電話機臨時設備	116.420	116.420
大井工場構內地方饗饌場臨時高聲電話其他設備	62.450	62.450
原宿信號扱所外五ケ所軌道橫斷引込線張替	416.870	416.870
惠比壽轉轍手詰所外六ケ所　〃	682.180	682.180
荻窪驛外二ケ所軌道橫斷架空線張替其他	55.778	55.778
新宿大久保間外一ケ所軌道橫斷架空線ヲ地下ケーブルニ變更	45.693	45.693
計	2,718.755	2,718.755
(大鐵)		
柘植德和間各驛不良電線張替	166.487	166.487
相可口鳥羽間　〃	106.870	106.870

保電費　大禮關係工事工程及工事費調(甲)

件名	豫算金額施行	着手 年月日	竣功 年月日	決算金額 三年度	決算金額 計
通信關係				円	円
(東鐵)					
田町驛構內轉轍器設置ニ伴フ電氣保安設備其他	504	3—10—20	3—10—30	493.066	493.066
東京通信所大阪通信所電信一番線外二回線臨時變更	80	3—10—26	3—10—30	162.600	162.600
計	584			655.666	655.666

改良費　大禮關係工事費調(乙)

件名	決算金額 三年度	決算金額 計
通信設備費	円	円
(名鐵)		
名古屋驛通信用電動發電機配線設備	3.130	3.130
(大鐵)		
京都電報氣送管改良並增設	6,695.200	6,695.200
京都大阪間電信用架空ケーブル接續並裝荷	34,905.000	34,905.000
京都大阪間ケーブル架設	144,683.000	144,683.000
高槻驛內ケーブルハウス新設	533.000	533.000
京都大阪間裝荷線輪臺設置	2,702.820	2,702.820
高槻驛構內ケーブルハウス新設ニ伴フ電燈新設	30.000	30.000
計	189,549.020	189,549.020
合計	189,552.150	189,552.150

保電費　大禮關係工事費調(乙)

件名	決算金額 三年度	決算金額 計
	円	円
奈良驛信號機增設移轉其他	196.704	196.704
草津交換大原市場外一回線臨時回線變更	77.710	77.710
鐵道大臣官舍ヘ電話機設備	67.430	67.430
京都大禮博覽會東鐵道案內所電話機設備	402.211	402.211
京都晴鴨樓線變更其他	85.619	85.619
東京鐵道局職員集會所ヘ電話機設備	106.093	106.093
鐵道大臣官舍用電話線借入	54.000	54.000
名古屋鐵道局職員詰所ニ電話機假設備	42.818	42.818
鐵道省政務次官官舍ニ　〃	417.700	417.700
京都大禮博覽會西鐵道案內所ニ電話機設備	95.790	95.790
京都驛乘降場臨時待合所ニ擴聲器假設	29.600	29.600
草津驛電氣保安設備變更	366.828	366.828
計	2,215.860	2,215.860
合計	4,934.615	4,934.615

補充費　大禮關係工事費調(乙)

件名	決算金額 三年度	決算金額 計
	円	円
通信關係		
(大鐵)		
奈良驛信號機增設移轉其他	46.600	46.600
奈良ホテル電話交換室設備其他	256.000	256.000
梅小路構內助役室一ケ所ニ電話機設備	58.890	58.890
草津驛電氣保安設備變更	2,789.955	2,789.955
計	3,151.445	3,151.445

第二節　通信設備ノ運用

第一項　通信疏通ニ關スル手配

第一　御召列車運轉ノ際ニ於ケル通信疏通ニ關スル手配

御召列車運轉ノ際通信疎通ノ方法トシテハ一般行幸啓ノ場合ト同樣明治四十五年一月達第一三號(御召列車警護ニ關スル件)ニ依リ通常電報ノ通信停止ヲ爲サシムルコトトシ關係驛所ヲシテ行幸啓ノ都度之ヲ施行セシメタリ尙御召列車運轉區間ニ於ケル電話中繼線及區間電話線ノ一部ヲ指定シ一時限リ通常通話ノ接續ヲ停止シテ非常通話又ハ御召列車ノ通告ヲ受ケタル通話ニ對シテハ特ニ接續上遺憾ナキヲ期セシメタリ

今警備ニ供シタル通信回線ヲ關係局別ニ擧クレハ左ノ如シ

東京鐵道局

電信線之部

施行月日	回線名	施行月日	回線名
御召列車(往)		御召列車(往)	
十一月六日	東京(通)品川電信線	十一月六日	東京(通)沼津電信一番線
〃	東京(通)川崎電信線	〃	東京(通)沼津電信二番線
〃	東京(通)横濱電信一番線	〃	東京(通)大塚電信線
〃	東京(通)大船電信線	〃	東京(通)國分寺電信線
〃	東京(通)國府津電信線	〃	東京(通)八王子電信二番線
〃	東京(通)山北電信一番線		
同上(復)		同上(復)	
十一月十七日		十一月十七日	
〃		〃	
〃		十九日	
〃		〃	
〃		〃	

電話中繼線之部

施行月日		回線名
御召列車(往)	同上(復)	
十一月六日	十一月廿七日	東京(通)品川中繼重信一番線
〃	〃	東京(通)横濱中繼一番線
〃	〃	東京(通)大船中繼重信一番線
〃	〃	東京(通)國府津中繼重信一番線
〃	〃	東京(通)沼津中繼重信一番線
〃	〃	品川横濱中繼重信一番線
〃	〃	横濱大船中繼重信一番線
御召列車(往)	同上(復)	大船國府津中繼一番線
十一月六日	十一月廿七日	國府津沼津中繼重信一番線
〃	〃	東京(通)新宿中繼一番線
〃	〃	東京(通)八王子中繼一番線
〃	〃	新宿品川中繼一番線
〃	〃	新宿八王子中繼一番線

名古屋鐵道局

電信線之部

施行月日		回線名
御召列車(往)	同上(復)	
十一月六日	十一月廿七日	沼津靜岡電信一番線
〃	〃	〃　二番線
〃	〃	靜岡濱松電信一番線
〃	〃	〃　二番線
〃	〃	靜岡豐橋電信併用線
〃	〃	靜岡岡崎電信線
御召列車(往)	同上(復)	靜岡大府電信線
十一月六日	十一月廿七日	大府名古屋電信線
〃	〃	名古屋大垣電信一番線
〃	〃	〃　二番線
〃	〃	名古屋米原電信一番線

區間電話同線之部

施行月日		回線名
御召列車(往)	同上(復)	
十一月六日	十一月廿七日	沼津交換富士線
〃	〃	靜岡交換富士線
〃	〃	蒲原線
〃	〃	由比線
〃	〃	江尻一番線
〃	〃	島田一番線
〃	〃	濱松交換島田線
〃	〃	掛川線
〃	〃	袋井線
〃	〃	新居町(併用)一番線
〃	〃	豐橋交換新居町(併用)線
〃	〃	蒲郡線
〃	〃	幸田線
〃	〃	安城線

電話中繼線之部

施行月日		回線名
御召列車(往)	同上(復)	
十一月六日	十一月廿七日	沼津靜岡中繼一番線
十一月六日	十一月廿七日	大府交換岡崎二番線
〃	〃	〃　一番線
〃	〃	〃　熱田二番線
〃	〃	名古屋交換熱田三番線
〃	十一月七日	〃　枇杷島二番線
〃	十一月廿六日	稻澤交換枇杷島一番線
〃	〃	〃　尾張一ノ宮線
〃	〃	岐阜交換尾張一ノ宮線
〃	〃	〃　穗積一番線
〃	〃	大垣交換穗積線
〃	〃	〃　關ヶ原線
〃	〃	大垣米原交換(併用)一番線
〃	〃	米原交換柏原線
〃	〃廿九日	八王子交換東淺川一番線
御召列車(往)	同上(復)	靜岡濱松中繼一番線
十一月六日	十一月廿七日	

施行月日	回線名
十一月六日	靜岡名古屋中繼一番線
〃	靜岡豐橋中繼一番線
〃	濱松豐橋中繼一番線
〃	濱松名古屋中繼一番線

大阪鐵道局

電信線之部

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月七日	十一月廿六日	米原大阪(通)電信(併用)一番線
〃	〃	〃　二番線
〃	〃	〃　三番線
〃	〃	大阪(通)柘植電信一番線
〃 十九日	〃 廿二日	龜山湊町電信(併用)一番線

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月十九日	十一月廿二日	湊町山田電信一番線
〃	〃	〃　二番線
〃 廿三日	〃 廿三日	京都湊町電信(併用)線
〃 廿五日	〃 廿五日	湊町宇治電信(併用)線
〃	〃	奈良湊町電信一番線

區間電話回線之部

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月七日	十一月廿六日	草津交換彦根一番線
〃	〃	〃　能登川一番線
〃	〃	〃　近江八幡一番線

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月七日	十一月廿六日	草津大津一番線
〃	〃	京都交換大津二番線
〃 十九日	〃 廿二日	草津交換三雲線

施行月日	回線名
十一月十七日	豐橋大府中繼線
〃	豐橋名古屋中繼一番線
〃	大府名古屋中繼線(併用)一番線

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月十九日	十一月廿二日	草津貴生川一番線
〃	〃	柘植交換貴生川線
〃	〃	〃　關線
〃	〃	龜山交換津一番線
〃	〃	松阪交換津一番線
〃	〃	〃　相可口線
〃	〃	山田交換相可口線
〃	〃	〃　宮川線

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月十三日	十一月十二日	京都交換宇治線
〃 十一月廿五日	〃 十一月廿五日	奈良交換宇治線
〃	〃	〃　玉水線
〃 廿三日	〃 廿三日	〃　丹波市線
〃	〃	〃　櫻井一番線
〃	〃	〃　高田線
〃	〃	王寺交換櫻井線

電話中繼線之部

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月七日	十一月廿六日	米原草津中繼一番線
十一月七日	十一月廿二日	草津京都(併用)一番線
十一月十九日	〃 廿六日	草津柘植中繼線
十一月十九日	〃 廿二日	龜山柘植中繼線

施行月日 御召列車(往)	施行月日 同上(復)	回線名
十一月十九日	十一月廿二日	龜山松阪中繼(併用)一番線
〃	〃	松阪山田中繼(併用)一番線
〃 廿三日	〃 廿三日	京都奈良中繼一番線
〃 廿五日	〃 廿五日	

而シテ左記ニ依ル御召列車ノ運轉狀況報告電報及同電話ハ特ニ取扱方ニ注意シ當時關係驛所ハ迅速正確ニ之ヲ取扱ヒ御召列車運轉監理上相當ノ效果ヲ齎セリ

「參考」

◎御召列車ノ警護ニ關スル件明治四五、一、一五達第一三號(拔萃)

第二十七條　御召列車ノ運轉區間ニ於ケル電信回線ニテハ通常電報ノ通信ヲ爲スヘカラス但シ二回線以上アル區間ニ於テハ最短電信回線ノミニ限ル

◎大禮關係輸送事項中「御召列車運轉及警護ニ關スル件」(昭和三年十月二日鐵大禮運第二一號)抜萃

三十　御召列車運轉狀況ヲ左記驛ヨリ直接本省運輸局運轉課及京都本省派出員宛即報スルコト

東京、山北、沼津、靜岡、濱松、名古屋、米原、京都、柘植、山田、畝傍、桃山、原宿(除京都派出員東淺川同上)

三十五　御召列車ノ運轉ニ關シ特ニ緊急ヲ要スル電話ヲ爲サムトスル場合當該回線使用中ナルトキハ「御召列車」ト通告シ他ノ通話ノ中止ヲ要求シ又要求ヲ受ケタルトキハ直ニ之ニ應シ通話ニ支障ナカラシムルコト

三十六　御召列車運轉當日ハ關係長主任ニ於テ適當ノ者ヲ選ミ必要ト認ムル電話機設置箇所ニ配置シ通話ノ取扱ヲ爲サシムルコト

第二　鐵道電報ノ取扱方

鐵道電報ハ一般ニ增加スヘキヲ以テ特ニ大禮關係電報ノ速達ヲ期スル爲メ十月十八日公報通報ニ左ノ如ク掲載シテ通信ノ疎通ヲ圖レリ

而シテ發信ヲ簡便ナラシムルト共ニ著信ノ速達ヲ期スル爲利用者取扱者間ニ電話ヲ以テ電報ヲ發受シ得ルノ制度ハ名古屋、大阪兩鐵道局管內ニ於テ區域ヲ指定シテ既ニ實行シ恒ニ效果ヲ收メツツアルニ鑑ミ東京鐵道局ニ於テハ今次大禮ニ際シ之ヲ利用セハ相當效果アルヘキヲ豫想シ同局管內ニ對シ十一月一日ヨリ右取扱ヲ開始シ名古屋、大阪兩鐵道局ト共ニ電報利用者ノ利便ヲ圖レリ

御大禮關係鐵道電報及鐵道電話取扱方ノ件(公報通報)

御大禮關係鐵道電報及鐵道電話ハ一般規定ニ依ルノ外左記各號ニ依リ取扱フヘシ

一　大禮關係ノ電報ヲ發信スルトキハ發信者ニ於テ電報用紙餘白ニ「大禮關係」ト記載シテ差出スコト

二　大禮關係ノ電報ハ非常報至急報及通常報ノ各種類ニ應シ他ノ電報ニ先チ送達スルコト

三　大禮關係ノ電報ヲ傳送スルトキハ「大禮關係略號(レイ)」ノ記事ヲ添附スルコト

四　大禮關係ノ電報ヲ受信シタルトキハ其ノ原書餘白ニ「大禮關係」ト朱書シ配達ニ附スルコト

五　電話交換ヲ介シ大禮關係ノ通常通話ヲ爲ス場合ハ電話掛ニ對シ「大禮關係」ト通告シ接續ヲ要求スルコト

六　電話係ニ於テ前號ノ要求ヲ受ケタルトキハ他ノ通常通話ニ先チ接續スルコト

話中其ノ他ニ依リ直ニ接續シ得サルトキハ通話順序記錄方ニ依リ取扱フコト

第三　鐵道電話ノ取扱方

鐵道電話ハ平常ニ比シ著シク輻輳ヲ來シ之カ爲大禮關係通話ノ疏通ニ影響ヲ及ホスヘキニ付該通話ハ通話申込ノ際電話掛ニ對シ「大禮關係」ト通告セシメ一般通話ニ優先接續セシムル方法ヲ講シタリ而シテ話中其ノ他直ニ接續シ得サルトキハ通話順序記錄方ニ依ルコトトシ以テ利用者ノ便益ヲ圖リ且ツ交換作業及電話中繼線ノ能率ヲ良好ナラシメタリ(前號公報通報第五、第六參照)

第四　御用電報其ノ他公衆電報ノ取扱方

大禮ニ伴フ御用電報及一般公衆電報ハ京都ヲ中心トシテ相當發信セラルヘキヲ以テ大阪鐵道局ニ於テハ其ノ取扱方ニ關シ左記事項ヲ局報ニ掲載シテ注意ヲ喚起スルトコロアリタリ

一　御親電及御用電報ノ取扱ニ付テハ特ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ苟モ遲延誤謬等ノ事故ナキヲ期シ且最先ニ取扱フコト

二　御親電及御用電報ヲ傳送スルトキハ冒頭ニ「**ゴヨウ**」ト二回傳送シ對手局ニ注意ヲ與ヘ且「**ゴヨウ**」ナル局內心得ヲ附シ尙該電報中ノ暗號ハ反覆校正スルコト

三　新聞電報ハ電報取扱時間ニ拘ラス取扱フヘキモノナルヲ以テ時間外差出ノ場合モ「**ララ**」ノ指定ヲ要セサルコト

四　新聞電報ノ發受信人ハ發信證票若ハ後納發信券綴ニ記載シアル發受信人名ト同一ナルコトヲ要スルコト

五　新聞電報ヲ至急ノ取扱ト爲スコトヲ得ルコトトナリタルカ其ノ至急料ハ新聞電報料ノ二倍即チ至急新聞電報料ハ一般新聞電報料ノ三倍ニシテ種類欄ニハ相當略號ノ次ニ至急私報ニ略號ヲ記載スルコト

六　機械調度ニ注意シ應答ヲ迅速ナラシムルコト

七　傳送順位ニ注意シ且室內經過時分ノ短縮ニ努ムルコト

八　通信速度ニ留意シ其ノ調節ヲ計ルコト

九　通信回線障害又ハ通信輻輳ニ際シテハ其ノ措置ヲ誤ラサルコト

第五　鐵道電報ノ直通通信

大禮關係電報ノ往復頻繁ナルヘキ關係箇所ニ對シ直通電信回線ノ新增設及接續所變更ヲ行ヒ左記驛所間直通通信ヲ爲サシメ以テ鐵道電報ノ速達ヲ圖レリ

イ　省內電信所對京都

ロ　同　對龜山、奈良、湊町

ハ　東京通信所對龜山、奈良

ニ　京都　對畝傍

ホ　同　對龜山、山田

第六　搬送式電話ノ施設運用

從來東京京都間ニ於テハ直通中繼線ヲ有セス又東京大阪間ニ於テハ中繼線四回線ヲ有スルモ一通話ノ待合セ時間約一時間ヲ要スル狀態ニシテ大禮ニ關シ增加スヘキ通話ヲ消化スルコト困難ナルヘク前記二區間ニ中繼線ノ新增設ヲ必要トスルモ實回線ニ依ルトキハ相當經費ヲ要スルヲ以テ東京大阪間ニ搬送式電話裝置ニ依ル中繼線三回線ヲ新設シ十一月一日ヨリ之ヲ施行シタリ

右裝置ニ依ル通話時間ハ每日午前九時ヨリ午後六時迄トシ必要ニ應シ其ノ時間ヲ延長使用セシメタリ

尙本裝置回線ニ依ル通話ノ明瞭度ハ實線ニ比シ極メテ良好ニシテ且東京京都間及東京大阪間ノ通話激增シタルニモ拘ハラス殆ト待合時間ナク通話シ得タルハ一ニ本裝置ノ效果ト謂フヘシ

第七　鐵道電報用略號ノ制定

大禮使鐵道部ノ分掌事務遂行上其ノ他ノ爲京都市ニ鐵道省京都臨時出張所設置セラレ同所ト本省及關係各所間トニ大禮事務上鐵道電報ノ照復アルヘキヲ以テ同所ニ對シ鐵道電報用略號ヲ附スルノ要ヲ認メ左ノ如ク之ヲ制定シテ昭和三年十月二十二日公報號外(大禮關係)ニ揭載セリ

鐵道省京都臨時出張所　**キトテツハ**

又大禮關係鐵道局其ノ他ニ於テハ京都及山田ニ當該局、事務所等ノ所屬職員ヲ駐在セシメ關係箇所相互連絡ノ保持ニ任シタルヲ以テ各其ノ出張所詰所等ニ對シ左ノ如ク鐵道電報用略號ヲ設ケタリ

名稱	略號	備考
東京鐵道局京都臨時派出所	**キトトキハ**	(東鐵、大鐵管內相互間ニ使用)